

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 人間関係論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義・演習		授業担当者 永原 直子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター	卒業：必修	資格：必修	
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 人間関係の形成についての要因やコミュニケーションの基礎を理解し、説明できるようになる。また、介護福祉士として働く上で必要とされる対人関係とコミュニケーションのスキルを理解し実践できる。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 人間関係を築く要因が何かを理解した上で、他者との関係性や状況に応じてそれらを活用する手法を、グループワーク演習を通して学ぶ。					
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 対人関係の形成に必要なコミュニケーションスキルを学び、状況に応じた適切なコミュニケーションについて自ら考えられるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 対人関係・コミュニケーションの意義 言語コミュニケーションと準言語コミュニケーションの重要性についてグループワークを通して理解する			演習のまとめを振り返り、授業のポイントを確認すること。（5分）		
2) 対人関係・コミュニケーションの概要 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの違いと特徴をグループワークを通して学ぶ			演習のまとめを振り返り、授業のポイントを確認すること。（5分）		
3) 言語コミュニケーション1 状況とメッセージの内容が、相手にどのように伝わるのかを知り、適切な声かけの特徴をグループワークを通して考える			演習のまとめを振り返り、授業のポイントを確認すること。（5分）		
4) 言語コミュニケーション2 敬語について学ぶ			演習のまとめを振り返り、授業のポイントを確認すること。（5分）		
5) コミュニケーション技術1 相槌や姿勢、繰り返しの技法の演習を通して、相手が話しやすい聞き方を学び、グループワークを通して傾聴について考える			演習のまとめを振り返り、授業のポイントを確認すること。（5分）		
6) コミュニケーション技術2 要約の技法、共感の技法を用いたグループワークを通して、相手が話しやすい聞き方を学び、受容的態度の重要性を考える			演習のまとめを振り返り、授業のポイントを確認すること。（5分）		
7) 情報伝達・指示の技法 グループワークを通して的確な情報伝達と指示の出し方について学ぶ			演習のまとめを振り返り、授業のポイントを確認すること。（5分）		
8) 助言の技法 相手に合わせた助言の方法について、グループワークを通して考える			演習のまとめを振り返り、授業のポイントを確認すること。（5分）		
9) 質問の技法 自己決定を促すための質問の仕方についてグループワークを通して考える			演習のまとめを振り返り、授業のポイントを確認すること。（5分）		
10) わかりやすい記述 相手に誤解なく伝わり、適切な表現を用いた文章の書き方について学ぶ			演習のまとめを振り返り、授業のポイントを確認すること。（5分）		
11) 他者との連携と自己理解 他者と協力して活動するために必要な態度について考え、エゴグラムで自分の特徴を知る			演習のまとめを振り返り、授業のポイントを確認すること。事前に配布する演習シートに各自取り組んでおくこと（20分）		
12) ディスカッション 集団討議や会議に必要な態度について、グループワークを通して学ぶ			演習のまとめを振り返り、授業のポイントを確認すること。（5分）		
13) 他者理解 他者をどのように理解しているのかを知る			演習のまとめを振り返り、授業のポイントを確認すること。（5分）		
14) 自己覚知と他者理解 自分から見た自分と、他者から見た自分の違いを考える			演習のまとめを振り返り、授業のポイントを確認すること。（5分）		
15) 筆記による到達度の確認を行う。			これまでの授業内容を振り返り、ポイントを確認しておくこと（1時間）		
[使用テキスト] 指定しない 毎回授業時に資料を配付する					
[参考文献]「人間関係とコミュニケーション 体験学習型ワークブック」諏訪茂樹編著、建帛社					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（100%）		授業内で解説したポイントについて理解できているかを問う筆記試験を実施する。			

②実技・作品発表等 (%)	
【定期試験】	
①筆 記 試 験 (%)	
②レ ポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]最終講の到達度の確認終了後に解説を行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

5110111

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 社会福祉概論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 古川 利通	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター	卒業：必修	資格：必修	
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 学生は、現行の社会保障制度の考え方、歴史、しくみの基本を理解する。とくに、年金制度や地域における医療・介護の総合法の要点を説明できるようになること。				主に対応するDP 2	
[授業全体の内容の概要] 生活と福祉の内容を、①生活構造・家庭生活の基本機能、②家族、地域、社会・組織の概念や機能・役割、③ライフスタイルの変化④生活の支援と福祉について学ぶ。2. 社会保障制度発達史や制度の仕組みを学ぶ					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護福祉士として福祉現場において、実践を展開するに必要な社会福祉に関連する考え方や知識、制度の歴史や内容の理解、社会資源の活用等についての他人に説明できる知識・考え方を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション①本科目の全体構造の説明、②カリキュラム全体の中で、「介護」をバックアップする人間と社会の領域の一環として学ぶべき視点を明らかにし、社会における介護福祉士の役割と任務の理解を促通する。			現代日本の社会福祉は、日々変化しています。大きな頭のアンテナをもって、きみたちの周囲で起こり、話されている“年金”や“介護”“保育”“生活保護”“障害者”などの事柄を注意深く集めておくこと。新聞からも一週間にひとつの記事は切り抜いておくこと。授業感想表にふだん気付いたことや考えたことを記述する。		
2) 生活構造の理解と家庭生活の基本機能: 介護福祉士のケア内容の中核である利用者を支え、ともに創る「生活とはなにか」について考える。併せて、家庭生活を成立させる機能について構造的に学ぶ					
3) 家族：社会の基本単位である「家族」を理解する。家族理解のために、①家族の概念と変容②構造や形態③機能や役割④家族観の多様化の視点から学ぶ。					
4) 地域：地域に生きる個人にとって地域とは何かについて理解する。そのために①地域の概念、②コミュニティの概念、③都市化と地域社会、④過疎化と地域社会、⑤地域社会の集団と組織について学ぶ。					
5) 社会と組織：個人と社会の関係を理解する。そのために、①社会・組織の概念、②社会・組織の機能や役割を学ぶ。 総じて、人間を個人、家族、地域、社会・組織の関係で捉える意味を理解する。					
6) 現代におけるライフスタイルの変化：社会・経済の進展、変化にともない、個々人ライフスタイルが変化している。女性労働の変化、少子・高齢化、健康寿命の延長、余暇時間のありかた、生涯学習、地域活動への参加等について考える					
7) 生活の支援と福祉：生活と福祉のまとめの意味を含めて、生活の支援と福祉について考える。①福祉の考え方と変遷について、②自助、公助、共助について学ぶとともに、介護福祉士の任務と役割についても論及する。					
8) 社会保障の基本的な考え方: わが国の社会保障の基本的な考え方を理解するために、①社会保障の概念と範囲、②社会保障の役割と意義、③社会保障の理念、④社会保障の対象について学ぶ。					
9) 日本の社会保障制度の発達（その１）：①戦後日本の社会保障制度の基本的考え方の根拠として、憲法第 25 条を学ぶ。 ②戦後の緊急援護と基盤整備、③国民皆保険、国民皆年金、④福祉 6 法成立について学ぶ。					
10) 日本の社会保障制度の発達（その２）：わが国の社会保障制度の方向と諸問題について学ぶ。①社会保障費用の適正化・効率化、②ノーマライゼーション、③地方分権、④地域福祉の充実、⑤社会福祉基礎構造改革から学ぶ					

11) 日本の社会保障制度のしくみ（その１）：その基礎的理解のために、 ①社会保障の制度の体系、②社会保障制度の財源について学び、わが国の 社会保障制度の骨格を理解する。	
12) 日本の社会保障制度のしくみ（その２）：社会扶助、社会保険の意義 を理解するとともに、①公的保険制度、②民間保険制度等の具体的内容を 学ぶ。	
13) 現代社会と社会保障制度：わが国のこれからの社会保障制度の課題と 展望を考えるために、①人口動態の変化、②少子高齢化、③社会保障の給 付と負担、④持続可能な社会保障制度について検討する。	
14) 社会福祉基礎構造改革：介護保険制度および障害者自立支援法への接 続するために、①社会福祉基礎構造改革の内容 ②措置制度から利用契約制度への転換の意義について学ぶ。	
15) 地域福祉の概略	
[使用テキスト] 『毎回レジュメ』 『社会福祉小六法』（ミネルヴァ書房）	
[参考文献] 『最新 介護福祉士養成講座（全 15 巻）②【社会制度と理解】』（中央法規出版）	
[評価の実施方法と基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（ 36 %）	授業期間内の評価：36%
②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（ 64 %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験・レポート課題について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2110113

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 介護福祉制度論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 山口 大輔	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
				卒業：選択	資格：必修
☑ 実務経験	特別養護老人ホーム 施設長・介護支援専門員・生活相談員				
[授業の目的・ねらい] 学生が介護現場で働く際に、利用者お一人おひとりへの介護・支援業務が広く国民の暮らしの安心を担う社会性のある職務であることに自信を持って説明できるよう、社会保障制度の内、介護保険制度を中心に権利擁護の視点と各種施策について基礎的知識および概要を説明できるようになる。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 今日介護・障がい者の課題について多面的な視野で考察できる力を養うために、介護保険法を中心に対象者に関わる各法律・諸制度の具体的な対象・内容を、社会的背景の変遷に連動する形で立案されていった経緯を説明できるようになるため、講義またはグループワークを通じて理解する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護福祉士としての社会的使命を理解し、介護保険制度の成立された社会的背景と仕組み、諸制度利用に当たっての概要及び対象者、サービス内容について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1)オリエンテーション・ライフスタイルの変化 生活と働き方の変化、家族と世帯の変容について理解できる。			【予習】介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解（P 9～P 20）※15分		
2)日本の高齢化の現状と高齢者保健福祉における課題 日本の高齢化の特徴と介護問題（介護離職・介護人材の不足・ヤングケアラー等）について理解できる。			【予習】介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解（P 119～P 126）※15分		
3) 介護保険制度のしくみ（1） 介護保険制度の基本的な仕組み（対象者、保険料の徴収方法、財源等）について説明ができるようになる。			【予習】介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解（P 119～P 148）※15分		
4) 介護保険制度のしくみ（2） 介護サービス利用までの流れ①:介護申請―訪問調査―介護度決定―ケアプラン作成―サービス利用までの具体的な流れが説明できるようになる。 2号被保険者について説明ができるようになる。			【予習】介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解（P 149～P 159）※15分		
5) 介護保険制度のしくみ（3） 介護サービス利用までの流れ②:利用できるサービスの対象者と支援内容について説明を聞き、概要がイメージできるようになる。			【予習】介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解（P 159～P 168）※15分		
6) 介護保険制度の動向について 介護保険制度改定の歴史について理解し、どのような方向性を目指すことが望ましいか考えることができる。			【予習】介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解（P 185～P 195）※15分		
7) これまでの授業の復習と試験対策 過去問頻出問題を解き、その問題に取り上げられた諸制度について複合的に出題されることを確認し、過去問の解答の正誤を理由とともに述べるができるようになる。			【予習】 1)～6)までのレポート ※15分		
8) 介護実践に関連する諸制度（1） 地域包括支援センターの基本的な役割を理解し、説明できるようになる。 3職種の役割分担、権利擁護の視点。社協で実施されている支援事業について説明ができるようになる。			【予習】介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解（P 173～P 181）※15分		
9) 介護実践に関連する諸制度（2） 成年後見制度と日常生活自立支援事業について学び、これらの制度の必要性について意見交換を行う。併せて介護者として実際支援するときの基本的な知識として説明できるようになる。			【予習】介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解（P 260～P 269）※15分		
10) 介護実践に関連する諸制度（3） 高齢者虐待防止法：法の概要、虐待の定義と虐待に関する諸調査からの特徴とその理由を実際の虐待事例などを通して理解できる。			【予習】介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解（P 254～P 259）※15分		
11) 介護実践に関連する諸制度（4） （3）の続き。養護者の義務・施設での介護者の義務と人権について説明できるようになる。			【予習】介護福祉士養成講座 第2巻 社会の理解（P 254～P 259）※15分		

12) 介護実践に関連する諸制度（５） 障害をお持ちの方や生活に困窮されている方への各種施策について概略の説明ができるようになる。複合的な課題をお持ちの方への支援策を考え、自身の意見を述べる事が出来るようになる。	【予習】介護福祉士養成講座 第２巻 社会の理解（P 260～P 269）※15分
13) 介護実践に関連する諸制度（６） 地域で生活するための行政・社協・住民主体等が協同する地域包括ケアシステムについて説明できるようになる。また利用する上での手続きや繋ぐ（連携する）相手先を説明できるようになる。	【予習】介護福祉士養成講座 第２巻 社会の理解（P 43～P 53）※15分
14) 地域包括ケアの取り組み 住民主体の生活支援を地域で構築するためにどんなことができるのか意見を出し合い、学生自身が地域の中でどんな役割を担えるのかについて述べる事ができるようになる。	【予習】介護福祉士養成講座 第２巻 社会の理解（P 43～P 53）※15分
15) 到達度の確認 授業内容の理解度を確認するための小テスト・レポートを実施する。	
[使用テキスト] 『最新 介護福祉士養成講座 第２巻 社会の理解』（中央法規）	
[参考文献] 新聞等で特集記事として配信される内容が多いため、「介護」「福祉」「高齢者」「障害」などのキーワードに留意して報道記事を探すこと。	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（100%）	授業内容の理解度を確認するためのテスト・レポートを実施する。
②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（ %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] テスト、レポートについて、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3010124

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 日本国憲法		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 古川 利通	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター	卒業：選択必修	資格：選択必修	
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 国民が主権者として裁判に参加する裁判員制度が発足する今、人間の生命、自由、幸福追求の尊重、福祉の実現のために、学生は高齢者を含め皆さん一人ひとりの人権を日本国憲法はどのように保障しているかを学びます。				主に対応するD P 4	
[授業全体の内容の概要] 日本国憲法は、国会・内閣・裁判所・象徴天皇制など統治構造の部分とさまざまな人権規定と平和主義にかかわる部分がありますが、ここではとくに重要な人権規定と平和主義について講義し、一緒に考えたいと思う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 高齢者や子どもの権利を尊重するためにも、介護福祉士になる皆さんが、一人の市民として、あるいは専門職として必ず身につける必要がある人権について、学生は説明できるようになること。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
0) 授業計画と試験方法、「勉強」の仕方について案内します。1) 憲法とは何か。憲法という法律の意義と役割、他の法律との違い、社会規範と法規範の区別、「法規範」の種類を理解する。			新聞記事に注意を払ってください。とくに、憲法改正問題、平和の問題（安保法、沖縄）、また高齢者の虐待など人権の問題について関心を持って読んでおいてください。授業感想表で様々な例をだして紹介してください。		
2) 日本国憲法の基本原理とその歴史、日本国憲法の基本原理である「人権の尊重」「平和主義」「議会制民主主義」は、「近代」憲法から「現代」憲法への発展の正統な潮流であることを知る。					
3) 刑法の旧尊属殺重罰規定と「法の下での平等」の原則を考える。「命」の平等と社会的身分、自由が生み出す不平等と現代の平等原則について考える。					
4) 労働者の思想の自由について考える。“思想の自由”とは何か。戦前日本における日本人の精神の自由に対する抑圧。					
5) 三菱樹脂高野事件を考える。現代社会における、勤労者の思想の自由の重要性、憲法の人権規定は、企業の中には及ばないのかという問題（人権の私人間効力）について考える。					
6) 生存権論① 自由権（財産権中心）から自由権・社会権への人権発展史のなかで、生存権の意義と役割を考える。憲法 25 条の暗記。					
7) 生存権論②憲法 25 条と生存権訴訟の原点である朝日訴訟をくわしく学ぶ。					
8) 個人の尊厳にもとづく生存権の具体化である“高齢者の人権”の憲法上の根拠を考える。					
9) 「高齢者の人権」から「介護保険制度」の問題点を検討する。					
10) 「高齢者の人権」の視角からさまざま介護実践を討論する。					
11) 人身の自由と刑事手続①日本国憲法はなぜ“人身の自由”を詳しく定めているか。無実であるのに、なぜ死刑判決を受けるのか。刑事手続の概要と問題点を学ぶ。					
12) 人身の自由と刑事手続②免田栄事件と島田事件という冤罪再審事件を取りあげ、日本の刑事手続、捜査方法。拘禁施設などの問題点を考える。					
13) 憲法 9 条論① 憲法 9 条はなぜ誕生したか。憲法 9 条は国民の安全保障にとって“邪魔”ものか。アメリカの“核の傘”論、在日米軍、自衛隊と日米安保条約体制と憲法 9 条「体制」を考える。					
14) 憲法 9 条論②「個別的自衛権」と「集団的自衛権」・・・東アジアの安全保障環境と沖縄の在日米軍基地、憲法 9 条の現代的意義を考える。					
15) とくに、日本の集団的自衛権の閣議決定と中国、韓国、北朝鮮など東シナ海と南シナ海の軍事情勢、そのなかで憲法 9 条の意味について、学生とともに討論する。					

[使用テキスト] 「社会福祉六法」 レジュメテキスト古川利通『日本の憲法』（改訂版）	
[参考文献] 芦部信喜『憲法 第三版』岩波書店	
[評価の実施方法と基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（ 30 %）	授業期間内の評価：30%
②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（ 70 %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験・レポート課題について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。	
[備考] 講義を聴きながらノートをとることができる力を身につけよう。板書を写しても、自分で考えなければ意味がありません。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

4220129

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 国際理解		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義・演習		授業担当者 永原 直子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
卒業：選択必修		資格：選択必修			
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 学生間の交流をととして豊かな人間性と社会性を身につけ、異文化の人とコミュニケーションを取れるようになる。積極的なコミュニケーションをする姿勢を身につけ、様々な価値観に触れる。					主に対応するD P 5
[授業全体の内容の概要] 様々な国籍の学生同士で共同作業を通じた交流を行う。また、学生同士で交流イベントを企画し、実施する。内容については授業内で決め、そのための準備活動等を通して交流を深める。					
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 異なる価値観や文化的背景を持つ他者と積極的に関わることができるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーションと自己紹介 本科目の説明、受講ルールおよび評価方法について説明する。 また、受講生同士で簡単な自己紹介をする。			日本語で1分程度の簡単な自己紹介ができるように準備しておく。（10分）		
2)～15) 授業内で取り組む内容についてグループディスカッションを通して受講生全員で決める。活動内容は受講者全員が参加可能で交流しながら取り組むことができるものであればなんでも良い。また、活動に際して役割分担をし、各自が積極的に取り組むことを求める。			取り組みの内容について、各自でやってみたいことを考えておく。（10分）		
[使用テキスト] 特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（100%）		授業および学生間交流への積極度、リアクションペーパーの提出と内容で評価する。			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 授業内での振り返りにおいてフィードバックを行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

5220111

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 介護福祉学		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 鴻上 圭太	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター	卒業：必修	資格：必修	
☑ 実務経験		障害児施設にて7年間の実務経験あり。その経験を本科目の目的全体に活かす。			
[授業の目的・ねらい] 介護の変遷や現在の介護を取り巻く環境等に深い関心を持ち、学ぶことで自ら考えられる力を身につけられるようになる。「介護を必要とする人」を生活の視点から捉えることができるようになる。介護の原則である人としての尊厳の保持、自立・自律、自己実現の視点を身につけ、実践できるようになる。				主に対応するD P 4	
[授業全体の内容の概要] 尊厳を支える介護・自律に向けた介護とは何か、②介護福祉士を取り巻く状況、③介護福祉士の役割と機能を支える仕組み、④介護サービスの概要、⑤介護実践における連携、等について授業を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 対象者の尊厳を護り、自立・自律に向けた介護を実践する介護福祉士の社会的使命について説明できる。また、介護福祉を取り巻く諸制度について、説明ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション及び介護福祉を取り巻く状況①。少子高齢化と健康寿命、家族の機能と役割について学ぶ			「社会の理解」P. 12～20、「介護の基本Ⅰ」p. 5-13 を予習しておくこと。		
2) 介護福祉を取り巻く状況② 人口、世帯の変化について学ぶ。			社会の理解」P. 12～20、「介護の基本Ⅰ」p. 5-13 を予習しておくこと。		
3) 介護福祉の基本理念について学ぶ。			「介護の基本Ⅰ」p. 53-63 を予習しておくこと。		
4) 介護福祉の歴史・福祉六法の成立過程や老人福祉法等高齢者施策の成立の歴史について学ぶ			「介護の基本Ⅰ」p. 21-51 を予習しておくこと。		
5) 介護福祉の歴史②・社会福祉士及び介護福祉士法の成立過程、及び介護福祉士の活躍の場と役割について学ぶ			「介護の基本Ⅰ」p. 68-91, p. 94-115 を予習しておくこと。		
6) 社会保障制度について学ぶ。基本的な考え方を学ぶ。			「社会の理解」p. 56-68 を予習しておくこと。		
7) 社会保障制度のしくみについて学ぶ。			「社会の理解」p. 81-87 を予習しておくこと。		
8) 年金制度について学ぶ。			「社会の理解」p. 87-92 を予習しておくこと。		
9) 後期高齢者医療制度を含む医療保険について学ぶ。			「社会の理解」p. 92-96, p. 133-135 を予習しておくこと。		
10) 介護保険について学ぶ①			「社会の理解」p. 136-194 を予習しておくこと。		
11) 介護保険について学ぶ②			「社会の理解」p. 136-194 を予習しておくこと。		
12) 障害者総合支援法について学ぶ			「社会の理解」p. 225-251 を予習しておくこと。		
13) 自助、互助、共助、公助について学ぶ。			「社会の理解」P. 28-30、「介護の基本Ⅰ」p. 79、「介護の基本Ⅱ」P64-65 を予習しておくこと。		
14) 地域包括ケアシステムと高齢者、障害者のフォーマル、インフォーマルサービスの概要について学ぶ。			「社会の理解」P. 50-53、171-175、「介護の基本Ⅰ」P. 77-79、「介護の基本Ⅱ」P. 48-70 を予習しておくこと。		
15) 地域連携にかかわる機関について学ぶ。			「介護の基本Ⅱ」P. 71-87 を予習しておくこと。		
[使用テキスト] 介護福祉士養成講座「社会の理解」「介護の基本Ⅰ」「介護の基本Ⅱ」					
[参考文献] 授業にて紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（30％）					
②実技・作品発表（ ％）					
【定期試験】					
①筆記試験（70％）					

②レポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 授業ごとに小テストを実施し、解説を行いながら正答の確認を行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

4110212

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 介護対象論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 小関 健太郎	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
				卒業：必修	資格：必修
☑実務経験 高齢者施設での経験を活かし、具体例を示しながら、介護を必要とする人の理解が深まるよう講義する。					
[授業の目的・ねらい] 介護の対象者である高齢者・障がい者等の理解をする。地域で生活をする、介護を要する状態で生活することの「生活のしづらさ」を理解することで、介護を必要とする人の理解と援助方法を学ぶ。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 介護を必要とする人が、尊厳を持って生きることを支える介護を実践するために、基本的な知識や考え方を学ぶ。高齢者、障がい者の生活や思いを理解し、利用者の視点に立てるようにする。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護福祉士として、身体的な介護の視点だけでなく、生活・情緒面に関われる視点を持つことが出来るようになる。自立に向けた介護とは何かを理解し、尊厳を持って生きることを支える介護が実践できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 「いのち」について考える			テキストの該当する箇所を読んでおくこと (10分)		
2) 高齢者が生きて来た時代背景を知り、歴史・生活・風習を理解する			予習（インターネットで戦前、戦後など昭和の時代について調べる）（15分程度）		
3) 介護とは 尊厳について考える			予習（教科書 p136-139 20分）		
4) 尊厳を支える介護とは 事例検討を通して理解を深める					
5) 障がいとは、生活に困っていることは、障がいを負うことはどのようなことを理解する障害者支援のサービス制度を理解する			予習（教科書 p192-196 20分）		
6) 自立を支える介護 自立支援の考え方 グループワーク			予習（教科書 p152-153 20分）		
7) 生命・身体に関する自己決定権について			予習（教科書 p157-159 20分）		
8) 高齢者のストレングス			予習（教科書 p177-179 20分）		
9) ICF の考え方 介護における ICF のとらえ方			予習（教科書 p172-176 20分）		
10) 自立支援と介護予防			予習（教科書 p180-190 20分）		
11) 認知症について 認知症ケアの歴史を振り返る					
12) 認知症について 事例検討を通して認知症の人の理解を深める					
13) 高齢者の終末期ケアについて 人生の最終段階の支援					
14) 高齢者の終末期ケアについて 事例検討					
15) 授業のまとめと到達度の確認					
[使用テキスト] 最新 介護福祉士養成講座 第3巻 介護の基本（中央法規）					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ 100%）		15回の授業の到達の確認としてレポートにて学んだことを振り返り、まとめる			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 筆記試験・レポート課題について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1110213

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） リハビリテーション		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 嘉内 寿	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター	卒業：選択必修	資格：必修	
☑ 実務経験 鍼灸マッサージ師での経験を活かし、他業種との連携について講義する。					
[授業の目的・ねらい] 自立に向けた介護を自ら考えられる力を身につけるために、①現場で共通する基本的な介護の知識・技能の根拠となるリハビリテーション理論を理解し、説明できるようになる。②適切な技能を習得するために、リハビリテーション専門職との連携を意識した基本的な力量を身に付け、実践できる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] リハビリテーションの理念リハビリテーション専門職種が行っている支援について概説する。実際に介護福祉士が行う支援方法を学ぶために、演習を加えながら解説する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・リハビリテーションの理念を理解し、介護福祉士との連携の基礎となる知識を修得する。 ・リハビリテーション専門職種が行う支援内容について概説できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業全体の内容の概要を理解する。リハビリと介護との関係性について理解する。			役所に行き、介護保険による訪問リハビリテーションに関するパンフレットを2、3冊入手しそれぞれの内容を一通り目を通し、金額や内容などを概ね理解しておく、加えて当院のパンフレットを一読し、医療保険を使つての訪問鍼灸、訪問マッサージに関して概要を理解しておく。		
2) 病院・施設でのリハビリテーションにおける役割について理解し説明できる。			高齢者医療に係る語句を調べておく。		
3) リハビリテーションを実施する際に行う様々な対象者への評価・治療・支援を理解し、適切に駆使できる。			介護サービスにおけるリハビリを担うサービス事業所を調べておく。		
4) 他職種との連携(1) 病院・施設におけるリハビリテーション関連職との連携について理解し説明できる。			リハビリ専門職に関して、それぞれの役割の違いを理解しておく・		
5) 他職種との連携(2) 在宅生活支援におけるリハビリテーション関連職との連携について理解し説明できる。			地域包括ケアシステムに関して調べておく。		
6) 介護福祉士としてご利用者様の状態を判断し、日常生活の中で活用できるリハビリテーションを指示できる。			生活リハビリという語句に関して予習しておく		
7) リハビリテーションと認知症の予防効果について理解し、それらを説明することができる。			認知症により起こる症状をあらかじめ調べておく。		
8) ICF の導入とリハビリテーションの考え方について理解し、説明することができる。			ICF の分類に関して、それぞれが意味することを調べておく。		
9) 寝たきり（廃用性症候群）の機序とその予防方法に関して理解し説明することができる。			高齢者の機能低下及びそのことに生じる問題に関して調べておく。		
10) 脳梗塞に対するリハビリテーションと生活の中での注意点などを理解し、実際にご利用者様に対して、アドバイスできるようになる			脳卒中に関して調べておく。		
11) 高齢者が起こしやすい骨折について、その機序と経過、リハビリテーションや生活の中での注意点を理解し、ご利用者様にアドバイスできるようになる。			高齢者と骨折に関して、なぜ起こるのか、それによりどのような状態なるのかを調べておく。		
12) 高齢者の加齢による身体的変化を理解し、リハビリテーション時のバイタルサインなどを理解し、リスクヘッジできるようになる。			加齢による身体機能の変化に関して調べておく。		
13) 嚥下障害へのリハビリテーション：口から食べるために介護福祉士が行う支援について理解する。			オーラルフレイルという語句に関して調べておく。		
14) 自立法と介助法を身体の機能を元に理解したうえで、実際に介助し、あるいは第三者にその方法を説明してあげることができるようになる。 (寝返り動作や起き上がり動作に関して)			加齢に伴う身体異能の変化に関して調べておく。		

15) 自立法と介助法を身体の機能を元に理解したうえで、実際に介助し、あるいは第三者にその方法を説明してあげることができるようになる。 (立ち上がり動作、歩行動作などに関して)		これまでの授業内容を復習し、内容を理解しておく。
[使用テキスト] 必要に応じてプリントを配布する。		
[参考文献] 完全図解新しい介護 大田仁史・三好春樹共著 講談社		
[評価の実施方法と基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認 (10 %)	授業期間内の評価：10%	
②実技・作品発表等 (%)		
【定期試験】		
① 筆 記 試 験 (90 %)	授業中に説明する重要語句に関して、自分の言葉で説明できるように理解しておく。	
②レ ポ ー ト (%)		
③実 技 試 験 (%)		
④面 接 試 験 (%)		
平常点評価	☒	受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐	受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。		
[備考] 他の学生の受講を妨げる言動は単位を認めない。		

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1210224

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション論Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 小関 健太郎	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2 セメスター	卒業：必修	資格：必修	
☑ 実務経験	高齢者施設職員としての経験を活かし、他業種とのコミュニケーションについて講義する。				
[授業の目的・ねらい] 生活を支援する上で、人と人との関わりを持つ手段としてのコミュニケーションをどのように図るかを学ぶ。コミュニケーションの様々な内容を学び体験することで、対人援助によって人を支援することが楽しいと感じる方法を学ぶ。				主に対応するDP 5	
[授業全体の内容の概要] コミュニケーションの要素や言語だけではない、ノンバーバルコミュニケーションの重要性について講義する。また対象となる高齢者や障害を持っている方の背景、心理を理解し適切なコミュニケーションを考えさせ、利用者の視点に立てるようにする。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 自己覚知を通じて自分自身の性格や特性に合ったコミュニケーションの方法に気付く。他者からどのように思われているのか、自分自身の本当の気持ちは、対象者と関われば円滑な関係づくりが出来るのかを自覚できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 人権を尊重し、尊厳を持った介護の実践には適切なコミュニケーション技術が必要である。人には多様性があり、個々の尊厳を守ることを理解する視点を身につける。			授業で配布する資料、講義内容、演習課題を毎回記録し理解する。試験は全てそこから出題される。 10 分)		
2) グループワークを通じて、今まで気づけなかった自身のコミュニケーションのスタイルを知る。そのことを理解し、受講生自身のコミュニケーションスタイルの強み・弱みを知り、強みを伸ばし弱みを克服できるようになる。					
3) 介護におけるコミュニケーションの基本である、聞く・話す、書くといった特性と様々な表現手段があることを知る。グループワークや演習を行うことで自分がどの様に観られているのを感じることができる					
4) きく、はなすことを手段としたトータルコミュニケーションの在り方を認識する。以心伝心ではない思い込みのコミュニケーションでは通じないことを体験する			予習（教科書 p22-27 20 分)		
5) 介護場面における利用者・家族との深いコミュニケーションが土台となっていることを学び、信頼関係を築く介護者になる課題を整理する。					
6) 介護を取り巻く、対象者自身の疾病・傷害の理解。ご家族の意向や地域の特性の違いなど、支援者としてステレオタイプにならない様にする。					
7) 異文化コミュニケーションについて気付きを深める。育ってきた文化や風習の違いが多様な価値観を生んでいることに気付き、自分自身の感覚が全てではないことに気付く。			大正・昭和・平成について調べる 30 分)		
8) 丁寧語、尊敬語など言葉を選ぶことによる相手の捉え方の違いを知る。家族でも友人でもない方への支援における言葉遣いの有り方を知る。			介護職の言葉遣いについてレポートにてまとめる 30 分)		
9) 認知症の特性と関わり方を知る。パーソンドセンターケアを理解し、疾病や障害でその人を見ない、個人・人を見ることでコミュニケーションは成立することを実践できるようにする。			予習（教科書 p118-123 20 分)		
10) チームケアをするに当たり、チームワークの取り方、仲間・上司とのかかわり方、自分自身のジレンマの捉え方を知る。			チームケアに必要なこととは何か。についてレポートにまとめる 30 分)		
11) スピーチロックとは何かを学び、介護現場で気付かない、スピーチロックも拘束に繋がることに気付く。どのようにメッセージを行えばスピーチロックに成らないかを学び、実践できるようになる。			フィジカルロック、ドラックロック、スピーチロックについて調べる 30 分)		
12) 文章を書く要素としての、要約・言い換え等の技法についてグループワークを通じて学び、使えるようになる。			予習（教科書 p26 20 分)		
13) 事例を通じて、問題解決の重要な視点に気付く。その視点をどのように実践に活かせるかを具体的に考察する。					
14) リスクマネジメントを通じての、防止・禁止といった視点ではなく、セーフティマネジメントといったポジティブな視点を持てる、コミュニケーションの手法を実践できるようになる。					

15) 今までの授業内容を振り返り、コミュニケーションのより実践的なあり方を理解できたかを確認する（筆記による到達度の確認を行う）。		
[使用テキスト] 介護福祉士養成講座編集委員会編 『最新 介護福祉士養成講座第5巻 コミュニケーション技術』		
[参考文献]		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認（ 100%）	15回の授業の到達の確認としてレポートにて学んだことを振り返り、まとめる	
②実技・作品発表等（ %）		
【定期試験】		
①筆記試験（ %）		
②レポート（ %）		
③実技試験（ %）		
④面接試験（ %）		
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する	
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない	
[フィードバックの方法] 筆記試験・レポート課題について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。		
[備考]		

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

5110228

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 瀬 志保・上山小百合	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1 セメスター	卒業：必修		資格：必修
☑ 実務経験		高齢者福祉等での現場経験を活かし、生活支援に必要な理論や知識について講義をする。			
[授業の目的・ねらい] あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を根拠に基づいて理解し、なぜそうするのかを説明できるようになる。対象者をアセスメントする視点を学び、客観的な事実をとらえ必要な介護は何かを考えられるようになる。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 介護を必要とする対象者の生活を支援するために必要な基礎的知識（生活の理解、アセスメント、自立に向けた睡眠の介護、自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた排泄の介護、自立に向けた入浴・清潔の介護、自立に向けた家事の介護・居住空間の整備）についての講義を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 尊厳保持・自立(自律)支援・安全安楽など介護の基本原則を反映した生活支援技術の根拠を理解し、説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：生活支援技術Ⅰ・Ⅱを通した授業内容の概要説明と、生活支援技術を学ぶにあたっての基本と心構えについて理解する生活支援技術におけるアセスメントの意味を学ぶ。			予習) シラバスの内容をよく読み、本科目の内容を理解する。事後) 授業で配布した専門的介護の3つの柱を読み、内容をまとめる。 (30分)		
2) 自立に向けた睡眠の介護：睡眠の意義と目的 睡眠におけるアセスメント(講義)			予習) 教科書の生活支援技術Ⅱ「第5章休息・睡眠とは (p. 220～228)」を読み、わからない言葉を調べる。(30分)		
3) 自立に向けた移動の介護：身体の種類 移動の意義と目的 移動におけるアセスメントと移動・移乗の基礎となる理論(講義)			予習) 教科書の生活支援技術Ⅰ「第3章自立した移動とは (p. 84～98)」を読む。(30分)		
4) 自立に向けた移動の介護：安全で的確な移動・移乗の介護(歩行介助福祉用具) (講義)			予習) 教科書の生活支援技術Ⅰ「第3章自立した移動とは (p. 135～145)」を読む。(30分)		
5) 自立に向けた移動の介護：安全で的確な移動・移乗の介護(車いすの移乗・移動介助)			予習) 教科書の生活支援技術Ⅰ「第3章自立した移動とは (p. 99～123)」を読む。(30分)		
6) 自立に向けた身じたくの介護：自立支援を支える身じたくの介護、身じたくにおけるアセスメント(講義)			予習) 教科書の生活支援技術Ⅱ「第1章自立した身じたくとは (p. 2～7)」を読む。(30分)		
7) 自立に向けた身じたくの介護：衣類の着脱の介助(講義)			予習) 教科書の生活支援技術Ⅱ「第1章自立した身じたくとは (p. 48～66)」を読む。(30分)		
8) 自立に向けた食事の介護：食事の意義と目的 食事におけるアセスメント(講義)			予習) 教科書の生活支援技術Ⅱ「第2章自立した食事とは (p. 74～85)」を読む。(30分)		
9) 自立に向けた排泄の介護：排泄の意義と目的 排泄におけるアセスメント(講義)			予習) 教科書の生活支援技術Ⅱ「第4章自立した排泄とは (p. 162～168)」を読む。(30分)		
10) 自立に向けた排泄の介護：尊厳を守り、安心して気持ちよく排泄できる介護の工夫と環境整備(講義)			予習) 教科書の生活支援技術Ⅱ「第4章自立した排泄とは (p. 198～205)」を読む。(30分)		
11) 自立に向けた入浴・清潔の介護：安全・的確な入浴・清潔保持の介護技術(入浴・全身清拭・手浴・足浴) (講義)			予習) 教科書の生活支援技術Ⅱ「第3章自立した入浴・清潔保持とは (p. 108～113)」を読む。(30分)		
12) 自立に向けた家事の介護：対象者の状況に応じた介護の留意点 アセスメント			予習) 教科書の生活支援技術Ⅰ「第5章自立した家事とは (p. 220～226)」を読む。(30分)		
13) 自立に向けた居住空間の整備：対象者の状況に応じた介護の留意点 アセスメント			予習) 教科書の生活支援技術Ⅰ「第2章第3、4節 (p. 54～72)」を読む。(30分)		
14) 授業の総復習①			授業の内容を踏まえて、5択問題を解き、わからない言葉を調べる。(30分)		
15) 授業の総復習②			授業の内容を踏まえて、5択問題を解き、わか		

		らない言葉を調べる。(30 分)
[使用テキスト] 『目で見てわかる最新介護術』北田信一著 2016 年 成美堂出版		
『最新介護福祉士養成講座 生活支援技術 I・II』2022 年第2版 中央法規出版		
[参考文献] 『あなたの大切な人を寝たきりにさせないための介護の基本 あすなら苑が実践する 10 の基本ケア』社会福祉法人協同福祉会 2009 年 クリエイツかもがわ		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認 (40%)	各項目での小テスト、授業内で取り扱った映像等に関するレポートで評価する。	
②実技・作品発表等 (%)		
【定期試験】		
①筆記試験 (60%)		
②レポート (%)		
③実技試験 (%)		
④面接試験 (%)		
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する	
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない	
[フィードバックの方法] 小テスト・レポート課題は返却時にその都度フィードバック行う。		
[備考]		

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1110211

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 瀬 志保・上山小百合	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 1 セメスター	卒業：必修	資格：必修	
☑ 実務経験	高齢者福祉等での現場経験を活かし、生活支援に必要な理論や知識について講義をする。				
[授業の目的・ねらい] 知識に基づいたアセスメントにより状況を判断し、状況に応じた介護の方法を、自ら考えられる力を身につける。人権を尊重し、人間の尊厳を護るための態度をとることができる。自立・自律や自己選択、自己実現を支援する態度を身につけ、実践できる。生協 10 の基本ケアを実践する意義について説明できる。					主に対応する D P 1
[授業全体の内容の概要] 生活支援技術Ⅰでの理論学習を軸に、生活支援技術Ⅱでは、具体的な介護技術演習を中心として展開する。自立に向けた睡眠の介護、自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた排泄の介護、自立に向けた入浴・清潔の介護、自立に向けた家事の介護・居住空間の整備に関する演習を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 尊厳保持・自立(自律)支援・安全安楽など介護の基本原則を意識し、介護の場面で具体的な声かけ、行動が実行できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 身体の名 称 人体の自然な動きとは ボディメカニクス（講義・演習）			復習) 授業の内容を踏まえて、目で見てわかる介護術 p. 10～25 を見て整理する。（30 分）		
2) 自立に向けた睡眠の介護：安眠を促す介護の工夫と環境整備(演習) ベッドメイキング			復習) 生活支援技術Ⅱ「第 5 章休息・睡眠環境を整える（ベッドメイキング）の動画を見て、手順などを確認する。（30 分）		
3) 自立に向けた移動の介護：安全で的確な移動・移乗の介護(安楽な体位の保持・体位変換)（演習）			復習) 生活支援技術Ⅰ「第 3 章起居動作の動画を見て、支援のポイントを整理する。（30 分）		
4) 自立に向けた移動の介護：自立に向けた移動の介護：安全で的確な移動・移乗の介護(歩行介助 車椅子介助) (演習)			復習) 生活支援技術Ⅰ「第 3 章歩行の介助・車いすの移動の介助の動画を見て、支援のポイントを整理する。（30 分）		
5) 自立に向けた身じたくの介護：利用者の状態・状況に合わせた衣服着脱の介護技術（演習）			復習) 生活支援技術Ⅱ（2022）「第 1 章衣服着脱の介助の実際の動画を見て、支援のポイントを整理する。（30 分）		
6) 自立に向けた食事の介護：利用者の状態・状況に合わせた食事の介護技術（演習）			復習) 生活支援技術Ⅱ（2022）「第 2 章利用者の状態に応じた食事の介助の動画を見て、支援のポイントを整理する。（30 分）		
7) 自立に向けた排泄の介護：安全・的確な排泄の介護技術(トイレ誘導・ポータブルトイレ)（演習）			復習) 生活支援技術Ⅱ「第 4 章トイレでの排泄の介助方法を読み、支援のポイントを整理する。（30 分）		
8) 自立に向けた排泄の介護：安全・的確な排泄の介護技術(尿器・差し込み便器・おむつ)（演習）			復習) 生活支援技術Ⅱ「第 4 章尿器、差し込み便器、おむつでの排泄の介助方法を読み、支援のポイントを整理する。（30 分）		
9) 自立に向けた入浴・清潔の介護：安全・的確な入浴・清潔保持の介護技術(入浴・シャワー浴・洗髪)（演習）			復習) 生活支援技術Ⅱ「第 3 章入浴の介助を読み、支援のポイントを整理する。（30 分）		
10) 自立に向けた入浴・清潔の介護：安全・的確な入浴・清潔保持の介護技術(全身清拭・手浴・足浴・整容)（演習）			復習) 生活支援技術Ⅱ「第 3 章清潔保持の介助を読み、支援のポイントを整理する。（30 分）		
11) 自立に向けた家事の介護：対象者の状況に応じた介護の留意点			復習) 生活支援技術Ⅰ「第 1 章生活支援のポイントを読み、ポイントを整理する。（30 分）		
12) 自立に向けた居住空間の整備：対象者の状況に応じた介護の留意点			復習) 生活支援技術Ⅰ「第 2 章第 1、2 節（p. 38～53）」を読み、わからない言葉を調べる。（30 分）		
13) 授業のまとめ：授業内実技評価試験のオリエンテーション			復習) 授業内で実施した演習内容で理解が進んでいない項目の手順を確認する。（30 分）		
14) 授業のまとめ：授業内実技評価試験			復習) 実技試験の問題を振り返り、自立に向け		

	た生活支援技術についてレポートにまとめる。(30分)
15) 授業のまとめ：授業内実技評価試験	復習) 実技試験の問題を振り返り、自立に向けた生活支援技術についてレポートにまとめる。(30分)
[使用テキスト]『最新介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ』2022年 中央法規出版 『目で見てわかる最新介護術』北田信一著 2016年 成美堂出版	
[参考文献]『写真でわかる生活支援技術』監修 東京健康長寿医療センター センター長 伊藤 秀喜他 2011年 インターメディアカ	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認(30%)	演習時の身だしなみチェック項目・演習後のリフレクションレポートで評価する。
②実技・作品発表等()%	
【定期試験】	
①筆記試験(70%)	
②レポート()%	
③実技試験()%	
④面接試験()%	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 実技試験終了後、個別に講評を行い改善点や課題を確認できるようにする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1110212

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ⅲ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 河野 和美			
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター	卒業：選択	資格：必修
☑ 実務経験		元訪問看護師の経験を活かし、一番身近にいる介護職が、いち早く利用者の変化に気づき医療につなげていけるよう講義する。					
[授業の目的・ねらい]							主に対応するDP
実際の介護場面で求められる知識・技術を根拠に基づいて理解し、何故そうするのかを説明できるようになる。知識に基づいたアセスメントにより状況を判断し、多様な状況に応じた介護の方法を実践できる。							1
[授業全体の内容の概要]							
身支度における介護、緊急時対応の知識と技術、終末期の介護、医療との連携に基づく介護を中心として学ぶ。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）]							
実際の介護場面で求められる知識・技術を根拠に基づいて理解し、何故そうするのかを説明し、多様な状況に応じた介護の方法を実践できる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) オリエンテーション：生活支援技術Ⅲの授業内容の概要を説明する。 生活支援技術を学ぶにあたっての基本と心構えについて復習する ・介護福祉職のメンタルヘルス アンガーマネージメント（講義・演習）				生活支援技術Ⅰ・Ⅱの知識・技術を復習しておく。死生観について自分の考えをまとめておく。（1時間程度）			
3) 身支度における介護：整容 爪切り 口腔ケア（講義）							
3) 身支度における介護：整容 爪切り 口腔ケア（演習）							
4) 身支度における介護：整容 爪切り 口腔ケア（演習）							
5) 緊急時対応の知識と技術：想定される事故 事故予防の視点 緊急時の連携 フィジカルアセスメント（講義）							
6) 医療との連携に基づく介護：褥瘡予防に関する知識・技術（講義・演習）							
7) 自立に向けた睡眠の介護：安楽な体位についての知識（講義）							
8) 自立に向けた睡眠の介護：安楽な体位についての知識（演習）							
9) 医療との連携に基づく介護：感染症の知識（講義）							
10) 医療との連携に基づく介護：医薬品の使用・与薬についての知識 講義・演習）							
11) 医療との連携に基づく介護：生命徴候・バイタルサイン（講義・演習）							
12) 終末期の介護：終末期ケアの考え方 終末期における介護の役割（講義）							
13) 終末期の介護：終末期ケアの考え方 終末期における身体的変化 を学ぶ（講義・グループワーク）							
14) 終末期の介護：終末期ケアの考え方 死後のケア（講義）							
15) 授業の総復習と到達度の確認							
[使用テキスト]							
最新 介護福祉士養成講座 第7巻 生活支援技術Ⅱ 第6巻 生活支援技術Ⅰ							
[参考文献] 『改訂 介護に使えるワンポイント医学知識』中央法規							
[試験の方法と学修成果の評価基準]							
【平常試験】							
①到達度の確認（ 100 %）							
②実技・作品発表等（ %）							
【定期試験】							
①筆記試験（ %）							
②レポート（ %）							
③実技試験（ %）							
④面接試験（ %）							
平常点評価		☑受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する					
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない					

[フィードバックの方法]	到達度の確認について、正答を試験期間終了後に開示する
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1010223

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 生活支援の展開Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 上山 小百合			
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター	卒業：必修	資格：必修
☑ 実務経験		元居宅介護支援専門員の経験を活かし、障害のある方が自分らしく生活できる支援方法を講義する。					
[授業の目的・ねらい] 知的障害、発達障害、運動機能障害、精神障害、難病にはそれぞれ特徴があり日常生活においてもさまざまな個別の困難がある。日常生活における状況と特性を理解し、自立に向けた生活支援のあり方を介護福祉士としての役割を説明できるようになる。							主に対応するD P 3
[授業全体の内容の概要] 講義とグループワークを交えながら、共に考える思考過程、体験的に理解し、修得できるような授業を展開する。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 障害のメカニズムと、障害を持つ人の日常生活における状況や特性を客観的な事実から理解し、利用者の障害の特性に応じた生活支援を説明できる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) 授業内容と評価方法の説明（オリエンテーション） 知的障害の発生原因、疾病、メカニズム、症状、合併症など知的障害の基本的な知識を説明することができる。（講義）				知的障害について 市町村のリーフレットや地域の施設や事業所を調べる。30 分			
2) 知的障害を持つ人の発達過程における特徴や、社会生活（社会参加や労働）と知的障害とのかかわりの中で発生する矛盾などを知り、介護福祉士の役割や生活支援の意義について説明することができる。（演習）グループワーク				知的障害の地域の社会資源を調べる。30 分			
3) 発達障害、強度行動障害の原因、疾病、メカニズム、症状、合併症など発達障害の基本的な知識を説明することができる。（講義）				発達障害について 市町村のリーフレットや地域の施設や事業所を調べる。30 分			
4) 発達障害、強度行動障害を持つ人における特徴や、社会生活（社会参加や労働）と発達障害とのかかわりの中で発生する矛盾などを知り、介護福祉士の役割や生活支援の意義について説明することができる。（演習）グループワーク				発達障害の地域の社会資源を調べる。30 分			
5) 精神障害の発生原因、疾病、メカニズム、症状、合併症などの基本的な知識を説明することができる。（講義）				精神障害について 市町村のリーフレットや地域の施設や事業所を調べる。30 分			
6) 精神障害を持つ人における特徴や、社会生活（社会参加や労働）との精神障害とのかかわりの中で発生する矛盾などを知り、介護福祉士の役割や生活支援の意義について学ぶ。（演習）グループワーク				精神障害の地域の社会資源を調べる。30 分			
7) 身体障害、難病の基礎知識、身体障害、難病とはどのようなものか、原因疾患はどのようなものがあるのか、また、日常生活にどのような困難があるのかを説明することができる。（講義）				身体障害の地域の社会資源を調べる。30 分			
8) 身体障害、難病を持つ人の特徴や、社会生活（社会参加や労働）の中で発生する矛盾などを知り、介護福祉士の役割や生活支援の意義について説明することができる。（演習）グループワーク				身体障害について 市町村のリーフレットや地域の施設や事業所を調べる。30 分			
9) 知的障害をもつ人が生活する上、就労する上での困難と、支援の実状について説明することができる。（演習）グループワーク				知的障害について 就労に関する市町村のリーフレットや施設や事業所を調べる。			
10) 障害を持つということ① 身体に障害を持ちながら「働く」とはどういうことか。就労することの意味と、身体に障害を持つ人の就労機会・賃金の実態を学び、その本質について説明することができる。（演習）グループワーク				働く、就労に関する発表内容を作成する。プレゼンテーション練習① 30 分			
11) 障害を持つということ② 障害者支援に関する制度の枠組みを学び、支援事業所・サービスの役割について説明することができる。（演習）グループワーク				制度に関連する内容の発表内容を作成する。プレゼンテーション練習② 30 分			
12) 障害を持つということ③ 地域の障害者を支援する社会資源について理解し、障害と社会、地域のかかわりについて説明することができる。（演習）グループワーク				障害の方の社会参加活動・楽しみについて調べる。 30 分			
13) フィールドワーク① 知的障害、発達障害、身体障害、精神障害、難病の方が活用する福祉用具の実際と課題について体験を通して、実践的な介護福祉士に求められる生活支援を説明することができる。（演習）				フィールドワークの場所や福祉用具を調べる。① 30 分			

14) フィールドワーク② 知的障害、発達障害、身体障害、精神障害、難病の方が活用する福祉用具の実際と課題について体験を通して、実践的な介護福祉士に求められる生活支援を説明することができる。（演習）グループワーク	フィールドワークの場所や福祉用具を調べた内容のプレゼンテーション② 30分
15) 授業のまとめと筆記による到達度の確認を行う。	レポートに関するポイントを理解する。
[使用テキスト] 最新 介護福祉士養成講座 第8巻 生活支援技術Ⅲ（中央法規出版）	
[参考文献]	
[評価の実施方法と基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（70%）	授業内レポート、まとめテスト
②実技・作品発表等（30%）	プレゼンテーション 2回
【定期試験】	
①筆記試験（ %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] レポート課題について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3110216

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 生活支援の展開Ⅱ（視覚障害）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義・演習		授業担当者 松下 昭司	
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位 (※2)	配当 1	セメスター	卒業：必修	資格：必修
☑ 実務経験		視覚障害訓練等指導員（歩行訓練士）として視覚障害への理解を深めるよう講義を行う。			
[授業の目的・ねらい] 視覚障害の理解と視覚障害者の介助（移動、コミュニケーションの技法）の習得。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 視覚障害者への理解を深める。屋内・屋外での移動介助法の習得。代読、代筆の支援の仕方。点字の理解。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 視覚障害者の生活を支えるための知識と技術を習得し、説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 視覚障害者の生活支援について考える： 【講義】視覚障害の理解。視覚障害とは何か、その背景。					
2) 視覚障害の生活支援①：自立に向けた移動の介護 【実技】屋外での移動介助①（基本姿勢・歩き始め・段差）			事前に配布するプリントにより準備学習を行う。（20 分）		
3) 視覚障害者の生活支援②：自立に向けた移動の介護 【実技】屋外での移動介助②（狭所・溝・階段）			事前に配布するプリントにより準備学習を行う。（20 分）		
4) 視覚障害者の生活支援③：自立に向けた移動の介護、介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 【実技】屋外での移動介助③（着席・ドアの通過）、代読、代筆の介助法。			事前に配布するプリントにより準備学習を行う。（20 分）		
5) 視覚障害者の生活支援④：介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 【講義】点字のしくみ①（清音） 【実技】点字の書き方			事前に配布するプリントにより準備学習を行う。（20 分）		
6) 視覚障害者の生活支援⑤：介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 【講義】点字のしくみ②（濁音、拗音） 【実技】点字の読み①			事前に配布するプリントにより準備学習を行う。（20 分）		
7) 視覚障害者の生活支援⑥：介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 【講義】点字のしくみ③（半濁音、促音） 【実技】点字の読み②			事前に配布するプリントにより準備学習を行う。（20 分）		
8) 講義のまとめと到達度の確認： 【到達度の確認】視覚障害者の介助法（移動、コミュニケーション）について筆記により到達度を確認する。			事前に配布するプリントにより準備学習を行う。（20 分）		
[使用テキスト] 最新 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ第 8 巻 中央法規出版					
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ 50%）		筆記試験			
②実技・作品発表等（ 50%）		授業への参加度、授業内の提出物			
【定期試験】					
①筆 記 試 験（ %）					
②レ ポ ー ト（ %）					
③実 技 試 験（ %）					
④面 接 試 験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 到達度の確認について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3110217

※2 「生活支援の展開Ⅱ」は（視覚障害）（聴覚障害）の両方の履修が必要です。

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 生活支援の展開Ⅱ（聴覚障害）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 近藤 眞由美	
授業の回数 8 回	時間数(単位数) 1 単位 (※2)	配当 1	セメスター	卒業：必修	資格：必修
☑ 実務経験		手話通訳士として聴覚障害への理解を深めるよう講義を行う。			
[授業の目的・ねらい] 聴覚障害の特性を理解し、尊厳の保持と自立・自律を支援する援助方法を習得する					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 聴覚障害の理解と援助方法を、具体的な体験を基に学ぶ。また、自立支援のための制度や福祉用具についての知識と活用方法について、実際に経験をする。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 聴覚障害者の自立に向けた生活支援の技術を身につけ、手話で自己紹介ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 聴覚障害者の特性と実態を理解し、必要な生活支援について考える： 聴覚障害についてグループワークにて考え、視覚障害者に必要な生活支援について討論する。					
2) 聴覚障害とコミュニケーション：聴覚障害者の自立に向けた生活支援に必要なコミュニケーション技術について学ぶ。			テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (20 分)		
3) 聴覚障害者の福祉制度と福祉機器：聴覚障害者の自立に向けた居住環境の整備や生活支援に必要な福祉か制度福祉機器について学ぶ			テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (20 分)		
4) 聴覚障害の高齢者の介護：自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた排泄の介護について学ぶ。			テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (20 分)		
5) 聴覚障害の高齢者の介護：自立に向けた移動の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた家事の介護			テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (20 分)		
6) 聴覚障害の実際の生活を学ぶ：ゲストスピーカーから、ろう高齢者の実態と介護の現状について知る。					
7) 聴覚障害者の介護のまとめ：					
8) 講義のまとめおよび筆記による到達度の確認を行う。					
[使用テキスト] 最新 介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ第 8 巻 中央法規出版 『今すぐ始める手話テキスト 聴さんと学ぼう！』一般財団法人全日本ろうあ連盟					
[参考文献]『わたしたちの手話 学習辞典』一般財団法人全日本ろうあ連盟					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ 50%）		筆記試験			
②実技・作品発表等（ 50%）		授業への参加度、授業内の提出物			
【定期試験】					
①筆 記 試 験（ %）					
②レ ポ ー ト（ %）					
③実 技 試 験（ %）					
④面 接 試 験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 到達度の確認について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3110217

※2 「生活支援の展開Ⅱ」は（視覚障害）（聴覚障害）の両方の履修が必要です。

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 介護過程概論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 鴻上 圭太			
授業の回数	30 回	時間数(単位数)	4 単位	配当	1 セメスター	卒業：必修	資格：必修
☑ 実務経験		実務経験における介護過程実践の経験を理論説明時に活用する。					
[授業の目的・ねらい] 介護過程の基礎を理解し、介護過程の理論と意義について説明できるようにする。また、ICFを活用した介護過程が実践できるようになる。							主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 情報収集、情報の整理をしたうえでアセスメントを行い、そこから対象者のニーズを導きだすプロセスを繰り返し行う。自己の事例や身近な人のリアルな事例を用いて、グループワークを基本に授業を進める。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護過程の意味と意義について、説明ができる。介護過程の展開とはなにか、説明することができる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1～2 回 オリエンテーションおよび介護過程の意義と目的；生活支援の重要性と介護過程の必要性について学ぶ（講義）				授業で取り上げたテキスト内容および資料を基に復習すること。（30 分）			
3～4 回 介護過程とはなにか①情報収集、アセスメント、計画、実施、評価、再アセスメント、再計画までのプロセスについて学ぶ。				授業で取り上げたテキスト内容および資料を基に復習すること。（30 分）			
5～6 回 介護過程とはなにか②情報収集、アセスメント、計画、実施、評価、再アセスメント、再計画までのプロセスについて学ぶ。				授業で取り上げたテキスト内容および資料を基に復習すること。（30 分）			
7～8 回 情報収集について①情報収集を意義と目的、また収集の方法について理解し、実際の情報源から情報の整理までについて学ぶ				授業で取り上げたテキスト内容および資料を基に復習すること。（30 分）			
9～10 回 情報収集について②客観的事実における情報と主観的な情報を理解する。				授業で取り上げたテキスト内容および資料を基に復習すること。（30 分）			
11～12 回 収集した情報の表現の仕方、および分類の仕方について学ぶ。				テキスト及び資料で復習すること。（30 分）			
13～14 回 基礎実習事例を分類、整理し、介護過程シートへの記入方法を学ぶ。				授業で取り上げたテキスト内容および資料を基に復習すること。（30 分）			
15～16 回 アセスメントの方法①情報にこめられた意味を探る。情報が持つ意味を捉える力を習得する。				授業で取り上げたテキスト内容および資料を基に復習すること。（30 分）			
17～18 回 アセスメントの方法②障害をそうでないものを分類する。対象者の情報の意味を捉える力を習得する。				授業で取り上げたテキスト内容および資料を基に復習すること。（30 分）			
19～20 回 アセスメントの方法③情報を肯定的に捉える。対象者のできることをとらえる力を習得する。				授業で取り上げたテキスト内容および資料を基に復習すること。（30 分）			
21～22 回 ニーズを導く①対象者のニーズとはなにかを学ぶ。				テキスト及び資料で復習すること（30 分）			
23～24 回 ニーズを導く②対象者のニーズを捉える力を習得する。				テキスト及び資料で復習すること（30 分）			
25～26 回 介護計画立案①介護計画の立案の方法について学ぶ				テキスト及び資料で復習すること（30 分）			
27～28 回 介護計画立案②介護計画の立案の方法について学ぶ。				テキスト及び資料で復習すること（30 分）			
29～30 回 評価・考察の書き方について学ぶ。				テキスト及び資料で復習すること（30 分）			
[使用テキスト] 「最新・介護福祉士養成講座」第 9 巻 介護過程（中央法規出版）							
[参考文献] 授業ごとに紹介する。							
[試験の方法と学修成果の評価基準]							
【平常試験】							
① 到達度の確認（ 50 %）							
②実技・作品発表（ %）							
【定期試験】							
① 筆記試験（ %）							
② レポート（50%）							
③実技試験（ %）							
④面接試験（ %）							
平常点評価		☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない					

[フィードバックの方法] 授業ごとにワークを指定し、その添削及び解説をもってフィードバックとする
[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2110210

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 介護過程演習		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 瀬 志保・石田 史樹	
授業の回数	30 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
卒業：必修				資格：必修	
☑ 実務経験		実務経験における介護過程実践の経験を理論説明時に活用する。			
[授業の目的・ねらい] 介護過程の実践的展開の中から、介護過程の一連のプロセスを繰り返し、倫理的・科学的・個別的な介護実践の基礎知識および技術を身につけるとともに、客観的な事実から物事を考え適切な支援を判断できるようにする。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 利用者の生活の質の向上に向けて、生活課題を把握し、それを解決していくために必要な介護のあり方について、介護過程展開の演習を通して理解する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ICF モデルの活用をして実践的なアセスメントを行い、現状に応じた対象者の介護過程が展開できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1～4)オリエンテーションセッション（講義日程の確認、介護過程のプロセスと目的のふりかえり）情報収集の視点と方法の振り返り（ICFシートの記入方法）、フェイスシートへの記入方法の確認（演習）			復習）毎授業後、授業内で配布した内容を踏まえて、理解できたことや整理した内容をリフレクションシートに記入する。（30 分）		
5・6) 介護過程とケアマネジメントとの関係 ケアマネジメントとは何か。ケアプランと個別援助計画の関係性を理解する。（講義）			5. 予習）テキストの「介護過程とケアマネジメントの関係性」を読む。6. 予習）チームアプローチにおける介護福祉士の役割を読む。（30 分）		
7～10) 生活課題を把握する視点と方法（3つの視点でのアセスメント）事例（Aさん、Bさん）を通して、解釈・関連付け・統合化について理解する。利用者の生活像を組み立てる方法を理解する。			7. 8. 復習）授業の内容を踏まえて、Aさん、Bさんの情報の解釈・関連付け・統合化について整理する。9. 10. 復習）Aさん、Bさんの生活像を文章化する。（30 分）		
11～14) 事例Cに基づく介護計画の立案（グループワークでの演習） 紙面情報と補助映像から、介護過程を展開する。情報収集用紙、ICFシート、3つの視点での情報の整理シート、情報の解釈・関連付け・統合化シート、介護計画書（本学介護過程用紙）に記入する。介護目標（長期目標・短期目標）の設定について理解する。			11. 復習）紙面情報の内容でわからない言葉を各自調べ、次の授業の際にグループ内で共有する。（15 分）12. 13. 14. 復習）授業の内容を踏まえ、理解できたことをリフレクションシートに記入する。（15 分）		
15・16) 生活課題の優先順位の検討 優先順位の判断基準（重大性の観点・緊急性の観点）			復習）授業内で配布した資料「ニーズ（課題）の優先順位の検討」を読む。（30 分）		
17～20) 事例Cの介護計画の実施（ロールプレイ）と実施内容の記録（演習）グループごとに立案された介護計画を実施する。			復習）他のグループの介護計画を見て、リフレクションシートに記入をする。（30 分）		
21～24) 事例Dの介護計画実施内容に基づく評価・考察（演習） 実施の記録・評価内容と方法を理解する。 事例検討：情報収集・アセスメント・生活課題の導出・介護計画の立案			復習）一連の介護過程を通して、修正点なども含め、リフレクションシートに記入をする。（30 分）		
25～27)実施内容のふりかえりと介護実習Ⅱにおける介護過程について 生活課題と介護計画の事例紹介（演習）			復習）授業の内容を踏まえて、生活課題から実際に取り組んだ介護計画内容で理解できたことをリフレクションシートに記入する。（30 分）		
28・29) 文章問題から介護過程を理解する			復習）文章問題でわからなかった単語、制度、等の意味を調べる。		
30) 授業のふりかえりとまとめ（講義）			復習）授業内で行った教科書内にある演習問題を再度解き、言葉の意味や展開の過程を確認する。		
[使用テキスト] 『最新・介護福祉士養成講座』第9巻介護過程 2022 年 中央法規出版					
[参考文献] 「本人主体の『個別支援計画』ワークブック」（かもがわ出版）					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（40%）		小テストと授業内で提示した課題に関するレポートで評価する。			

②実技・作品発表等 (%)	
【定期試験】	
①筆 記 試 験 (60%)	
②レ ポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 小テスト・レポート課題は、返却時にその都度フィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2010221

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 鴻上 圭太・瀬 志保			
授業の回数	30 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター	卒業：選択	資格：必修
☑ 実務経験		介護福祉士としての実務経験を活かし指導する。					
[授業の目的・ねらい] 介護実習の意義と目的を理解し、介護基礎実習及び介護実習Ⅰ実施に向けた準備を行う。また、介護基礎実習及び介護実習Ⅰで体験したことを言語化できる力を習得する。さらに、介護福祉士に必要な倫理的態度や社会人に必要な力（社会人基礎力）とは何かについて説明できるようになる。							主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 介護基礎実習及び介護実習Ⅰに必要な書類の作成について指導を行う。当該実習前の指導（事前指導）として当該介護実習の意義や目的、方法、実習施設の概要、実習で学ぶべき事項について授業を行う。当該実習後の指導（事後指導）として実習のまとめを行い、実習報告会を実施する。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護福祉士の仕事のイメージや目指す動機が明確になり、その内容について説明ができる。また、当該介護実習に必要な準備が指示通りに行える。当該介護実習で学んだことを言語化することができる（文章化やプレゼンテーションをすることができる）。知ること、学ぶこと、疑問を持つこと、思考形態を使い分け、実習体験を説明することができる。介護福祉士を目指す実習生に必要な倫理的態度や社会人に必要な基礎的な力（社会人基礎力）とは何かについて説明できる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) 授業のオリエンテーション 介護実習で何を学ぶのか 介護福祉士取得時の到達目標 介護実習の位置づけ 介護実習の評価について学ぶ。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
2) 介護におけるコミュニケーションを体験によって学ぶ。「主体的に学ぶ 意識的に学ぶ 気づく 振り返りから学ぶ」など学びの特徴を学ぶ。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
3) 個人票、誓約書の作成							
4) 介護基礎実習における記録① 記録の書き方について				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
5) 介護基礎実習における記録② 記録の書き方について				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
6) 介護基礎実習に向けて① 実習先の概要を調べ、学ぶ。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
7) 介護基礎実習に向けて② ゲストスピーカー 実習施設指導者による実習の心構えの講演。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
8) 介護基礎実習のまとめ③ 介護基礎実習のまとめを完成させる。							
9) 介護基礎実習報告会 実習の学びを報告し、ディスカッションし自らの課題を明らかにする。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
10) 介護実習Ⅰにおける記録① 実習期間中に記入する記録の書き方について演習を通し学ぶ。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
11) 介護実習Ⅰにおける記録② 記録の書き方について				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
12) 介護実習Ⅰに向けて① 2年生から1年生へ実習における学びのレクチャー				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
13) 介護実習Ⅰに向けて② 実習目標 介護実習計画の作成				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
14) 介護実習Ⅰに向けて③ ゲストスピーカー 実習施設指導者による実習の心構えの講演。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
15) 介護実習Ⅰに向けて④ 実習先の概要について調べ、発表し、学ぶ。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（15 分）			
16) 介護実習Ⅰに向けて⑤ 巡回教員との顔合わせ							
17)～18) 実習直前指導 実習に当たっての基本事項の確認、開始に向けた準備				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
19)～20) 帰校日指導①・② 実習期間中に大学へ登校し、実習巡回担当教員から実習到達状況に応じて個別指導				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（15 分）			
21～24) 実習終了後指導 実習のまとめ、書類作成、報告会原稿作成							
25～26) 実習終了後指導 実習のまとめ、書類作成、報告会原稿作成							
27～30) 実習報告会							
[使用テキスト] 授業内で資料配布							
[参考文献] 必要に応じて授業内で紹介する。							
[試験の方法と学修成果の評価基準]							
【平常試験】							
①到達度の確認（100％）		実習前準備における授業課題、および実習報告会における発表内容、プレゼンテーションの状況を評価の対象とする。					
②実技・作品発表（ %）							

【定期試験】	
①筆 記 試 験 (%)	
②レ ポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 課題提出物や授業課題に対してその都度フィードバックを行う。	
[備考] 介護基礎実習及び介護実習Ⅰ実施前の本授業出欠状況によっては、当介護実習の実施を延期する場合がある。詳細は授業内で説明、提示する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1010212

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 鴻上 圭太・石田 史樹			
授業の回数	30 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター	卒業：選択	資格：必修
☒ 実務経験		介護福祉士、社会福祉士としての実務経験を活かし指導する。					
[授業の目的・ねらい] 介護実習の意義と目的を理解し、介護実施Ⅱに向けた準備を行う。さらに、介護福祉士に必要な倫理的態度や社会人に必要な力（社会人基礎力）とは何かについて説明し態度で示せるようになる。							主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 介護実習Ⅱに必要な書類の作成について指導を行い、当該実習前の指導（事前指導）として当該介護実習の意義や目的、方法、実習施設の概要、実習で学ぶべき事項について授業を行う。当該実習後の指導（事後指導）として実習のまとめを行い、実習報告会を実施する。最終的に、自らの介護観についてのレポートを作成する。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 当該介護実習に必要な準備が指示通りに行える。また、当該介護実習で学んだことを言語化することができる（文章化やプレゼンテーションをすることができる）。知ること、学ぶこと、疑問を持つことの思考形態を使い分け、実習体験を説明することができる。介護福祉士を目指す実習生に必要な倫理的態度や社会人に必要な基礎的な力（社会人基礎力）を具体的に態度で示すことができる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) 授業のオリエンテーション 介護実習で何を学ぶのか 介護福祉士取得時の到達目標 介護実習の位置づけ 介護実習の評価について学ぶ。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
2) 介護におけるコミュニケーションを体験によって学ぶ。「主体的に学ぶ 意識的に学ぶ 気づく 振り返りから学ぶ」など学びの特徴を学ぶ。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
3) 個人票、誓約書の作成							
4) 介護基礎実習における記録① 記録の書き方について				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
5) 介護基礎実習における記録② 記録の書き方について				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
6) 介護基礎実習に向けて① 実習先の概要を調べ、学ぶ。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
7) 介護基礎実習に向けて② ゲストスピーカー 実習施設指導者による実習の心構えの講演。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
8) 介護基礎実習のまとめ③ 介護基礎実習のまとめを完成させる。							
9) 介護基礎実習報告会 実習の学びを報告し、ディスカッションし自らの課題を明らかにする。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
10) 介護実習Ⅰにおける記録① 実習期間中に記入する記録の書き方について演習を通し学ぶ。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
11) 介護実習Ⅰにおける記録② 記録の書き方について				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
12) 介護実習Ⅰに向けて① 2年生から1年生へ実習における学びのレクチャー				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
13) 介護実習Ⅰに向けて② 実習目標 介護実習計画の作成				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
14) 介護実習Ⅰに向けて③ ゲストスピーカー 実習施設指導者による実習の心構えの講演。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
15) 介護実習Ⅰに向けて④ 実習先の概要について調べ、発表し、学ぶ。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（15 分）			
16)～17) 実習直前指導①・② 実習直前指導。				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（30 分）			
18～19) 帰校日指導①・②				授業後、配布資料の振り返学習を行う。（15 分）			
20～22) 実習終了後指導①・②・③実習のまとめ、書類作成、報告会原稿作成する。							
23～24) 実習終了後指導④・⑤実習のまとめ、書類作成、報告会原稿作成する。							
27～30) 実習報告会							
[使用テキスト] 授業内で資料配布							
[参考文献] 必要に応じて授業内で紹介する。							
[試験の方法と学修成果の評価基準]							
【平常試験】							
①到達度の確認（100%）		実習前準備における授業課題、および実習報告会における発表内容、プレゼンテーションの状況を評価の対象とする。					
②実技・作品発表（ %）							
【定期試験】							
①筆記試験（ %）							

②レポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 課題提出物や授業課題に対してその都度フィードバックを行う。	
[備考] 介護基礎実習及び介護実習Ⅰ実施前の本授業出欠状況によっては、当介護実習の実施を延期する場合がある。詳細は授業内で説明、提示する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1011223

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 介護基礎実習		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 実習		授業担当者 瀬 志保・鴻上 圭太	
実習の時間数 40 時間	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター	卒業：選択	資格：必修	
☒ 実務経験	介護福祉士としての実務経験を活かし指導する				
[授業の目的・ねらい] 本科目をとおして、介護の学修の意義や問題意識を認識することを目的とする。あわせて実習場面における介護学生にふさわしい態度とはどのようなものか理解する。また、介護を必要とする対象者とのコミュニケーションを実践する。さらに対象者の生活背景を理解する。 実践、体験、見学したことを記録として表現できるようにする。				主に対応するDP 1	
[授業全体の内容の概要] 認知症対応型共同生活介護、デイサービス、デイケア、障害者作業所などで在宅を中心とした事業所での実習を行い、介護を必要とする対象者の暮らしについて学習する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
①実習に臨む基本的態度とはどのようなものか説明することができる。					
②対象者の個別性に応じたコミュニケーションについて、体験し学んだことを説明することができる。					
③介護を必要とする対象者の生活（現状及びその背景）について具体的に説明することができる。					
④介護の学修に対するモチベーションを表現することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
施設の種別： ・認知症対応型共同生活介護 ・デイサービス/デイケア ・小規模多機能型居宅介護 ・障害者作業所 ・その他 実習期間：学年暦参照 実習内容： 1. 実習初日、オリエンテーションを実施し施設の概要、実習における留意点を確認する。 2. 基本的な支援技術について実践的に学ぶ 3. 介護福祉士にふさわしい言葉使いや態度について考え実践する。 4. 対象者とコミュニケーションをとり、対象者の希望や思いを考える。 5. 自らが介護者となることについて、考える。 6. 終了ミーティングを行い、実習全体の振り返りを行う。 ※感染症等で施設内実習の実施が困難な場合は、内容・時期が変更になる場合がある。			介護総合演習Ⅰ授業にて課題に取り組む。		
[使用テキスト] 必要に応じて授業で資料を配布する。					
[参考文献] 必要に応じて授業で資料を配布する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認（ 100%）	実習評価票の項目に基づき、施設指導者評価及び巡回教員評価を踏まえ、評価を行う。実習評価票の項目は、①実習に臨む基本的態度、②コミュニケーション、③対象者理解、④学修に対するモチベーションの4つ（大カテゴリー）とする。				
②実技・作品発表（ %）					
【定期試験】					
①筆 記 試 験（ %）					
②レ ポ ー ト（ %）					
③実 技 試 験（ %）					
④面 接 試 験（ %）					
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] 実習最終日に三者（学生、実習指導者、教員）によるミーティングを実施する。また事後指導において実習のまとめ、実習報告会発表資料の作成をとおして、実習の振り返り学習を行う。					
[備考] 実習指導者及び巡回教員の評価を参考に科目担当教員が協議の上で評価を決定する。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1010215

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 実習		授業担当者 瀬 志保・鴻上 圭太	
実習の時間数 162 時間	時間数(単位数) 4 単位	配当 1 セメスター	卒業：選択	資格：必修	
☒ 実務経験	介護福祉士としての実務経験を活かし指導する				
[授業の目的・ねらい] 本科目をとおして、介護福祉士にふさわしい倫理と態度とはどのようなものか理解できるようになる。また、介護を必要とする対象者の個別性に応じたコミュニケーションを実践できるようになる。さらに対象者の生活背景を理解し、自立に向けた生活支援技術とはどのようなものか理解できるようになる。さらに、介護福祉士以外の専門職の役割が理解でき、多職種連携を理解できるようになる。また、介護福祉士の役割とは何か、事業所が地域に対して果たす役割とは何か、説明することができるようになる。また利用者が地域とのかかわりを継続できる介護実践とはどのようなことか、説明することができるようになる。実践、体験、見学したことを記録として表現することができるようになる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 高齢者入所施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設）、障害者支援施設（重症心身障害者施設、重度障害者授産施設等）において実習を行い、対象者理解（アセスメント）学習を中心にしながら、障害に応じた介護技術の習得、コミュニケーション能力を養い、対象者の個性を尊重した生活支援の在り方を学習する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
①介護福祉士としてふさわしい倫理と態度とは何か、説明ができる。					
②対象者の個別性に応じたコミュニケーション方法とは何か、解釈することができる。					
③介護を必要とする対象者の生活（現状およびその背景）について理解し、解釈することができる。					
④自立に向けた生活支援技術の基本について、解釈することができる。					
⑤多職種と連携した生活支援における個々の専門職の役割を理解し、その中での介護福祉士の役割とは何か、表現することができる。					
⑥施設・事業所の地域における役割について、説明することができる。					
⑦対象者の地域とのかかわりにおける支援のあり方について、説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
施設の種別： ・高齢者入所施設（特別養護老人ホーム 介護老人保健施設） ・障害者入所施設（聴覚障害者施設、重症心身障害者施設、重度障害者授産施設等） 実習期間：学年暦参照 実習内容： 1. 事前オリエンテーションを実施し施設の概要、実習における留意点を確認する。 2. 介護福祉士としての信頼関係を築くための基本的態度について考え、実践する。 3. 障害特性に応じたコミュニケーションの技法を実践する。 4. 対象者の情報収集を行い、アセスメントを行う。 5. 対象者の障害特性に応じた自立にむけた生活支援技術を見学、実践する。 6. 介護福祉士以外の職種の役割を知り、多職種連携の場面を見学する。 7. 施設と地域のかかわりや、利用者と地域とのかかわりの場面を見学、体験する。 8. 中間ミーティング及び終了ミーティングを行い、実習の学びの振り返りを行う。 ※感染症等で施設内実習の実施が困難な場合は、内容・時期が変更になる場合がある。			介護総合演習Ⅰ授業にて課題に取り組む。		
[使用テキスト] 必要に応じて授業で資料を配布する。					
[参考文献] 必要に応じて授業で資料を配布する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
② 到達度の確認（ 100%）	実習評価票の項目に基づき、施設指導者評価及び巡回教員評価を踏まえ、評価を行う。実習評価票の項目は、①実習に臨む基本的態度、②コミュニケーション、③対象者理解、④生活支援技術、⑤多職種連携と介護福祉士の役割、⑥施設・事業所の地域における役割、⑦対象者と地域の関わり、の7つ（大カテゴリー）とする。				
②実技・作品発表（ %）					
【定期試験】					
①筆 記 試 験（ %）					
②レ ポ ー ト（ %）					
③実 技 試 験（ %）					
④面 接 試 験（ %）					
平常点評価	☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				

	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 実習最終日に三者（学生、実習指導者、教員）によるミーティングを実施する。また事後指導において実習のまとめ、実習報告会発表資料の作成をととして、実習の振り返り学習を行う。	
[備考] 実習指導者及び巡回教員の評価を参考に科目担当教員が協議の上で評価を決定する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1011216

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 実習		授業担当者 鴻上 圭太・石田 史樹	
実習の時間数 186 時間	時間数(単位数) 4 単位	配当 2 セメスター		卒業：選択	資格：必修
☑ 実務経験	介護福祉士、社会福祉士としての実務経験を活かし指導する				
[授業の目的・ねらい] 本科目をとおして、介護福祉士にふさわしい倫理と態度とはどのようなものか、実践できるようになる。また介護過程の展開方法について説明でき、自立に向けた生活支援技術とはどのようなものか考察することができるようになる。さらに多職種連携（地域連携も含め）における介護福祉士の役割について表現することができるようになる。また、介護福祉士の役割とは何か、事業所が地域に対して果たす役割とは何か、説明することができるようになる。また利用者が地域とのかかわりを継続できる介護実践とはどのようなことか、説明できるようになる。さらに、介護福祉士としての自らの介護観について考察することができるようになる。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 高齢者施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設）において、一人の対象者を対象にした介護過程の展開を行う。多様な生活支援の場面において、自立に向けた生活支援技術や多職種の連携、事業所や利用者の地域とのかかわりについて学習し、介護福祉士の専門性について考察する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
①介護福祉士としてふさわしい倫理と態度を表現することができる。					
②介護過程の展開とは何か、説明することができる。					
③自立に向けた生活支援技術の基本について、実践することができる。					
④多職種と連携した生活支援における個々の専門職の役割を理解し、その中の介護福祉士の役割とは何か、表現することができる。					
⑤施設・事業所の地域における役割について、説明することができる。					
⑥対象者の地域とのかかわりにおける支援のあり方について説明することができる。					
⑦介護福祉士の専門職としての責任と役割について、自分なりの考えを述べることができる。					
⑧介護福祉士としての自らの介護観について、自分なりの考えを述べることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
施設の種別：高齢者入所施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設） 実習期間：学年暦参照 実習内容： 1. 事前オリエンテーションを実施し施設の概要、実習における留意点を確認する。 2. 介護福祉士としての自己の課題と目標をもって実習を行う。 3. 一人の対象者に対し、介護過程の展開を行う。 4. 現存機能を活用した生活支援技術について、見学、実践を行う。 5. 介護福祉士以外の職種の役割を学び、連携の場面を見学、実践する。 6. 施設と地域のかかわりや、利用者と地域とのかかわりの場面を見学、体験する。 7. 日勤以外の勤務（早出、遅出、夜勤など）を体験する。 8. 中間ミーティング及び終了ミーティングを行い、実習の学びの振り返りを行う。 ※感染症等で施設内実習の実施が困難な場合は、内容・時期が変更になる場合がある。				介護総合演習Ⅱ授業にて課題に取り組む。	
[使用テキスト] 必要に応じて授業で資料を配布する。					
[参考文献] 必要に応じて授業で資料を配布する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
③ 到達度の確認（ 100％）	実習評価票の項目に基づき、施設指導者評価及び巡回教員評価を踏まえ、評価を行う。実習評価票の項目は、①実習に臨む基本的態度、②介護過程の展開、③生活支援技術、④多職種連携と介護福祉士の役割、⑤施設・事業所の地域における役割、⑥対象者と地域の関わり、⑦介護福祉士の責任と役割、⑧介護観の8つ（大カテゴリー）とする。				
②実技・作品発表（ %）					
【定期試験】					
①筆 記 試 験（ %）					
②レ ポ ー ト（ %）					
③実 技 試 験（ %）					
④面 接 試 験（ %）					
平常点評価	☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				

[フィードバックの方法] 実習最終日に三者（学生、実習指導者、教員）によるミーティングを実施する。また事後指導において実習のまとめ、実習報告会発表資料の作成をとおして、実習の振り返り学習を行う。
[備考] 実習指導者及び巡回教員の評価を参考に科目担当教員が協議の上で評価を決定する。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3011227

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 発達心理学		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 永原 直子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター	卒業：選択必修		資格：必修
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 老化に伴うこころとからだの変化と日常生活への影響について知る。生命の発生から死までを発達の変化として捉え、人間の成長と発達についての客観的事実から物事を考え、判断できるようになる。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 発達とは何か、生涯発達の概念、心身機能の加齢に伴う変化、高齢期の心理について概説する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 人間の成長と発達を心理学的な観点でとらえ、人間の継時的変化について説明できる。また、老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響を踏まえ、適切な対応方法とその根拠を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーションおよび発達の定義：発達の定義の歴史的変遷、および発達研究における横断法、縦断法、系列法などの研究方法について学ぶ。					
2) 老年期の発達と成熟（発達の理論）：遺伝と環境が発達へ及ぼす影響について学ぶ。また、ハヴィガーストやエリクソンの発達段階説を学び、それぞれの発達段階における発達の課題や危機について考える。			前回の資料を見て、復習をしておく。（30分）		
3) 発達に伴う運動機能の変化：身体運動の発達について学び、実際の子どもの発達の様子を映像で見て理解する。また、中年期以降に生じる運動機能の変化についても学び、介護予防について考える。			前回の資料を見て、復習をしておく。（30分）		
4) 感覚・知覚：感覚や知覚に関する心理学的知見を学び、錯視や盲点、二点弁別閾などの簡単なグループ演習を通して、特に視覚と聴覚についてその特徴を知る。			前回の資料を見て、身の回りの高齢者に当てはまることか思い出してみる。（30分）		
5) 視覚の発達：視覚と視知覚の変化とその特徴を知り、それが日常生活にどのような影響を及ぼすのかを考える。また、特に中年期以降に起こる変化について知る。			前回の資料を見て、身の回りの高齢者に当てはまることか思い出してみる。（30分）		
6) 聴覚の発達：聴覚の変化とその特徴を知り、それが日常生活にどのような影響を及ぼすのかを考える。また、特に中年期以降に生じる変化について知る。			前回の資料を見て、身の回りの高齢者に当てはまることか思い出してみる。（30分）		
7) 味覚・嗅覚・触覚・運動機能の発達：高齢期における味覚、嗅覚、触覚、運動機能の変化を知り、それらが日常生活に及ぼす影響を知る。			前回の資料を見て、身の回りの高齢者に当てはまることか思い出してみる。（30分）		
8) 認知機能理解の基礎：認知機能とは何かを理解し、記憶や注意などの基本的知識を身につける。また、様々な認知機能を測定する神経心理学的検査を知る。			前回の資料を見て、身の回りの高齢者に当てはまることか思い出してみる。（30分）		
9) 認知機能の発達：認知機能がどのように変化していくのかを知る。中年期以降の機能低下について、その予防と機能維持について学ぶ。			前回の資料を見て、身の回りの高齢者に当てはまることか思い出してみる。（30分）		
10) 知能：知能とは何かを様々な定義から考える。また、知能を測定するための道具である知能検査の概要について学習する。			前回の資料を見て、身の回りの高齢者に当てはまることか思い出してみる。また、第1回で解説した研究方法について復習しておくこと。（30分）		
11) 知能の発達：知能の発達の变化について学ぶ。特に、高齢期における知能の変化が日常生活へ及ぼす影響を考える。			前回の資料を見て、身の回りの高齢者に当てはまることか思い出してみる。（30分）		
12) 老化や障害に伴う気持ちの変化：老化を受け止める高齢者の心理と、障害を受け止める高齢者の気持ちを学び、それらがパーソナリティにどのような影響を与えるのかを知る。また、パーソナリティについてグループワークを通して理解する。			前回の資料を見て、身の回りの高齢者に当てはまることか思い出してみる。（30分）		
13) 老化に伴う対人関係の変化：社会や家庭における役割の変化に伴って、高齢者を取り巻く人間関係も変化する。それらの変化を、コンボイ・モデルやソーシャル・サポート・ネットワークの考え方から捉える。			前回の資料を見て、身の回りの高齢者に当てはまることか思い出してみる。（30分）		
14) 死別体験と経済的不安：兄弟や友人との死別や、その他の家族との死別によって、どのような心理的影響を受けるのかを考える。また、経済的不安が及ぼす心理的影響についても考える。			授業内で質問の時間を取るので、これまでの内容を復習し、不明な点について確認しておくこと。（2時間）		

15) 授業内試験：授業内容の理解到達度を確認するための筆記試験を実施する。		
[使用テキスト] 『老年心理学』 培風館		
[参考文献] 『エイジング心理学』 北大路書房 『The Handbook of Aging and Cognition』 Psychology Press		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
① 到達度の確認 (100%)	授業内で実施する筆記試験にて評価する。	
②実技・作品発表等 (%)		
【定期試験】		
①筆記試験 (%)		
②レポート (%)		
③実技試験 (%)		
④面接試験 (%)		
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する	
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない	
[フィードバックの方法]最終講の到達度の確認終了後に解説を行う。		
[備考]		

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2210329

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 医学一般		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 山西 千穂			
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター	卒業：選択必修	資格：必修
☑ 実務経験		医療現場での知識や経験を活かし、具体例をわかりやすく挙げて医学的な理解に役立てる。					
[授業の目的・ねらい] 介護を必要とする人の生活支援を行うため身体的、精神的な老化の理解をし、また、高齢者に多い病気とその特徴や対応を知る。							主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] テキストを中心に講義を進める。最新の情報や、高齢者に多い病気とその症状を具体例をあげて理解が深まるよう、関連付けて講義する。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 老化による身体的、精神的な変化や、疾患による変化とその対応の基礎的知識を一般化する。介護福祉士として必要な知識と介護現場での注意点を適用する。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]						[準備学修の内容]	
1) 授業ガイダンス・加齢による身体的な変化と高齢者に多い疾患の特徴 症状について理解する。							
2) 骨粗鬆症の原因と高齢者に多い骨折、その予防と生活上の留意点。							
3) 変形性関節症、関節リウマチの基礎知識とアレルギー疾患との関連を知る。							
4) 白内障・緑内障・黄斑変性症などの眼疾患の基礎知識を学びケアを考える。							
5) 高齢者の聴覚障害、皮膚疾患についての基礎知識を学びケアを考える。							
6) パーキンソン病についての基礎知識を学び、ケアを考える。							
7) 脳血管障害についての基礎知識と後遺症、関連疾患を知りケアを考える。							
8) 高血圧症の基礎知識を学び動脈硬化など虚血性心疾患との関連を理解する。							
9) 心不全の基礎知識を身につけ、ケアを考える。							
10) 喘息、慢性閉塞性肺疾患など肺疾患の基礎知識を学びケアを考える。							
11) 前立腺肥大症、尿路感染症の基礎知識を学び、ケアを考える。							
12) 糖尿病と生活習慣病についての基礎知識を学び、予防、日常生活の留意点を ケアにつなげる。							
13) 悪性新生物、精神疾患の基礎知識を学び、ケアを考える。							
14) インフルエンザ、ノロウイルス、疥癬などの感染症の基礎知識を学び予防と 適切な対応をケアに活かす。							
15) う歯、歯周病、ドライマウスなどの基礎知識を学び、ケアに活用できるよう になる。後期授業まとめ。							
[使用テキスト] 「最新 介護福祉士養成講座 12 発達と老化の理解」 第2版(中央法規出版)及びレジュメ							
[参考文献]							
[試験の方法と学修成果の評価基準]							
【平常試験】							
①到達度の確認（ %）							
②実技・作品発表等（ %）							
【定期試験】							
①筆記試験（ 100%）							
②レポート（ %）							
③実技試験（ %）							
④面接試験（ %）							
平常点評価		☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する					
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない					
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。							
[備考]							

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2210320

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者			
認知症ケアの理解と支援Ⅰ		演習		瀬 志保			
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター	卒業：必修	資格：必修
☑ 実務経験		高齢者福祉等での現場経験を活かし、認知症のある人の支援の実際について講義する。					
[授業の目的・ねらい]							主に対応するDP
認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。また、認知症ケアの歴史や理念を含む、認知症を取り巻く、社会的環境について理解する内容とする。							2
[授業全体の内容の概要]							
認知症の医学的な知識や認知症の原因となる疾病について理解する。また、認知症の進行に伴う症状を理解し、生活とどのように関連しているかについて学び、その変化に対して適切な生活支援を実践できる知識を習得する。認知症の人が体験する喪失感や不安を理解し、認知症の人の思いに基づき、人権を尊重し尊厳を護るケアを実践できる。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）]							
認知症に関する基礎的な知識をベースに、認知症の人の人権を尊重し、尊厳を護るための認知症ケアとは何かを説明できる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) 認知症の基礎的理解：認知症とは何か。認知症の定義、認知症の特徴について（報道、本、映像教材などから知る）				認知症に関する内容のテレビ、映画、本、新聞記事などを読み、関心のあるテーマをレポートにまとめる。(30 分)			
2) 認知症ケアの歴史：認知症ケアの過去、現在、今後（認知症高齢者の推移）「恍惚の人」紹介				復習) 認知症の理解（教科書）P、110～116 までを読む（30 分)			
3) 認知症のさまざまな症状（中核症状の理解）				復習) 認知症の理解（教科書）P、34～48 までを読み、症状を覚える。			
4) 認知症のさまざまな症状（行動・心理症状の理解）				復習) 認知症の理解（教科書）P、49～64 までを読み、症状を覚える。			
5) 認知症の原因疾患と症状①アルツハイマー型認知症・小テスト				復習) 認知症の理解（教科書）P、79 を読む。また、インターネット等を活用し、特徴を調べ、まとめる。			
6) 認知症の原因疾患と症状②血管性認知症				復習) 認知症の理解（教科書）P、81～83 を読む。また、インターネット等を活用し、特徴を調べ、まとめる。			
7) 認知症の原因疾患と症状③レビー小体型認知症				復習) 認知症の理解（教科書）P、83～85 を読む。また、インターネット等を活用し、特徴を調べ、まとめる。			
8) 認知症の原因疾患と症状④前頭側頭型認知症				復習) 認知症の理解（教科書）P、86～88 を読む。また、インターネット等を活用し、特徴を調べ、まとめる。			
9) 認知症の原因疾患と症状⑤その他の原因疾患（慢性硬膜下血腫、正常圧水頭症など）・小テスト				復習) 認知症の理解（教科書）P、88～90 を読む。また、インターネット等を活用し、特徴を調べ、まとめる。			
10) 若年性認知症：定義、生活上の課題と必要な支援				復習) 認知症の理解（教科書）P、92～95 を読む。また、インターネット等を活用し、特徴を調べ、まとめる。			
11) 認知症の進行度に合わせた介護：通所介護、ショートステイ、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型グループホーム、特別養護老人ホームなどのそれぞれの介護と留意点について事例から学ぶ。人として、高齢者として当たり前の生活について考える。				予習) 授業で紹介する介護サービスについて、調べ、まとめておくこと。(30 分)			
12) 認知症の本人の思いを汲み取りケアに活かすことの重要性を理解する。事例シナリオを通して帰宅を訴える利用者にどのように関わりを持てばよいのかを考える。（グループワーク）				復習) 他のグループの発表を聞いて考えたことをリフレクションシートに記入する。(30 分)			
13) 認知症の人の環境：認知症の人にとって適切な環境とは何か、自宅、施設での環境整備を学ぶ。				復習) 講義で行った内容を小レポートにまとめておくこと。(30 分)			

14) 認知症ケアの理念と視点：高齢者虐待防止法・事例を通して考える。	復習) 認知症の理解 (教科書) P、121～132 までを読む (30 分)
15) 講義の振り返りとまとめ：国家試験の問題に挑戦し、授業で学んだ内容を文章問題として理解する。	復習) 授業の内容を踏まえて、国家試験の過去問題を解き、理解を深める。(30 分)
[使用テキスト] 『最新・介護福祉士養成講座』第 13 巻 認知症の理解 2022 年 中央法規出版	
[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (40%)	小テスト、レポートの点数で評価をする。
②実技・作品発表等 (%)	
【定期試験】	
①筆記試験 (60%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 小テスト、レポート課題は、返却時にその都度フィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2110311

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 認知症ケアの理解と支援Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 瀬 志保	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター	卒業：選択	資格：必修	
☑ 実務経験		高齢者福祉等での現場経験を活かし、認知症のある人の支援の実際について講義する。			
[授業の目的・ねらい] 医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾病及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解する内容とする。また、認知症の人を中心にとらえ、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を学習する。				主に対応する D P 2	
[授業全体の内容の概要] 認知症の症状、原因となる疾患などの認知症の基礎知識から、認知症の人の生活、社会との関わり等を理解する。また、認知症になったとしても、住み慣れた場所で暮らし続けるために、どのような支援や介護が必要になるのか、国の施策なども踏まえ、認知症ケアを実践していく力を養う。					
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 地域社会のなかで、認知症の人が尊厳を保ち、住み慣れた場所で生活し続けるために必要となるケアについて、本人、家族、社会との関わり等を踏まえ、地域の今後の課題について理解し、説明できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 認知症の人の心理①：視覚教材やワークにより、認知症の人がどのような体験をしているかを体験し、認知症の人本人の視点から考える。 (当事者の講演 DVD から)			復習) 教科書 p. 136 ～139 までを読む。当事者の方々が発信している情報を調べる。(30 分)		
2) 認知症の人の心理②：認知症による体験が生活に及ぼす影響 若年性認知症の方々が通うデイサービスの取り組みを通して学ぶ。			復習) 教科書 P、140～150 までを読み、具体的なサポート方法を学ぶ。		
3) 医学的側面から見た認知症の基礎①：認知機能にかかわる脳の仕組み、認知症の原因となる疾患を理解する。			予習) 教科書 p. 14～21 脳の構造・機能と症状の関係を読み、わからない言葉を調べる。 (30 分)		
4) 医学的側面から見た認知症の基礎②： 認知症の原因疾患 認知症と間違われやすい疾患について理解する。			復習) 教科書 p. 14～30 認知症と間違われやすい疾患について読み、わからない言葉を調べる。(30 分)		
5) 医学的側面から見た認知症の基礎③：認知症の行動・心理症状（B P S D）について理解する。			予習) 教科書 p. 49～63 BPSD の理解を読み、分からない言葉を調べる。(30 分)		
6) 医学的側面から見た認知症の基礎④：認知症の診断・検査の方法、告知について理解する。 認知症高齢者の日常生活自立度判定基準			復習) 教科書 p. 65～75 認知症の診断と重症度を読み、わからない言葉を調べる。(30 分)		
7) 医学的側面から見た認知症の基礎⑤：認知症の治療薬、認知症の予防について理解する。(講義)			予習) 教科書 p. 96～106 認知症の治療薬を読み、わからない言葉を調べる。(30 分)		
8) 医学面側面から見た認知症の基礎⑥：認知症と間違えられやすい症状（うつ病やせん妄）			復習) 教科書 p. 21～23 せん妄とうつ病、アパシーについて読み、理解を深める。(30 分)		
9) 認知症ケアの実際①：パーソン・センタード・ケアの考え、認知機能障害による生活への影響を理解する。具体的な支援について理解する。			復習) 教科書 p. 154～163 パーソン・センタード・ケアを読み、内容を整理する。(30 分)		
10) 認知症ケアの実際①：パーソン・センタード・ケアの考え、認知機能障害による生活への影響を理解する。認知症の特性を踏まえたアセスメントツールを学ぶ。(センター方式、ひもときシートなど)			復習) 教科書 p. 164～181 パーソン・センタード・ケアを読み、内容を整理する。(30 分)		
11) 認知症ケアの実際②：認知症のある人へのさまざまなアプローチ ユマニチュード・バリデーション・回想法・リアリティオリエンテーションなどの非薬物療法を用いたアプローチについて理解する。			予習) 教科書 p. 225～237 非薬物療法を用いたアプローチ内容を読み、内容を整理する。 (30 分)		
12) 認知症の人のケアの理念と視点：「ペコロスの母に会いに行く」を視聴し、家族支援も含めた、認知症の人のケアについて自らの考えをまとめる。			復習) 映像から考えたことをリフレクションシートに記入する。(30 分)		
13) 認知症に関する施策①：地域で認知症の人が暮らすことを支える制度や仕組みについて学ぶ：認知症施策推進大綱、認知症カフェ、認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チーム			復習) 認知症ケアパスと地域包括ケアシステムについて説明文を読み、分からない内容を調べる (30 分)		

14) 認知症に関する施策②：認知症の人が安心して暮らせるためのチームづくり（認知症ケアパス、認知症ライフサポートモデル）	復習）認知症の人の地域生活支援を支える取り組みについてまとめる。（30 分）
15) 講義の振り返りとまとめ：国家試験の問題に挑戦し、授業で学んだ内容を文章問題として理解する。	復習）授業の内容を踏まえて、国家試験の過去問題を解き、理解を深める。（30 分）
[使用テキスト] 『最新・介護福祉士養成講座』第 13 巻 認知症の理解 2022 年 中央法規出版	
[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（40%）	小テスト、授業内で提示した課題についてのレポート提出とその内容で評価する。
②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（60%）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 小テスト、レポート課題は返却時にその都度、フィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2010322

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 障害の理解と支援Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 白井 舒久			
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター	卒業：選択必修	資格：必修
☑ 実務経験		児童発達支援センター等の運営・指導の経験から、『利用者本位』の実践を具体的に講義する。					
[授業の目的・ねらい] 「障害とは何か」について構造的に理解し、障害者福祉の基本理念、連携と協働、家族への支援のポイントを説明できる。演習や実習の基礎的知識や考え方の土台形成と共に、「障害者問題」を考え実践できる。							主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 授業前半に、障害の基礎的理解や障害者福祉の基本理念、介護の視点など論理的考察を行い、後半で障害の医学的側面の基礎的知識として具体的な障害における理解と、連携と協働、家族への支援を視野に含んだ介護の視点について学ぶ。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 障害の概念、障害者福祉の基本理念を理解し、障害の見方、さらに障害のある人への介護を展開する上での考え方の視点を考察できる力量を身につけると共に、障害者の全ライフステージにおける支援のポイントを説明できる							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) 障害の基礎理解① 障害の概念の学習を通して、「障害とは何か」「障害をどうみるか」の視点について理解する。				障害のある人との個人的交流や施設で現場体験（見学も）を通して、障害者の思いやニーズに触れておくこと。（1日）			
2) 障害の基礎理解② 社会のなかで障害者を理解しようとするノーマライゼーションなどの概念が北欧を中心に発展してきた経緯がある。わが国において障害者をどのように捉えるのか、学習する。				障害だけでなく、日常の身の回りの生活の中で、いろんな基本的人権の侵害（差別）について考えておこう。（見聞きした時20分）			
3) 障害者福祉の基本理念 わが国における障害者の法的定義は障害者施策の柱である。わが国が障害者をどのように捉えているのか、またその問題点はどこにあるのか、学習する。				障害福祉サービスは法律で決められている。図書館等で障害関係法律にどんなものがあるか知っておきたい。（1時間）			
4) 障害のある人に対する介護の基本的視点 障害のある人への介護の視点として、自己決定やエンパワメント、権利擁護などの視点がある。これらの考え方や方法論を学ぶ。				障害者団体等の取り組みなどに参加してみよう。作品展、制作物販売、集会など（3時間）			
5) 基本的視点に基づいた個別支援 障害のある人は生活上においてどのようなニーズを持っているのか。生活上のニーズを理解することは介護の重要なポイントである。普遍的なニーズから個別のニーズについて学ぶ。				障害者の実態やニーズの把握のために、国の「障害者白書」「厚生労働白書」をみておくとよい。（インターネット活用でよい）40分			
6) 基本的視点に基づいた個別支援（介護過程の展開） 障害のある人の生活上のニーズを理解したうえで、それらをどのように介護の方向性や方法に活かしていくのか。介護のプロセスについて学ぶ。				事例を通して指導（教授者資料提供）			
7) 社会資源の利用と開発 障害のある人が自立へ向けての支援には直接的な介護のみならず、社会のあらゆる資源を活用することが望ましい。障害のある人の自立を助ける社会資源とはどのようなものがあるのか、学ぶ。				身近な最寄りの市町村（自治体）の障害・高齢福祉関係のパンフレットを入手して、具体的なサービスを知っておこう。（2時間）			
8) 社会資源の利用と開発 障害のある人が自立に向けて活用する社会資源は、既存のものだけでなくその人の生活に応じて新たに開発する実践が行われている。社会資源の開発はどのように行われるのか、またどのような意義があるのか、学ぶ。				地域の障害・高齢にかかわるいろいろなイベントなどの情報を知り積極的に参加してみることが望ましい。（休日等利用）			
9) 家族への支援 介護における家族の負担の軽減が今日の課題である。介護における家族の役割とはなにか、そして家族に対して支援できること、家族に代って社会的介護が担う部分について学ぶ。				家族、知人、関係者の実体験を聞く機会をつくり、「どんな支援が求められているか」を考えておきたい。（2時間）			
10) 連携と協働 障害のある人への介護は、地域と専門家、専門家同士が連携し協働することによって成立している。介護における地域の役割、各専門家の役割について理解し、連携・協働の方法と意義を学ぶ。				見学・実習体験や現場の支援者に具体的に聞いておくとよい。1職種で仕事は完結しないことを学びたい。（1時間、実習中も利用）			
11) 障害のある人の生活の理解 肢体不自由 医学的理解と障害の特性、種類を理解し、肢体不自由を持つ人の生活上の困難や特徴、そして介護の視点を学習する。				障害のある人と直接かかわる機会を持つことが望ましい。（ボランティアやガイドヘルパー資格取得など）→1日、ガイヘルなら3時間			
12) 知的障害 医学的理解と障害の特性を理解し、知的障害のある人の生活上の困難や特徴、そして介護の視点を学習する。				同上			
13) 発達障害 医学的理解と障害の特性、種類を理解し、発達障害のある人の生活上の困難や特徴、そして介護の視点を学習する。				同上			

14) 重症心身障害 医学的理解と障害の特性を理解し、重症心身障害のある人の生活上の困難や特徴、そして介護の視点を学習する。	同上
15) 授業のまとめと補足（療育・介護における総合的支援の実践構造とライフステージ支援）	
[使用テキスト] 「最新 介護福祉士養成講座」第14巻 障害の理解（中央法規出版）	
[参考文献] 障害者白書（内閣府）、厚生労働白書	
[評価の実施方法と基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（ %）	
②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（100%）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する（10%）
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験・レポート課題について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。	
[備考] 適宜「国試」の事例学習をします。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2210323

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみ（総論）			授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義			授業担当者 河野 和美			
授業の回数 15 回		時間数(単位数) 2 単位		配当 1 セメスター		卒業：必修		資格：必修	
☑ 実務経験		訪問看護の経験を活かし、臨床の具体的事例を示しながら、医学的理解に役立てるとともに、最新の医療情報も提供する							
[授業の目的・ねらい] 介護福祉士として働いていくうえで必要な人間のこころとからだのしくみを理解し健康とは何か？人間が生きることということ、生活とは何かを自分の言葉で説明できる。								主に対応するDP 2	
[授業全体の内容の概要] 学生自身が自らの体験を通して、こころとからだのしくみを理解できるように、体験とテキストからの学びを繰り返して行う。またグループワークを実施し学びを深める。									
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護現場で必要な基本的な生理学的病理学的知識を習得し、介護が必要なひとに必要な援助しかたの基本的なこころとからだのしくみが理解でき説明できる									
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]						[準備学修の内容]			
1) からだの動きの基礎となる体幹・呼吸などの自分のからだのしくみを知る。自分の体幹年齢、肺年齢、BMIを知り、こころとからだのしくみについての基礎とする						指定されたテキストの個所を予習しておく。 講義後に、ミニテストで確認する。			
2) 高齢者体験を通して、こころとからだのしくみの関連について学ぶ (片マヒ、円背、白内障、視野狭窄、難聴などの体験) 屋内での活動（臥位から立位・排泄等の動き）									
3) こころのしくみの関連の理解：高齢者体験を通して、こころとからだのしくみの関連について学ぶ (体験した事を整理し、こころとからだのしくみの関連について考える)									
4) からだのしくみとして、人間の解剖、生理学の知識を学ぶ									
5) からだのしくみとして、脳・神経系の働きを理解する 脊髄損傷後の神経麻痺のしくみを学ぶ									
6) からだのしくみとして、感覚器の働きを理解する									
7) からだのしくみとして、心臓の働きを理解する（循環について）									
8) からだのしくみとして、心臓の働きを理解する（リンパ系について）									
9) からだのしくみとして、心臓の働きを理解する（血液・体液について）									
10) からだのしくみとして、消化管と消化腺の働きを理解する									
11) からだのしくみとして、泌尿器の働きを理解する									
12) からだのしくみとして、筋・骨の役割を理解する									
13) からだのしくみとして、筋・骨・関節可動域などの働きを理解する									
14) からだのしくみとして、内分泌（ホルモン）の働きを理解する									
15) 授業の総復習 確認テストにて振り返りを行う									
[使用テキスト] 「最新・介護福祉士養成講座」第 11 巻 こころとからだのしくみ（中央法規出版）・12 巻 発達と老化の理解（中央法規出版）レジュメと関連資料配布									
[参考文献] 人間・いのちの歴史（小学館の図鑑 NEO）									
[試験の方法と学修成果の評価基準]									
【平常試験】									
①到達度の確認（ %）									
②実技・作品発表等（ %）									
【定期試験】									
①筆記試験(100 %)									
②レポート（ %）									
③実技試験（ %）									
④面接試験（ %）									
平常点評価		☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する							
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない							

[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2110315

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみ(各論Ⅰ)		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 山西 千穂	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
卒業：選択		資格：必修			
☒ 実務経験	医療現場での知識や経験を活かし、具体例をわかりやすく挙げて医学的な理解に役立てる。				
[授業の目的・ねらい]こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解し、生活を支える介護実践の根拠を理解する。また、終末期の心身の変化が及ぼす影響、生活支援に必要な基礎的知識を理解する。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] こころとからだのしくみの基礎をもとに、身じたくや食事、排泄、睡眠の援助の実践に必要な根拠を講義する。また、終末期にある人と家族を支援するための必要な基礎的知識を理解できるようにする。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護を必要とする人の身じたくや食事、排泄、睡眠生活支援の根拠となる知識が説明できる。また、終末期にある人と家族の身体的、精神的な援助の説明ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 授業ガイダンス・ 移動に関連したこころとからだのしくみ①しくみと機能低下が及ぼす影響					
2) 移動に関連したこころとからだのしくみ②変化の気づきと対応					
3) 身じたくに関連したこころとからだのしくみ①しくみと機能低下が及ぼす影響					
4) 身じたくに関連したこころとからだのしくみ②変化の気づきと対応					
5) 食事に関連したこころとからだのしくみ①しくみと機能低下が及ぼす影響					
6) 食事に関連したこころとからだのしくみ②食事に関する変化の気づきと対応					
7) 入浴・清潔保持に関するこころとからだのしくみ①しくみと機能低下が及ぼす影響					
8) 入浴・清潔保持に関するこころとからだのしくみ②変化の気づきと対応					
9) 排泄に関連したこころとからだのしくみ①しくみと機能低下が及ぼす影響					
10) 排泄に関連したこころとからだのしくみ②変化の気づきと対応					
11) 休息・睡眠に関するこころとからだのしくみ①しくみと機能低下が及ぼす影響					
12) 休息・睡眠に関するこころとからだのしくみ②変化の気づきと対応					
13) 人生の終末段階のケアに関連したこころとからだのしくみ①終末期から死後の身体理解					
14) 人生の終末段階のケアに関連したこころとからだのしくみ②					
15) 授業まとめ					
[使用テキスト] 「最新 介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ」 第2版(中央法規出版)及びレジュメ					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ 100%）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2010326

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア概論Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 河野 和美・納谷 朝子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
				卒業：選択	資格：必修
☑ 実務経験		訪問看護での経験を活かし事例を挙げながら分かりやすい授業の展開を行う			
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全適切に実施できるよう、必要な基礎的知識を修得する					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 介護福祉士の医療的ケア実施に関する制度の理解、医療の倫理、高齢者及び障害児・者の健康状態の把握も含め学ぶ。また、喀痰吸引・経管栄養に関する基礎知識を習得する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全適切に実施するための、必要な基礎的知識を理解し説明できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 介護福祉士として、医療的ケアを実施するにあたり、「医療的ケア」の法的根拠、社会背景、制度について理解する保健医療に関する制度、医行為に関する制度について学ぶ			テキストの該当する箇所を読んでレポート課題を提出する		
2) 介護福祉士として、医療的ケアを実施するにあたり、個人の尊厳と自立・倫理などの考え方をふまえ、医療的ケアの対象者及び家族の心理的理解の重要性について学ぶ。					
3) 健康状態の把握① 身体の生理的变化を観察する上で必要なバイタルサインについて、正常値・異常値を含め理解する					
4) 高齢者および障害児・者の「たんの吸引」概論① 呼吸のしくみとはたらきについて理解する（ペットボトルを活用した肺モデルを使用）					
5) 高齢者および障害児・者の「たんの吸引」概論② いつもと違う呼吸状態と、人工呼吸について学ぶ					
6) 高齢者および障害児・者の「たんの吸引」概論③ 子どもの肺の構造・呼吸機能の特徴と吸引について学ぶ					
7) 高齢者および障害児・者の「たんの吸引」概論④ 吸引器・吸引カテーテルの構造と仕組みについて学ぶ					
8) 健康状態の把握② 身体・精神の健康状態について学び、健康を維持するために必要な療養環境の清潔、消毒法について理解する					
9) 清潔保持と感染予防 感染予防と滅菌・消毒についての基礎的知識を学ぶ。					
10) 安全な療養生活 急変状態、救急蘇生法について学ぶ（演習も含む）					
11) 高齢者および障害児・者の「経管栄養」概論① 消化器系のしくみとはたらきについて学ぶ					
12) 高齢者および障害児・者の「経管栄養」概論② 消化・吸収とよくある消化器の症状について学ぶ					
13) 高齢者および障害児・者の「経管栄養」概論③ 経管栄養で使用する器具の安全な使用方法について学ぶ					
14) 医療的ケアを支える保険医療制度とチーム医療 医療的ケアにおけるチーム医療と介護職員の連携とその必要性について理解する					
15) 到達度の確認					
[使用テキスト] 「最新 介護福祉士養成講座」第 15 巻 医療的ケア（中央法規）					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ 100 %）					

②実技・作品発表等 (%)	
【定期試験】	
①筆 記 試 験 (%)	
②レ ポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 到達度の確認について、解答のポイント等を試験期間終了後に開示する	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2011428

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） キャリアアップゼミナールⅠ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 石田・鴻上・瀬・永原・上山	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
卒業：必修		資格：必修			
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 将来、社会人・職業人として求められる専門的知識について主体的に学び、就職およびその後の人生に向けて実践力と豊かな人間性・社会性を身につける。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] グループワークやフィールドワーク等への参加、調べ学習・報告、キャリアアップ指導、進路指導等を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 授業で取り組んだ内容を整理・考察して他者に伝えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション					
2) 2年間の学びのイメージづくり：卒業生から学ぶ（ゲストスピーカー）					
3)～15) 全体もしくはそれぞれのゼミにおいて、2年間の学びの基礎となるような学習活動を行う。内容については学生の興味関心や状況に応じて決定していく。また、その学びをまとめ、発表する。			内容に応じて、都度指示する。		
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 必要に応じてゼミ指導教員が提示する					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（100%）		授業への参与度、課題、発表			
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 最終講にて、各担当教員よりフィードバックを行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1110511

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） キャリアアップゼミナールⅡ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 石田・鴻上・瀬・永原・上山	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
卒業：必修		資格：必修			
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 将来、社会人・職業人として求められる専門的知識について主体的に学び、就職およびその後の人生に向けて実践力と豊かな人間性・社会性を身につける。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] グループワークやフィールドワーク等への参加、調べ学習・報告、キャリアアップ指導、進路指導等を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 活動をととして今日の社会福祉に関する問題点や課題を明らかにし、他者に説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション					
2)～15) 全体もしくはそれぞれのゼミにおいて、2年間の学びの基礎となるような活動を行う。内容については学生の興味関心や状況に応じて決定していく。また、その学びをまとめ、発表する。			内容に応じて、都度指示する。		
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 必要に応じてゼミ指導教員が提示する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（100%）		授業への参与度、課題、発表			
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 最終講にて、各担当教員よりフィードバックを行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1110522

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 福祉のための日本語 I		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 中島 智子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター	卒業：留学生必修	資格：留学生必修	
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 総合的な日本語（聴く、話す、読む、書くの4技能）の基礎を確認し、学んだことを活用してコミュニケーションができる実践的な力を伸ばす。学生生活や介護の現場でつかわれる基本的な言葉について、意味を理解し活用できるようになる。また日本で生活する上で必要な知識や文化・慣習を学び、生活において必要なコミュニケーションスキルを身につける。				主に対応するDP 5	
[授業全体の内容の概要] 聴く、話す、読む、書く、それぞれの技能の基礎を課題を用いて確認する。單元ごとに学んだことを活用してコミュニケーション、スピーチができる実践的な力を伸ばす					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 基本的な語彙や表現の日本語文章を読んで理解できるようになる。日常的な場面で少しゆっくり話される会話を聞いて理解できるようになる。また、基礎的な日本語で自分の言いたいことを話したり、書いたりして伝えられるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業のシラバスに沿って講義内容・受講のルールを説明する			約2時間 日本語能力自己評価シートの実施 第1回授業に持参		
2) 自己紹介：覚えてもらえるような印象的な自己紹介を学び、考え、実践する 自己紹介カードを作成する					
3) 日本語で描写しよう1：イラストを見ながら日本で説明ができる					
4) 日本語で描写しよう2：イラストを見ながら日本で説明ができ、理由も説明できる					
5) 日本語で描写しよう3：イラストを見ながらどのように説明したらよいか順序立てて説明ができる。					
6) 記録を読んでみる1：介護記録を読んでどんなことに気をつけるのか考える					
7) 記録を読んでみる2：イラストを見ながら、介護記録の例を参考にしながら、簡単な表現ができる。					
8) 申し送り1：申し送りで必要な日本語表現を学ぶ					
9) 申し送り2：申し送りで必要な日本語表現を使って、イラストを見ながら、表現を書いてみる。					
10) コミュニケーション1：あいづち、質問の方法を考える					
11) コミュニケーション2：敬語を使ってのコミュニケーションを学習する。					
12) 介護の現場で使う表現1：オノマトペ1 体調に関することば 日本語の表現の仕方を学ぶ					
13) 介護の現場で使う表現2：オノマトペ 様子に関することば 日本語の表現の仕方を学ぶ					
14) 介護の現場で使う表現3：オノマトペ 気持ちに関することば 日本語の表現の仕方を学ぶ					
15) 授業の振り返りとまとめ 到達度の確認を行なう。					
[使用テキスト] 『介護の日本語 基本のことば』三橋麻子他著 スリーエーネットワーク 『シャドーイングで学ぶ介護の日本語声かけ表現集』田辺淳子著 凡人社					
[参考文献] 『介護の日本語 生活知識とコミュニケーション』三橋麻子他著 スリーエーネットワーク 『シャドーイングで学ぶ介護の日本語声かけ表現集』田辺淳子著 凡人社 『日本語ロジカルトレーニング 中級』西隈俊哉／著 アスク					
[評価の実施方法と基準]					

【平常試験】	
①到達度の確認（ 80 %）	毎回のテスト（30%）、最後のテスト（50%）
②実技・作品発表等（ 20 %）	スピーチ
【定期試験】	
①筆記試験（ %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験・レポート課題について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

5330516

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 福祉のための日本語Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 中島 智子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター	卒業：留学生必修	資格：留学生必修	
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 総合的な日本語（聴く、話す、読む、書くの4技能）の基礎を確認し、学んだことを活用してコミュニケーションができる実践的な力を伸ばす。学生生活や介護の現場でつかわれる基本的な言葉について、意味を理解し活用できるようになる。また日本で生活する上で必要な知識や文化・慣習を学び、生活において必要なコミュニケーションスキルを身につける。				主に対応するDP 5	
[授業全体の内容の概要] 聴く、話す、読む、書く、それぞれの技能の基礎を課題を用いて確認する。単元ごとに学んだことを活用してコミュニケーション、スピーチができる実践的な力を伸ばす。介護の専門用語にも慣れる					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 日常会話程度の日本語の聞き取りができ、大切な情報、必要な情報が把握できる。聞いたことをメモする、聞いたことに答えるなど、聞く作業を中心に他の技術（書く、話す等）も取り入れた活動ができるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業のシラバスに沿って講義内容・受講のルールを説明する			約2時間 日本語Ⅰの復習プリント 第1回目の授業に持参		
2) 施設で使う言葉1：施設に関することばを理解し、自国との介護施設の違いについて説明する					
3) 施設で使う言葉2：施設に関することばを理解し、病気や怪我、薬の用語を理解する					
4) 施設で使う言葉3：体の部位などの専門用語の名前を理解する					
5) 介護の言葉1：体位の言葉を理解する					
6) 介護の言葉2：三大介助の言葉を理解し、簡単な声かけをする					
7) 介護の言葉3：三大介助の言葉を理解し、簡単な声かけをする					
8) 介護の言葉4：三大介助の言葉を理解し、簡単な声かけをする					
9) 介護の言葉5：生活援助の言葉を理解し、簡単な業務報告ができる洗濯・掃除①					
10) 介護の言葉6：生活援助の言葉を理解し、簡単な業務報告ができる洗濯・掃除②					
11) 制度の言葉1：法律・制度の言葉理解する					
12) 制度の言葉2：保険・年金の言葉を理解する					
13) ディスカッション1：今までの講義内容をふまえて介護について日本と自国の違いを考える					
14) ディスカッション2：今までの講義内容をふまえて介護について日本と自国の違いを考える					
15) 授業の振り返りとまとめ 到達度の確認を行なう。					
[使用テキスト] 『介護の日本語 基本のことば』三橋麻子他著 スリーエーネットワーク 『シャドーイングで学ぶ介護の日本語声かけ表現集』田辺淳子著 凡人社					
[参考文献] 『介護の日本語 生活知識とコミュニケーション』三橋麻子他著 スリーエーネットワーク					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（80％）		毎回のテスト（30％）、最後のテスト（50％）			
②実技・作品発表等（20％）		スピーチ			
【定期試験】					

①筆 記 試 験 (%)	
②レ ポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験・レポート課題について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

5330527

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 国家試験基礎演習Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 永原 直子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 2 セメスター	卒業：選択	資格：必修	
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 国家試験受験のための基礎的知識を確かなものにする。すべての領域について自分自身で知識を確認し、不明な部分は調べるなどして主体的に学び、自ら考え説明できるようになる。					主に対応するDP (未選択)
[授業全体の内容の概要] 授業内にて国家試験受験に必要な最低限の内容についてワークブックを実施しながらグループワークを通して復習する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 国家試験受験に必要な基本的知識について理解し、他者に説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 授業の進め方および学習の仕方について説明する。			これまで学習したすべての科目について教科書、ノート等を見返しておくこと（1時間）		
2)～15)「合格ドリル」の指定箇所について、各自で実施し、グループワークを通して他者に説明する。			前回の内容を復習し、内容を説明できるようにしておく。また、「合格ドリル」の指定箇所が終わっていない場合は終わらせておくこと。（2時間）		
15) 授業内試験					
[使用テキスト] 「書いて覚える！合格ドリル2025」中央法規出版					
[参考文献]「介護福祉士国家試験受験ワークブック上・下」中央法規出版 「外国人のための介護福祉士国家試験対策2024」一般社団法人国際交流&日本語支援Y					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（100%）		筆記試験を実施する。			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 試験終了後、希望者を対象に講評と解説を行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3010530

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 情報処理		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演 習		授業担当者 申 佳弥			
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター	卒業：必修	資格：必修
☑ 実務経験		月刊誌の企画・編集の経験を活かし、情報機器およびアプリケーション（Word、Excel、PowerPoint など）の基本操作や相手に伝わる文章の書き方・見せ方を講義する。					
[授業の目的・ねらい] 近年、介護や福祉の現場においても情報機器の導入が進み、情報機器に触れる機会も増加している。このような情報化社会において、情報機器やアプリケーションを有効的に活用することができるようになるとともに、学内で使用する Gmail および GoogleClassroom の使用・活用方法を学ぶ。							主に対応する D P 5
[授業全体の内容の概要] 情報機器（ノートパソコン、Windows10）を活用し、Microsoft Office（Word、Excel、PowerPoint）の基本操作を学ぶ。また、コミュニケーションスキルの育成として、作成したスライドをもとにプレゼンテーションを行う。授業中に行った課題は、毎回 GoogleClassroom にて提出する。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 基本的なアプリケーション操作の技術を習得し、最低限の情報セキュリティやマナーを理解したうえで、情報機器やアプリケーションを有効的に活用することができる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) はじめに：授業に関するオリエンテーションを行う。学校生活で使用する Gmail や GoogleClassroom を登録する。 ・パソコン基本操作①：OS（Windows10）の基本操作、日本語入力 ・パソコン基本操作②：インターネット、セキュリティなど ・Gmail アドレスを各自のスマートフォンに登録して利用できるようにする。 ・GoogleClassroom でクラスを作成・登録してみる。				パソコンの起動・終了、文字入力などの初歩的な操作に慣れておくこと。			
2) パソコンについて：日常的に利用することが多い機能を理解する。 ・パソコン基本操作③：ファイル操作、USB メモリーの使い方							
3) OFFICE について：Word、Excel の機能の概要を理解する。 ・Word 基本操作①：画面構成、起動、文字入力 ・Excel 基本操作①：画面構成、起動、データ入力							
4) Word を使って文書作成：基本的なレイアウトを設定し文章を作成する。 ・Word 基本操作②：書式の設定、文字列の配置、文字装飾 ・Word 基本操作③：用紙サイズの設定、箇条書きと段落番号の設定							
5) 演習課題 ・Word 課題作成 ・PowerPoint 課題説明				前週の授業で提示する Word で作成する課題の準備（30 分）。			
6) プレゼンテーションの基本：PowerPoint の基本操作について学び、簡単なスライドを作成する。 ・PowerPoint 基本操作①：画面構成、起動 ・PowerPoint 基本操作②：複数のスライド作成				前週の授業で提示する PowerPoint で作成する課題の準備（30 分）。			
7) プレゼンテーション演習：PowerPoint で作成したスライドをもとにプレゼンテーションを行う。				プレゼンテーション演習の準備・練習（30 分）。			
8) 総括：授業全般に対する総括を行う。							
[使用テキスト]技術評論社『演習 アカデミックスキルとしての I C T活用』第2版、木野 富士男（著）、高橋 尚子（監修）、技術評論社、2023 年							
[参考文献]特になし							
[評価の実施方法と基準]							
【平常試験】							
①到達度の確認（50％）		授業ごとに提示する課題の到達度					
②実技・作品発表等（50％）		第5回の Word 課題、第7回のプレゼンテーション課題の到達度					

【定期試験】	
①筆 記 試 験 (%)	
②レ ポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ClassRoom の活用や授業内でポイント説明・講評等を行う。	
[備考] 授業中に作成した課題を保存するために、USB メモリーは持参すること。課題の提出の際にも使用する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

5110515

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 生命倫理		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 金菱 哲宏	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 3 セメスター	卒業：必修		資格：必修
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 介護の場面で人間の尊厳を守る行動をとるため、そして人間の自立や自己実現を支援するために、それらの根拠となる倫理的な考え方について理解し、説明することができる。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要]医療や介護の現場において倫理的な問題である、脳死や人工妊娠中絶、そして終末期医療などを中心に取り上げ、「いのちとは何か」について考えながら人間の尊厳保護や自立支援に必要な知識を提供する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]いのちをめぐる諸問題に対して、生命倫理の様々な価値判断基準を提示できる。それらに基づいて、自分なりの意見を述べるができる。自分と異なる意見を尊重できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1)オリエンテーション：オリエンテーション：生命倫理（せいめい・りんり）とはどんな学問か？さまざまなテーマについて見てみよう。			・ 予習（参考書(a)pp. 19-36）（1 時間） ・ 授業テーマについて自分の意見を考えてみる		
2)インフォームドコンセント：インフォームドコンセントやパターンリズムの考え方について見てみよう。ここでは病気の状態を患者に正直に伝えることがいいことなのか考える。			・ 予習（参考書(a)pp. 100-118）（1 時間） ・ 授業テーマについて自分の意見を考えてみる		
3)医療資源（いりょうしげん）の分配（ぶんぱい）：医療資源の分配について考えてみよう。医療資源が限られているとき、どんな問題が起こるのか。			・ 予習（参考書(a)pp. 235-252）（1 時間） ・ 授業テーマについて自分の意見を考えてみる		
4)人がうまれるとき①：人がうまれるための技術である生殖補助医療（せいしよく・ほじょ・いりょう）や出生前診断（しゅっせいまえ・しんだん）について見てみよう。			・ 予習（参考書(a)pp. 37-45）（1 時間） ・ 授業テーマについて自分の意見を考えてみる		
5)人がうまれるとき②：人工妊娠中絶（じんこうにんしんちゅうぜつ）について見てみよう。それはいいことなのか、そして「いのち」とは何かについて考える。			・ 予習（参考書(c)pp. 25-45）（1 時間） ・ 授業テーマについて自分の意見を考えてみる		
6)人がうまれるとき③：デザイナーベビーや代理出産（だいいり・しゅっさん）について見てみよう。それはいいことなのか、どんな問題があるのか考える。			・ 予習（参考書(a)pp. 46-60）（1 時間） ・ 授業テーマについて自分の意見を考えてみる		
7) 尊厳死（そんげんし）と安楽死（あんらくし）：人が人らしく生きて死ぬとはどういうことか？その問題について考えてみよう。			・ 予習（参考書(a)pp. 187-210）（1 時間） ・ 授業テーマについて自分の意見を考えてみる		
8)脳死（のうし）と臓器移植（ぞうき・いしよく）：脳死は死か？臓器（ぞうき）を移植（いしよく）することにどんな問題があるのか考える。			・ 予習（参考書(a)pp. 211-234）（1 時間） ・ 授業テーマについて自分の意見を考えてみる		
9) 尊厳（そんげん）について①：健康寿命（けんこう・じゅみょう）について見てみよう。尊厳（そんげん）のある生き方とはどんなものなのかについて考える。			・ 予習（参考書(a)pp. 141-166）（1 時間） ・ 授業テーマについて自分の意見を考えてみる		
10) 尊厳（そんげん）について②：終末期医療（しゅうまつき・いしょう）、ターミナルケアについて見てみよう。尊厳（そんげん）のある死とはどんなものかについて考える。			・ 予習（参考書(a)pp. 167-186）（1 時間） ・ 授業テーマについて自分の意見を考えてみる		
11)介護の現場で：介護の現場で直面するであろう倫理的な問題を取りあげ、それらを通して人間の尊厳や自立の支援について考えを深める。			・ 予習（参考書(a)pp. 119-140）（1 時間） ・ 授業テーマについて自分の意見を考えてみる		
12)あたらしい技術（ぎじゅつ）①：クローンについて見てみよう。とくに、動物や人間のクローンについて、なにが問題なのか考える。			・ 予習（参考書(c)pp. 66-83）（1 時間） ・ 授業テーマについて自分の意見を考えてみる		
13)あたらしい技術（ぎじゅつ）②：ES細胞と iPS 細胞について見てみよう。それでなにができるのか知って、そこになにか問題があるのか考える。			・ 予習（参考書(c)pp. 233-252）（1 時間） ・ 授業テーマについて自分の意見を考えてみる		
14)あたらしい技術（ぎじゅつ）③：エンハンスメントやドーピングにつ			・ 予習（参考書(a)pp. 253-276）（1 時間）		

いて見てみよう。人間の能力（のうりょく）を強くすることにはどんな問題があるのか考える。		・授業テーマについて自分の意見を考えてみる
15) 講義のまとめ。到達度の確認を行う。		・これまで学習してきた内容について復習しましょう
[使用テキスト]授業時にプリントを配布する。		
[参考文献]		
(a) 玉井真理子、大谷いづみ編『はじめて出会う生命倫理』（有斐閣アルマ）		
(b) 小林亜津子『はじめて学ぶ生命倫理 「いのち」は誰が決めるのか』（ちくまプリマー新書）		
(c) 小林亜津子『看護のための生命倫理〔改訂版〕』（ナカニシヤ出版）		
ほかに必要な場合は、授業中に適宜紹介する。		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認（100％）	各回のテーマに沿った理解を、毎回の小テストで確認。授業の感想を課題として提出。 (60%) 最終講での到達度の確認（40%）	
②実技・作品発表等（　　％）		
【定期試験】		
①筆記試験（　　％）		
②レポート（　　％）		
③実技試験（　　％）		
④面接試験（　　％）		
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する	
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない	
[フィードバックの方法]		
到達度の確認について、解答を試験期間終了後に開示する。		
[備考]		

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

4110130

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 福祉マネジメント論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 宮田 英幸			
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター	卒業：選択必修	資格：選択必修
☑ 実務経験		特別養護老人ホーム施設長としての経験を活かし、福祉サービスのマネジメントについて講義する。					
[授業の目的・ねらい] 福祉サービスのマネジメントに必要な知識・技術・倫理を身につける。							主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 福祉サービス提供組織のあり方、経営、人材育成、マネジメント機能について学習を深める。							
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 福祉サービスのマネジメントに必要な知識・技術・倫理を身につける。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) イントロダクション 福祉マネジメントの全体像、経営、組織と環境、組織と人、人材育成				クラス、サークル、アルバイトなどの経験から、集団や組織がうまく機能するためには、人柄や性格や人間関係以外に何が必要か、プレゼンテーションできるようにしておくこと。（120分）			
2) 介護サービスの特性と求められるマネジメント				予習『介護福祉士養成講座1 人間の理解』p178～276 所要時間「30分」			
3) 福祉サービスの理念、目標、役割、担い手				予習『介護福祉士養成講座1 人間の理解』p2～79 所要時間「30分」			
4) 福祉サービス提供組織の実情と課題 社会福祉法人、NPO 法人、株式会社等							
5) 介護福祉士の倫理 対人援助職の倫理とは				予習「日本介護福祉士会 倫理基準（行動規範）」 所要時間「30分」			
6) 利用者の人権 社会正義				予習『介護福祉士養成講座1 人間の理解』p2～51 所要時間「30分」			
7) スーパービジョン				予習『介護福祉士養成講座1 人間の理解』p203～220 所要時間「30分」			
8) 福祉の職場における安全・安心な環境							
9) メンタルヘルス、ハラスメント防止							
10) 虐待・身体拘束・不適切ケアを考える				予習『介護福祉士養成講座2 社会の理解』p260～284 所要時間「30分」			
11) リスクマネジメント							
12) コンプライアンスとガバナンス							
13) 人材育成 キャリアデザイン 魅力ある職場づくり				予習『介護福祉士養成講座1 人間の理解』p221～276 所要時間「30分」			
14) 福祉サービスの情報提供、サービスの質の向上、評価、地域に開かれた組織				予習『介護福祉士養成講座2 社会の理解』p52～64、319 所要時間「30分」			
15) 学習内容の確認（到達度の確認）							
[使用テキスト] 介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新 介護福祉士養成講座1 人間の理解(第2版)』中央法規出版 介護福祉士養成講座編集委員会編集『最新 介護福祉士養成講座2 社会の理解(第2版)』中央法規出版 上記2冊以外に、授業時に資料を配布する。							
[参考文献] 各回の授業において、適宜紹介する。							
[評価の実施方法と基準]							
【平常試験】							
①到達度の確認（90%）		授業への参加度（10%）、第15講での到達度の確認（80%）					
②実技・作品発表等（10%）		授業時における提出物					

【定期試験】	
①筆 記 試 験 (%)	
②レ ポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 到達度の確認について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3010132

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 国家試験実践演習Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 石田 史樹・永原 直子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 4 セメスター	卒業：選択		資格：必修
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 人間と社会の領域においてこれまで学んだ内容を総復習し、介護福祉士に必要とされる知識を確たるものとし、国家試験に合格できる水準の知識を獲得する。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 介護の基本である人間の尊厳、コミュニケーションを学び、社会の理解については制度を中心にグループワークを通して総復習する。さらに演習問題や模擬試験とその解説をとおしてこれまでの学習の総まとめを行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 国家試験に合格できる水準の知識を身につけ、同水準の問題を解くことができるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーションと領域のまとめ 授業のオリエンテーションと、領域のまとめとして概要を講義する。また、これまでの知識の確認を行う。			国家試験実践演習ⅠⅡで使用した問題を解けるようにしておくこと（3時間以上）		
2) 人間の尊厳と自立 問題を解き、知識を確認する。					
3) 人間の尊厳と自立 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
4) 人間関係とコミュニケーション 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
5) 人間関係とコミュニケーション 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
6) 社会の理解 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
7) 社会の理解 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
8) 社会の理解 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
9) 社会の理解 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
10) 社会の理解 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
11) 社会の理解 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
12) 授業内試験1 到達度の確認として筆記試験を実施する。この試験の成績は、成績全体の25%に相当する。			これまでの問題を解き直し確認しておく（2時間）		
13) 授業内試験1の解説と復習			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
14) 授業内試験2 到達度の確認として筆記試験を実施する。この試験の成績は、成績全体の25%に相当する。			これまでの問題を解き直し確認しておく（2時間）		
15) 授業内試験2の解説と復習			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
[使用テキスト]「介護福祉士全国統一模擬試験第1回／第2回」中央法規出版 「介護福祉士国家試験一問一答ポケットブック2024」中央法規出版 「書いて覚える！合格ドリル2024」中央法規出版					
[参考文献]必要に応じて提示する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認（50%）		2回の授業内試験を実施する。それぞれ成績全体の25%とする。			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
① 筆記試験（50%）		介護福祉士全国統一模擬試験第2回の「人間と社会」領域の成績（12月実施予定）			
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		□ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]試験終了後、正答と解説を配布する。					
[備考]この授業は国家試験実践演習Ⅱ・Ⅲと併せて受講すること。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3010142

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者			
音楽文化と福祉		講義		池田 弥生			
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター	卒業：選択必修	資格：選択必修
☑ 実務経験		2005 年からの病院・介護施設の現場でのレクリエーションの経験を活かし、音楽の現場での必要性を講義する。					
[授業の目的・ねらい] 高齢者の心身における様々な症状を理解し、生活や生き方を支えていく援助のあり方とは何かについて考えることは重要である。また、介護が必要な高齢者・障がい者への支援や、介護予防につながるアプローチのひとつとして注目されている音楽を活用したアプローチについて理解する							主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 福祉の現場において音楽が実際に活用されている事例をみながら、音楽が対象者の身体や精神及ぼす影響について理解するとともに、実技を通して具体的な実践方法を講義する。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 受講者自身が音楽を楽しむとともに高齢者・障がい者への音楽を活用したアプローチを習得し、その効果や意義が説明できるようになる							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) オリエンテーション：講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する				利用者の身体面、精神面の特徴を理解するため、学校の授業の復習、高齢者の生きてこられた時代背景、生活文化など、日常的に社会に関心を持ち情報収集する。（約2時間）			
2) 高齢者・障がい者への音楽を活用したアプローチ① 身体や精神に及ぼす影響についての講義と事例紹介				※毎授業の準備として前回授業で行ったことを復習する (30分)			
3) 高齢者・障がい者への音楽を活用したアプローチ② 身体や精神に及ぼす影響についての講義と事例紹介				同上			
4) 認知症高齢者のコミュニケーションと音楽を活用したアプローチ① 認知症高齢者のコミュニケーションの特徴を理解し、音楽を活用したアプローチの実践を学ぶ				同上			
5) 認知症高齢者のコミュニケーションと音楽を活用したアプローチ② 認知症高齢者のコミュニケーションの特徴を理解し、音楽を活用したアプローチの実践を学ぶ				同上			
6) 高齢者・障がい者への音楽を活用したアプローチ 介護 ① 介護の場面で音楽を活用したアプローチが身体や精神に及ぼす影響について学ぶ				同上			
7) 高齢者・障がい者への音楽を活用したアプローチ 介護 ② 介護の場面で音楽を活用したアプローチが身体や精神に及ぼす影響について学ぶ				同上			
8) 高齢者・障がい者への音楽を活用したアプローチ リハビリテーション① リハビリテーションの場面で音楽を活用したアプローチが身体や精神に及ぼす影響について学ぶ				同上			
9) 高齢者・障がい者への音楽を活用したアプローチ リハビリテーション② リハビリテーションの場面で音楽を活用したアプローチが身体や精神に及ぼす影響について学ぶ				同上			
10) 高齢者・障がい者への音楽を活用したアプローチ ターミナルケア① ターミナルケアの場面で音楽を活用したアプローチが身体や精神に及ぼす影響について学ぶ				同上			
11) 高齢者・障がい者への音楽を活用したアプローチ ターミナルケア② ターミナルケアの場面で音楽を活用したアプローチが身体や精神に及ぼす影響について学ぶ				同上			
12) 高齢者への音楽を活用したアプローチ 介護予防①				同上			

介護予防の場面で音楽を活用したアプローチが身体や精神に及ぼす影響について学ぶ		
13) 高齢者への音楽を活用したアプローチ 介護予防② 介護予防の場面で音楽を活用したアプローチが身体や精神に及ぼす影響について学ぶ		同上
14) 授業の振り返りとまとめ 実技発表を行なう①		
15) 授業の振り返りとまとめ 実技発表を行なう②		
[使用テキスト]		
[参考文献]		
[評価の実施方法と基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認 (30 %)	授業内容を理解できているか小テスト	
②実技・作品発表等 (70 %)	レクリエーションを想定した歌唱、手遊びの発表	
【定期試験】		
①筆記試験 (%)		
②レポート (%)		
③実技試験 (%)		
④面接試験 (%)		
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する	
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない	
[フィードバックの方法] 実技発表について、講評を行う		
[備考]		

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1220135

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名）		授業の種類（講義・演習・実技・実習）		授業担当者	
統計基礎		講義		永原 直子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター
				卒業：選択必修	資格：選択必修
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 客観的事実から物事を考え判断するための方法の一つである統計学の基礎知識を理解し、説明できる。また、基本的な記述統計については実際に自分で利用できるようになる。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 統計学の基礎的な事項である、代表値、分布、相関、検定について紹介し、身近な物事を測定するための方法や手続きについて、講義・演習を行う。					
[授業終了時の達成課題（到達目標）] 授業を通じ、他者の研究報告（論文等）を読み解く力を付ける。また、自身で調査・研究をするために求められる基本的な統計学の知識（主に記述統計）を基に、実際に計算できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) データとは何か 統計とは何か、なぜ必要かを理解する。また、データの種類と尺度の種類を学ぶ。※課題			高校までの数学、特に、四則演算、二次関数、比例、確率統計について復習しておく（5時間程度）。		
2) 度数分布 度数とは何か、度数分布とは何かを理解し、量的データ及び質的データの度数分布を図表に表す方法を学ぶ。※課題			前回の内容について復習し、提示された課題を行う。（1時間）		
3) 数値要約 1 代表値と散布度について学び、自身で計算できるようになる。			前回の内容について復習し、提示された課題を行う。（1時間）		
4) 数値要約 2 代表値と散布度が、個々のデータからどのような影響を受けるかを理解する。※課題			前回の内容について復習しておく。（1時間）		
5) 量的データの相関 1 2つの量的データの関係を学ぶ。相関の概念を理解する。			前回の内容について復習し、提示された課題を行う。（1時間）		
6) 量的データの相関 2 相関係数の計算方法を身につける。			前回の内容について復習しておく。（1時間）		
7) 相関に影響を与える様々な要因 非直線的関係の存在、外れ値の影響などを学び、相関関係と相関図の関係について理解を深める。※課題			前回の内容について復習しておく。（1時間）		
8) 質的データの相関 1 グループワークを通してクロス集計表を作成できるようになる。また、質的データの相関について理解する。			前回の内容について復習し、提示された課題を行う。（1時間）		
9) 質的データの相関 2 ϕ 係数とクラメールの連関係数の計算方法を身につける。※課題			前回の内容について復習しておく。（1時間）		
10) データの標準化 データ値の比較を考える。標準得点とは何か、偏差値とは何かを理解し、計算できるようになる。			前回の内容について復習し、提示された課題を行う。（1時間）		
11) 分布 1 確率分布と確率密度関数について理解する。※課題			前回の内容について復習しておく。（1時間）		
12) 分布 2 正規分布、 t 分布、 χ^2 分布などの代表的な分布について学ぶ。分布について、学生同士でお互いに説明する。			前回の内容について復習し、提示された課題を行う。（1時間）		
13) 統計的検定の基礎 記述統計と推測統計、無作為標本抽出などについて学び、統計的検定の基本的な考え方と手続きについて知る。			前回の内容について復習しておく。（1時間）		
14) 授業内試験：理解到達度の確認のため、筆記試験を行う。			これまでの内容を復習しておく。（2時間）		
15) 試験問題解説：試験の問題について、模範解答を示し、解説を行う。					
[使用テキスト] 『本当にわかりやすいすぐ大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房 電卓（関数電卓・携帯電話・スマートフォン等不可、√機能のあるもの）					
[参考文献] 『マンガでわかる統計学』オーム社 『データ解析テクニカルブック』北大路書房					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（100％）		授業内にて筆記試験を行う			
②実技・作品発表等（％）					
【定期試験】					
①筆記試験（％）					
②レポート（％）					
③実技試験（％）					
④面接試験（％）					

平常点評価	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 課題は返却後授業内にて解説する。また最終講にて試験の模範解答を示し、解説する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2220146

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 生活学		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 北垣 智基	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 4 セメスター	卒業：選択必修	資格：選択必修	
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 個々人の自立した生活について理解するため、個人・家族・近隣・地域・社会の各レベルで人間の生活を捉える視点を養い、多様な社会関係を理解するための知識と技術を習得する。また、以上を通じて豊かな人間性と社会性を身につける。				主に対応するDP 1	
[授業全体の内容の概要] 介護福祉士にとっての生活支援の意味、社会生活における人間関係形成、家庭生活、高齢者福祉施設における生活支援の歴史、地域生活支援の視点と方法に関する基礎的な知識・技術等について解説する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護福祉士にとっての生活支援の意味、社会生活で求められる人間関係形成の方法、家庭生活を理解する視点、高齢者福祉施設における生活支援の歴史、地域生活支援の視点と方法に関する基礎的な知識・技術について理解し、介護福祉現場における活用方法を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業全体の概要とねらいについて					
2) 生活と福祉：生活/支援とは何か			人間にとっての「生活」とは何か、また「生活支援」とは何かについて、これまでの学びをふりかえり整理すること(30分)。		
3) 生活と福祉：生きる意欲を引き出す支援①映像の視聴			「生きる意欲を引き出す」とはどういうことかを自分なりに考察し、整理すること(30分)。		
4) 生活と福祉：生きる意欲を引き出す支援②グループディスカッション			グループディスカッションに向けて、ディスカッショントピックについて自分なりに考察し整理すること(30分)。		
5) 生活と福祉：社会生活における人間関係形成② 自己覚知・他者理解（グループディスカッション）			あらかじめ「自己覚知」について自分なりに調べるとともに、「他者理解」の方法について自分なりに考察し整理すること(30分)。		
6) 生活と福祉：社会生活における人間関係形成③ 生活者の「強み・力」をとらえる視点(グループディスカッション)			ICFにおける「促進因子」の意味や内容について復習し整理しておくこと(30分)。		
7) 生活と福祉：家庭生活の理解① 「生活時間」を理解する(グループディスカッション)			自身がふだんの生活の中でどのような時間の過ごし方をしているか振り返っておくこと(30分)。		
8) 生活と福祉：家庭生活の理解② 「家族」とその機能について(グループディスカッション)			「家族」の意味を調べるとともに、自分なりの「家族」のイメージについて振り返り整理しておくこと(30分)。		
9) 生活と福祉：高齢者福祉施設における「生活支援」のあゆみ① 戦前～1980年代			戦前から1980年代の高齢者福祉に関する主要な法律・制度について調べて整理しておくこと(30分)。		
10) 生活と福祉：高齢者福祉施設における「生活支援」のあゆみ② 1990年代～現在			1990年代から現在に至るまでの高齢者福祉に関する主要な法律・制度について調べて整理しておくこと(30分)。		
11) 生活と福祉：高齢者の生活史を学ぶ① 映像の視聴と考察			昭和の時代の一般市民の生活様式について自分なりに調べ、整理しておくこと(30分)。		
12) 生活と福祉：高齢者の生活史を学ぶ② グループディスカッション			映像教材の視聴を通じて自分なりに考えたことや気づいたことを発表できるよう整理しておくこと(30分)。		
13) 生活と福祉：地域生活支援の視点と方法① 地域における生活上のニーズを知る(グループワーク)			マッピング技法(ジェノグラム・エコマップ)について復習しておくこと(30分)。		
14) 生活と福祉：地域生活支援の視点と方法② 社会関係・社会資源を捉える視点(グループワーク)			地域に住む住民同士の関係作りの方法について自分なりに考察し整理しておくこと(30分)。		
15) 講義全体のふりかえりとまとめ					

[使用テキスト] 必要に応じて適宜紹介する。	
[参考文献] 日本福祉文化学会監修、河島修・厚美薫・島村節子著『増補高齢者生活年表 1925-2000 年』日本エディターズスクール出版部、2001	
[評価の実施方法と基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (%)	
②実技・作品発表等 (%)	
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (100%)	講義内容に基づくレポートの提出を求める。
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する (毎回の授業終了時にリアクションペーパーの提出を求め、参加度と理解度を確認する。また、この内容を学習の成果に加味する)
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 授業内レポート課題について、第 15 回講義時にポイントの解説を行う。	
[備考] 成績評価は授業内レポートの内容に基づいて行う。レポートの具体的な評価基準については授業内でアナウンスする。なお授業への参加度と理解度を学習の成果に加味する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1220148

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） ヘルスケアアクティビティ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義・実技		授業担当者 高井逸史・川口眞利子			
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター	卒業：選択必修	資格：選択必修
☑ 実務経験		通所介護職員としての経験を活かし、その他の運動指導との関りについて講義する					
[授業の目的・ねらい] 健康な生活を送るために行うストレッチやヨガ、ウォーキングなどの合理的な実践方法について学ぶ。実際に体験するとともに、仲間と協力し楽しむ方法を身につける。							主に対応するD P 5
[授業全体の内容の概要] 多くの人が手軽に行える運動であるウォーキング、ヨガ、ストレッチなどが身体や精神に及ぼす影響についての講義と実技を通し、健康維持につながる運動の実法を学ぶ							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ウォーキング、ヨガ、ストレッチなどの運動が身体や精神に及ぼす影響について実践を交え解説できるようになる							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) オリエンテーション 講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する							
2) 体力測定（講義および実技） バランス能力を測定し、レポートを作成する バランス能力が筋力と柔軟性と関係することを学び、体力と健康との関わりについて理解する				あらかじめ授業内容を確認し分からない語句 などがあれば調べておく【所要時間 15 分】			
3) ストレッチ① ストレッチとは何かを理解する 身体各部のストレッチの基本実践を体験し、身体や精神に及ぼす影響を体感する				あらかじめ授業内容を確認し分からない語句 などがあれば調べておく【所要時間 15 分】			
4) ストレッチ② ①で習得したことを解剖学的観点から学び、筋肉の収縮や弛緩による身体や精神に及ぼす影響について理解する				あらかじめ授業内容を確認し分からない語句 などがあれば調べておく【所要時間 15 分】			
5) ストレッチ③ ストレッチによって起こる内科的影響や精神に及ぼす影響について理解する				あらかじめ授業内容を確認し分からない語句 などがあれば調べておく【所要時間 15 分】			
6) ストレッチ④ なぜ高齢者にストレッチを勧めるのかを学び、生活習慣や疾患との関りを理解する				あらかじめ授業内容を確認し分からない語句 などがあれば調べておく【所要時間 15 分】			
7) ウォーキング① ウォーキングとは何かを理解する ウォーキングの基本的実践方法を学び、身体や精神に及ぼす影響について理解する				あらかじめ授業内容を確認し分からない語句 などがあれば調べておく【所要時間 15 分】			
8) ウォーキング② RPE を用いてウォーキングの強度が身体に与える影響について理解する				あらかじめ授業内容を確認し分からない語句 などがあれば調べておく【所要時間 15 分】			
9) ウォーキング③ ②で習得したことを元に、対象者に応じたウォーキングの実践方法を理解する				あらかじめ授業内容を確認し分からない語句 などがあれば調べておく【所要時間 15 分】			
10) ウォーキング④ ウォーキングが精神に及ぼす影響について理解する				あらかじめ授業内容を確認し分からない語句 などがあれば調べておく【所要時間 15 分】			
11) ヨガ① ヨガとは何かを理解する 呼吸法を含むヨガの基本実践を体験し、身体や精神に及ぼす影響を体験する				あらかじめ授業内容を確認し分からない語句 などがあれば調べておく【所要時間 15 分】			
12) ヨガ② 東洋医学的観点と解剖学的観点の違いを理解し、ヨガが身体や精神に及ぼす影響について理解する				あらかじめ授業内容を確認し分からない語句 などがあれば調べておく【所要時間 15 分】			
13) ヨガ③ 呼吸と姿勢についてを学び、ヨガが身体に及ぼす影響について理解する				あらかじめ授業内容を確認し分からない語句 などがあれば調べておく【所要時間 15 分】			

14) ヨガ④ 瞑想についてその概念を学び、ストレッチとヨガの違いを理解する	あらかじめ授業内容を確認し分からない語句 などがあれば調べておく【所要時間 15 分】
15) 授業の振り返りとまとめ	
[使用テキスト] 特になし。授業内容に応じて適時配布する。	
[参考文献]	
[評価の実施方法と基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (%)	
②実技・作品発表等 (40 %)	授業内でおこなう実技や課題についてその講義内で解説しフィードバックする
【定期試験】	
①筆記試験 (60 %)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 実技発表について、講評を行う	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

5220148

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 福祉労働論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 古川 利通	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 4 セメスター	卒業：選択必修	資格：選択必修	
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ひととおり介護と福祉を学んできた諸君が、実際に起こった事件と判決を理解し、それに基づき介護と福祉の実態について主体的に学び自分の考え方をつくることができる力と、それを発表できる力を身につけることを目的とする。				主に対応するDP 1	
[授業全体の内容の概要] この授業は演習方式である。学生が関心を持った介護・福祉に関する判例（事件と判決）を選び、1 回目の授業でグループで事件と判決の内容を報告し、全員が理解する。2 回目の授業で、それに基づいて学生全員が討論する方式である。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護や福祉の現状に関する深い理解を獲得し、事例を分析し、自分の意見をつくりあげ、その意見を表明する力を身に付けること。他人の意見に対して意見を述べる事が出来ること。判例報告を行い、積極的に意見を述べることであれば単位は授与する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 「福祉労働」論演習のやり方の説明。学生が判例を選ぶ。学生の希望に基づいて報告グループの決定。			報告者グループは、判例を理解し、報告レジュメを作成すること。その他の者は発言内容を考えておくこと。2019年度の報告レジュメは優秀なものが多かった。本年も期待する。		
2) 「有料老人ホーム事業の破綻と経営者の責任」の事実と判決の理解。他の参加者は語句の意味などの質問を行う。					
3) 「有料老人ホーム事業の破綻と経営者の責任」の判決批判と報告者の意見に基づき、討論する。					
4) 「ボランティアの民事責任」の事実と判決の理解。他の参加者は語句の意味などの質問を行う。					
5) 「ボランティアの民事責任」の判決批判と報告者の意見に基づき、討論する。					
6) 「福祉施設退所後の知的障害者に対する使用者の虐待と福祉事務所など行政主体の責任」事件の事実と判決の理解。他の参加者は語句の意味などの質問を行う。					
7) 「福祉施設退所後の知的障害者に対する使用者の虐待と福祉事務所など行政主体の責任」事件の判決批判と報告者の意見に基づき、討論する。					
8) 「使用者の安全配慮義務」事件の事実と判決の理解。他の参加者は語句の意味などの質問を行う					
9) 「使用者の安全配慮義務」事件の判決批判と報告者の意見に基づき、討論する。					
10) 「知的障害者更生施設による障害基礎年金の横領」事件の事実と判決の理解。他の参加者は語句の意味などの質問を行う。					
11) 「知的障害者更生施設による障害基礎年金の」事件の判決批判と報告者の意見に基づき、討論する。					
12) 「民間養護施設における集団暴力によって生じた入所児の後遺障害」事件の事実と判決の理解。他の参加者は語句の意味などの質問を行う。					
13) 「民間養護施設における集団暴力によって生じた入所児の後遺障害」事件の判決批判と報告者の意見に基づき、討論する。					
14) 「老人保健施設における事故と施設経営者の責任」事件の事実と判決の理解。他の参加者は語句の意味などの質問を行う。					
15) 「老人保健施設における事故と施設経営者の責任」事件の判決批判と報告者の意見に基づき、討論する。					
[使用テキスト] 『レジュメ』『社会福祉小六法』（ミネルバ書房）					
[参考文献] ジュリスト『社会福祉判例100選』有斐閣					
[評価の実施方法と基準]					

【平常試験】	
①到達度の確認（10％）	到達度の確認（第15講で実施）
②実技・作品発表等（90％）	授業内の報告・討論
【定期試験】	
①筆記試験（　％）	
②レポート（　％）	
③実技試験（　％）	
④面接試験（　％）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験・レポート課題について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。	
[備考] 報告をグループで協力して行うことで50点（50％）、報告者でない時に、積極的に質問・意見を出すことで40点（40％）、到達度の確認で10点（10％）の総合評価。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1220140

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 在宅介護福祉		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義・演習		授業担当者 小野寺 美雪			
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター	卒業：選択必修	資格：必修
☑ 実務経験		在宅介護の現場経験が有り、具体的事例と理論を結び付けて授業で説明する。					
[授業の目的・ねらい] 介護福祉士としての必要な在宅での尊厳を支える介護、自立に向けた介護の知識・技術を学び、在宅における生活支援が実践できるようになる。また介護実践の連携も視野に入れ幅広い在宅介護の展開方法の知識を説明できるようになる。							主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 在宅介護における①介護福祉士を取り巻く状況、②介護福祉士の役割と機能、③尊厳を支える介護、自立に向けた介護、④対象理解、⑤サービスの概要、⑥連携、⑦在宅介護における安全の確保とリスクマネジメント、⑧従事者の倫理・安全、等について取り扱う。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 在宅における介護を必要とする人と家族の、「尊厳の保持」と「自立支援」に視点をおいた介護福祉の知識を習得し、在宅介護の方法について説明ができるようになる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) 支援に必要な高齢者や障害者の生活から社会が抱える問題点を学ぶ。そして「在宅福祉」の概念と在宅福祉に関する制度の概要を学ぶ。（DVD、講義）							
2) 介護保険法の概要と、制度のしくみについて学ぶ。（講義）				介護保険パンフレット等を参考に在宅介護サービスの概要について、事前に学習しておくこと（1時間）			
3) 訪問介護や在宅サービスに関する制度の枠組み（事業所設置の根拠とサービス利用の根拠）、対象者理解と介護福祉士の果たす役割について学ぶ。（講義 DVD）				介護保険パンフレット等を参考に在宅介護サービスの概要について、事前に学習しておくこと（1時間）			
4) 介護保険におけるケアプラン作成の実際と、介護保険サービスの利用に関する手続きの方法について学ぶ（講義、DVD）							
5) 事例検討：脳梗塞の後遺症などの身体障害を中心とする支援の在り方を検討する。（在宅生活での不便や不自由を考える）（演習、DVD）							
6) 事例検討：認知症の方の心理を考え、尊厳の保持をするための支援を考える。（演習、DVD）							
7) 障害者の支援の歴史や社会的背景を学ぶ。在宅での生活の意義を考える。（講義 DVD）							
8) 知的障害・精神障害・発達障害の方の生活から、それぞれの障害特性を学び、「自立支援」について考える。（演習、DVD）							
9) 障害者総合支援法の概要と、制度のしくみについて学ぶ。（講義）				障害福祉のパンフレット等を参考に在宅介護サービスの概要について、事前に学習しておくこと（1時間）			
10) 障害者総合支援法におけるサービス等利用計画の実際と、障害サービスの利用に関する手続きの方法について学ぶ（講義、DVD）							
11) 事例検討：身体障害者の支援について考え、在宅生活での不便や不自由を考える。（演習、DVD）							
12) 事例検討：知的障害者の支援について考え、尊厳の保持をするための支援を考える。（演習、DVD）							
13) 事例検討：難病患者の支援について考え、在宅生活での不便や不自由を考える。（演習、DVD）							
14) 在宅支援の他職種連携（基幹、社協、地域包括ケアシステム）5080 問題を含め制度を超えた連携について学ぶ。（講義 DVD）到達度の確認のため筆記試験							
15) これまでの授業のまとめと課題のフィードバック							
[使用テキスト] 授業時にプリントを配布する							
[参考文献] 授業内で随時紹介する。							

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (100%)	演習記録と筆記試験で評価を行う
②実技・作品発表等 (%)	
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する (最大 40%)
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 提出された課題について、第 15 回講義時に解説し、フィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1210235

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） リスクマネジメント		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 藤野 ゆき	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 4 セメスター	卒業：選択必修	資格：必修	
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 介護場面で遭遇する介護事故、感染症の発生に対する知識を習得し、実践できるようになる。また、介護従事者の心身の健康管理において必要な知識を身につけ実践できるようにする。介護現場のリスクに対して幅広い視野でとらえ、客観的な事実から状況を判断し、事故防止を実践できるようにする。				主に対応するD P 1	
[授業全体の内容の概要] ①介護における安全の確保 ②リスクマネジメント ③感染対策 ④介護従事者の安全（心身の健康管理）について学習し危険予測能力・利用者の安全に配慮した介護を実践するための知識・技術を身につける					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 安全の確保の重要性とリスクマネジメントの学習を通し、介護福祉士にとって必要な危険予測能力・利用者の安全に配慮した介護を実践できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 安全の確保の重要性とリスクマネジメント：福祉施設における利用者の安全と安心の向上を目指したリスクマネジメントの具体例から、その必要性和課題について学ぶ			実習等で介護場面におけるリスク、感染症等について十分に考え、観察をしておくこと。 (20 分)		
2) リスクマネジメントの基礎知識：原因究明と合理的な防止対策を重視するリスクマネジメントの考え方について理解する			実習等の介護現場における「事故」について考えておくこと (10 分)		
3) 事故防止の基本活動：事故防止の基本活動 設備・用具の保守点検、建物・設備の構造の見直しの具体例から、その必要性和課題について学ぶ 介護事故に関わる判例をもとにしたディスカッションを行う			介護現場で実施されている「点検」について振り返り (10 分)		
4) 事故防止の基本活動：事故防止の基本活動 介護動作・手順、業務手順の見直し、利用者個別のリスクアセスメントの具体例から、その必要性和課題について学ぶ 事例をもとにしたグループワークを行う			他教科で学んだ介護の動作について確認する (20 分)		
5) ヒヤリハットの取り組み：事故が起こる前の防止対策として有効なヒヤリハットの取り組みについて学ぶ			日常生活で経験するヒヤットしたり、ハットする事柄がないか考える (10 分)		
6) 事故発生時の対応：現場ではすべての事故や緊急事態に対し、万全の処置(応急処置)を行う義務がある。事故対策マニュアル、事故事例検討の具体例から、その必要性和課題について学ぶ 事例検討およびディスカッションを行う			実習先で行われている事故防止対策を振り返る (10 分)		
7) 介護事故・トラブルに関する基礎知識：実際におこった事故、トラブルの事例検討から、予防対策を検討する			実習先で行われているトラブル対策を振り返る (10 分)		
8) 介護事故・トラブルに関する基礎知識：介護事故についての判決例の検討から、法律的な考え方の基礎知識を身につける			介護事故に関する報道に目を通す (10 分)		
9) 感染管理のための方策：介護施設と感染対策 注意の必要な感染症とその対策の基礎知識について学ぶ 施設の衛生管理と介護職が行うべき感染対策について学ぶ			感染症に関する報道資料を読む (20 分)		
10) 感染管理のための方策：感染症の発生時の対応(状態把握、拡大の防止、報告)について、個別の感染対策、感染経路を理解した予防策が行える知識を身につける			他教科で学んだ感染対策を見直す (20 分)		
11) 感染管理のための方策：介護施設と感染管理体制の仕組みの具体例から、その必要性和課題について学ぶ			他教科で学んだ感染対策を見直す (20 分)		
12) 介護従事者の心身の健康管理 介護従事者のおかれている状況から発生しやすい、心身の不調について知識を得、理解する			介護労働者の健康問題について考える (20 分)		
13) 介護従事者の心身の健康管理：こころの健康管理、バーンアウト、ストレスのコントロールなどについて学ぶ			介護労働者のストレスに関する調査資料に目を通す (20 分)		
14) 介護従事者の心身の健康管理 からだの健康管理 感染予防、腰痛予防、その他 について学ぶ			自らが健康に働くために何が必要かを考える (10 分)		
15) 授業のまとめと筆記による到達度の確認			講義全体の内容を振り返る (120 分)		

[使用テキスト]	
講義内で毎回プリントを配布する	
[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（100 %）	講義時の出席カードの提出およびリスクマネジメントに関する課題レポートの提出（40%） レポート（20%）、筆記試験（40%）
②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（ %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験・レポート課題について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1210246

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 介護福祉倫理		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 鴻上 圭太			
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター	卒業：必修	資格：必修
☑ 実務経験		重症心身障害児施設職員の経験を具体的事例として授業に活用する。					
[授業の目的・ねらい] 介護福祉士として必要な人権擁護の視点、介護従事者の倫理、専門職としての職業倫理の視点を説明できるようになる。							主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] ①人権とは何か人権擁護の歴史 ②介護福祉士としての倫理 介護福祉士会倫理要綱 ③介護福祉士に求められる職業倫理など、人権擁護の視点、専門職としての職業倫理観を養う上での幅広い内容を扱う。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 介護福祉士として必要な人権擁護の視点、倫理学の基本概念に対する自己の倫理観、及び専門職としての自己の職業倫理観とはどのようなことか、説明ができるようになる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) オリエンテーション：介護福祉倫理として取り扱うテーマの概要について説明し、「倫理」とは何かをおさえ、介護福祉士としての倫理的思考とは何かについて、事前におさえる。				配布資料をもとに、復習すること。			
2) 倫理の基本課題①：「価値」について学ぶ。倫理的思考と「価値」がどのようにむすびついているのか、学ぶ。				配布資料をもとに、復習すること。			
3) 倫理の基本課題②：「価値」について学ぶ。「価値」という概念が、人間の行動にどう表れるのか、学ぶ。				配布資料をもとに、復習すること。			
4) 介護福祉士の責務と役割①：介護福祉士に与えられている責務とはどのようなものか、また社会から期待されている「役割」とはどのようなものか、学ぶ。				配布資料をもとに、復習すること。			
5) 介護福祉士の責務と役割②：介護福祉士に与えられている責務と役割について、制度施策の視点、そして倫理の4原則の視点から考える。				配布資料をもとに、復習すること。			
6) 倫理の基本課題②：「自由」とはなにか① 「自由」とはどのような状態なのか、歴史的に「自由」についてどのように考えられてきたのか、について学ぶ。				配布資料をもとに、復習すること。			
7) 倫理の基本課題②：「自由」とはなにか② 介護現場における「自由」と何か。利用者にとっての自由、介護福祉士にとっての自由とは何かについて考える。				配布資料をもとに、復習すること。			
8) ケアの倫理その1：ミルトンメイヤーロフやエヴァ・フェダーキティのケアの倫理を紹介し、その内容を学ぶ				配布資料をもとに、復習すること。			
9) ケアの倫理その2：ケアの倫理について、さまざまな議論がある。それらを紹介し、ケアの倫理について考える。				配布資料をもとに、復習すること。			
10) 正義の倫理：正義の倫理とはどのようなものなのか、について学ぶ。				配布資料をもとに、復習すること。			
11) ケアの倫理と正義の倫理：ケアの倫理と正義の倫理は、歴史的に互いに絡み合いバランスを取り合いながら、人権思想の発展に寄与してきた。その内実を学ぶ。				配布資料をもとに、復習すること。			
12) 「平等」の概念について考える：平等とはなにか、「平等」の視点で社会を見たとき、どのように見えるのか、体験する。				配布資料をもとに、復習すること。			
13) 介護の原則について考える①：「尊厳」を取り上げ、尊厳についてどのような議論があり、尊厳について社会がどのように捉えているのか学び、そして尊厳を基にした介護とはどのようなものなのか考える。				配布資料をもとに、復習すること。			
14) 介護の原則について考える②：「自律」を取り上げ、自律についてどのような議論があり、自律について社会がどのように捉えているのか学び、そして自律を基にした介護とはどのようなものなのか考える。				配布資料をもとに、復習すること。			
15) 介護の原則について考える③：「自己決定」を取り上げ、自己決定についてどのような議論があり、自己決定について社会がどのように捉えているのか学び、そして自己決定を基にした介護とはどのようなものなのか考える。				配布資料をもとに、復習すること。			
[使用テキスト] 授業内で資料を配布する。							
[参考文献] 授業内で適宜紹介する。							

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (%)	
②実技・作品発表 (%)	
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (100%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 授業内学生コメントシートに対する教員からのコメントによりフィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

4110247

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション論Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 小関 健太郎	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3 セメスター	卒業：選択		資格：必修
☑ 実務経験		高齢者施設職員としての経験を活かし、他業種とのコミュニケーションについて講義する。			
[授業の目的・ねらい] 介護の対象者である高齢者や障がい者等との関係作りをする。コミュニケーションを手段として使うために、対象者それぞれの特性を理解し、円滑なコミュニケーションをはかり、実践できるようになる					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 様々な場面、対象者を想定し講義の後の演習を通し、コミュニケーションを通じて対象者理解を深める					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 援助側の視点だけでなく利用者の視点や、自分自身の成長と学習の視点を持ち、コミュニケーションを理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 専門職としての倫理綱領・行動規範の存在を知り、コミュニケーションの大切さを認識できる。具体的な事例を挙げ、倫理綱領と行動規範が結びついており、振り返ることでの行動のチェックを行い自らのスタイルを認知する。			高齢者の生きてきた時代背景を知ることから始まります。大正・昭和の生活の様子を文献等で学習をすること。 15分)		
2) 介護者が自身の強みと弱みを知り、自身の「ジョハリの窓」を整理する。介護場面の事例を通して「自分ならばどうだろうか」について場面設定を通じて感じるができるようになる。					
3) 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本である、統制された情緒的関与ができるようになる。また、「私メッセージ」を理解し、円滑なできるようになる。グループワークを行うことで理解を促す。					
4) 介護におけるチームのコミュニケーションは、他職種との共通言語が持てるようになる。専門性や視点の違いを共通理解するためのコミュニケーションの取り方を学び、実践できるようになる			チームワークに必要なこととはなにか。レポートについてまとめる 30分)		
5) 会議の開催方法、提案書の作成の視点など、職場、チームとしての提案方法を、文章、プレゼンテーションを模擬で作成し、実践できるようになる			予習（教科書 p228-240 20分)		
6) 認知症状の有る方とのコミュニケーションの基本姿勢を学ぶ。高齢者の介護の場面を想定し、コミュニケーションの方法を取得する。			予習（教科書 p113-124 20分)		
7) 精神疾患の有る方とのコミュニケーションを理解する。病気の理解から学び、特性や、言葉や態度の選択の有仕などを理解し、精神疾患の方の立場にあった関わり方を理解する。			予習（教科書 p124-134 20分)		
8) 発達障害の理解を深める。どのような視点で見えているのか、混乱の要因や感覚的な部分にまで触れ、どの様なコミュニケーションが有効かを理解する。			予習（教科書 p134-148 20分)		
9) 聴覚障害の理解を深める。手話だけがコミュニケーションの手段でないこと。手話を用いる場合の留意点や方法を学ぶ。			予習（教科書 p92-98 20分)		
10) チームケアにおける、会議開催の内容、準備・報告・進め方を理解し、実際ロールプレイを通じてリーダーシップの取り方を体験する。			予習（教科書 p198-206 20分)		
11) 記録について：様々な文章の種類を分け、書類毎の書き方や、5W1Hを踏まえた記録が出来るようになる 介護の記録は生活の記録であり、読み手にその場面が理解できるような書き方を出来るようになる。			予習（教科書 p207-227 20分)		
12) 科学的根拠のある文章の作成や、データに基づく提案書の書き方などを学び、実際の職場でも役に立つ文書作成方法を理解する					
13) 事例を通じて、注目すべき視点の理解を踏まえる。その視点をポジティブと捉え、その強みを支援するケアやコミュニケーションの有り方を知る					
14) スーパービジョンの機能を理解する。スーパーバイザー、スーパーバイジーの立場を理解し、より機能できるような仕組みづくりを学ぶ					
15) 今までの授業内容を振り返り、コミュニケーションのより実践的な					

あり方を理解できたかを確認する（筆記による到達度の確認を行う）。	
[使用テキスト] 介護福祉士養成講座編集委員会編 『最新 介護福祉士養成講座第5巻 コミュニケーション技術』	
[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（ 100%）	15回の授業の到達の確認としてレポートにて学んだことを振り返り、まとめる
②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（ %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験・レポート課題について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

5010239

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 生活支援論		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 上山 小百合	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 3 セメスター	卒業：必修		資格：必修
☒ 実務経験 訪問介護・居宅介護のヘルパーやサービス提供責任者の実践を活用する。					
[授業の目的・ねらい] ① 支援対象者の自立・自律を尊重し、かつ潜在能力を引き出す介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を身につける。 ② あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を学び、客観的な事実から物事を考え判断できる力を身につける。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた食事の介護、自立に向けた生活援助の介護の基礎的な知識とともに、高齢者の生活における権利擁護の社会資源や災害時の対応方法等について解説する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 自立・自律支援に向けた生活支援技術の基本的な知識・技術と根拠を理解し、説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション			自立支援の内容をテキストで読む。30 分		
2) 自立に向けた居住環境の整備①：住居環境の整備の意義と目的			住環境整備の内容をテキストで読む。		
3) 自立に向けた居住環境の整備②：住居におけるユニバーサルデザインとバリアフリーの違い(グループディスカッション)			ユニバーサルデザインとバリアフリーの違いを調べる。30 分 発表		
4) 自立に向けた居住環境の整備③：介護保険の施設環境の特徴とサービス内容			介護保険サービスの施設の違いを調べる。 30 分		
5) 自立に向けた家事：訪問介護の仕事とサービス内容			訪問介護の仕事の内容をテキストで読む。 30 分		
6) 自立に向けた食事の介護①：食品の購入と選択			食品の取り扱いの内容をテキストで読む。 30 分		
7) 自立に向けた食事の介護②：居宅における買い物(グループディスカッション)			買い物に同行時の支援ポイントをまとめる。 30 分		
8) 自立に向けた食事の介護③：調理の基本			調理の支援ポイントをまとめる。30 分		
9) 自立に向けた生活援助①：掃除の基本			掃除の支援ポイントをまとめる。30 分		
10) 自立に向けた生活援助②：被服の洗濯と衣服の整理(グループワーク)			選択の支援ポイントをまとめる。30 分		
11) 自立に向けた生活援助③：権利擁護を守る社会資源			利用者の悪徳商法の種類と支援を知る。30 分		
12) 事例を活用し多職種連携（在宅）（グループディスカッション）			在宅の事例について発表 30 分		
13) 災害時の対応と備え：防災の基本			防災・減災を知る。 30 分		
14) 災害時における生活支援(グループディスカッション)			BCP を知る。 30 分		
15) 全体のふりかえりとまとめ（試験内容の確認）			授業のまとめと試験内容のおさらい 30 分		
[使用テキスト] 介護福祉士養成講座編集委員会編『最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ』中央法規出版					
[参考文献]					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（30%）		毎回授業内のレポート、まとめテスト			
②実技・作品発表等（20%）		プレゼンテーション 2 回			
【定期試験】					
① 筆記試験（50%）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☑受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。					

[備考] 成績評価は授業への参加状況と授業内容の理解度、ならびに期末試験の結果に基づいて行う。なお、より具体的な評価基準については授業内でアナウンスする。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1110230

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 栄養・調理		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 西田 有里	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3 セメスター	卒業：必修	資格：必修	
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 高齢者や障害者の自立に向けた食事の介護ができるように、介護福祉士として必要な栄養や調理の知識や技術を修得し、実践できるようになる。				主に対応するD P 1	
[授業全体の内容の概要] 高齢者や障害者の食生活を中心に健康との関わり、栄養、食品の衛生的な取り扱い方等、自立に向けた食事介護の基盤となる栄養・調理の基本的な知識と技術を、調理実習を通じて学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 高齢者や障害者の食生活が理解し、高齢者や障害者の自立に向けた食事の介護のための調理技術を修得し、食生活に関わる支援を実践することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 高齢者・障害者の食生活 栄養素の基礎知識			基本的な調理技術（包丁の使い方等）は各自で練習をしておくこと。（30分）		
2) 調理の方法 調理の基礎知識			「煮る・焼く・揚げる」の調理方法の違いについて調べておくこと（30分）。		
3) 栄養バランスの良い食生活を考える 自分の食生活から食生活を考える。			自分の食生活について各自メモを取り、栄養バランスが良い食事かどうかの小レポートを作成すること。（30分）		
4) 食品の基礎知識 食品の旬、食品の扱い方、食中毒について			春・夏・秋・冬それぞれの旬の食品について調べておくこと。（30分）		
5) 高齢者の食事（調理の基本1）			高齢者の食事の特徴について調べておくこと。（15分）		
6) 調理実習① 栄養バランスのとれた食事を考える。			講義で扱った内容について小レポートを作成する。（15分）		
7) 高齢者の食事（調理の基本2）			高齢者の食事の特徴について調べておくこと。（15分）		
8) 調理実習② 高齢者のための調理法を考える。			安全に調理ができるよう体調管理を行っておくこと。（15分）		
9) 疾病のある人の食事と自立に向けた食事介護のための介護食を考える （糖尿病の方の食事を考える） 計量をして調理する。栄養価計算、塩分計算などを学ぶ			糖尿病の病態の特徴を調べておくこと。（30分）		
10) 調理実習③			安全に調理ができるよう体調管理を行っておくこと。（15分）		
11) 介護食と自立に向けた食事の介護を考える（嚥下障害のある方の食形態を考える。調理と試食）			嚥下食とはどういう食事形態なのか調べておくこと。（15分）		
12) 調理実習④			安全に調理ができるよう体調管理を行っておくこと。（15分）		
13) 行事食の調理			行事食を行うことのメリットについて考えておくこと。（15分）		
14) 調理実習⑤			安全に調理ができるよう体調管理を行っておくこと。（15分）		
15) 到達度の確認			前期で学んだことをまとめておくこと。（30分）		
[使用テキスト] 必要に応じてプリント配布					
[参考文献] 必要に応じて紹介する					
[評価の実施方法と基準]					
【平常試験】					
① 平常点評価（50%）		提出物、授業への参加度			
② 到達度の確認（50%）		小レポート			
③ 実技・作品発表等（ %）					

【定期試験】	
①筆 記 試 験 (%)	
②レ ポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
[フィードバックの方法] 到達度の確認の正答については試験期間終了後に開示する。	
[備考] エプロン、三角巾、手拭きタオルを持参のこと。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1110234

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） レクリエーション		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 森 由美子・相奈良 律	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	4 セメスター
卒業：選択	資格：必修				
☑ 実務経験	音楽療法士としての児童～高齢者を対象とした臨床経験からの事例紹介を行い、今後、現場で生かせる音楽レクリエーション活動を検討できるよう講義を行う（森）。				
[授業の目的・ねらい] [思考・判断] 自分の強みを生かし、利用者が生活の中に快さ、楽しさを感じ、生きがいや生活の質の向上につながるレクリエーション支援を考案提供する。またそのために利用者の人権を尊重し、尊厳を護ることへの理解を目的とする。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 利用者(障がい児者、高齢者等)の身体面、精神面の特徴を理解し、利用者が求めるレクリエーション活動を生活支援(目的・目標)の視点から計画し、実践できるよう講義および演習を行う。また、福祉レクリエーション援助のためのレクリエーション財の分析と分類法、開発とアレンジ法などについても教授する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標） 学生がレクリエーション本来の意味を理解し、利用者の豊かな生活を支援するためアセスメントし、個別性を尊重した、また自分自身の強みを生かしたレクリエーション援助計画を立て実践できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 福祉施設現場における音楽レクリエーション活動の実際① オリエンテーションではレクリエーションの意義について学び、障がいのある方や高齢者の方にとっての音楽療法やレクリエーションがどういった役割を果たすのかを事例とともに学ぶ。					
2) 福祉施設現場における音楽レクリエーション活動の実際② 活動の目的やねらいを理解し、音楽の専門的な知識や技術が無くても活動を考案し、実践するための活動のヒントや一連の流れを学び、演習を行う。					
3) 福祉施設現場における音楽レクリエーション活動の実際③ 歌やよく施設において使用される楽器の紹介や基本の操作、レクリエーションで活用できるような楽器の使用法や工夫を学び、演習を行う。			自分の身近な楽器をいくつかピックアップしておく。また活動で使いたい楽器や歌などを考えておく。		
4) 福祉施設現場における音楽レクリエーション活動の実際④ 模擬活動を考える…①～③の講義内容をもとに、対象者、活動のねらいや目的、活動時期などを考え、レクリエーション計画の素案を作成する。			レクリエーション計画立案に向けて、利用者の対象年齢の想定や、それに伴う時代背景(どのような音楽や娯楽が流行ったか)について情報収集しておく。		
5) 福祉施設現場における音楽レクリエーション活動の実際⑤ ④の講義で考えた素案についての紹介とポイント整理を行う。改善のアドバイスを共有し、最終の計画案をまとめ、提出する。					
6) オリエンテーション 福祉現場におけるレクリエーション活動の実際 ～高齢者対象のレクリエーション活動を体験し、意義・目的など全体像を知る～			利用者の身体面、精神面の特徴を理解するため、学校の授業の復習、高齢者の生きてこられた時代背景、生活文化など、日常的に社会に関心を持ち情報収集する。(60分)		
7) 福祉領域でのレクリエーションの役割 ～生活支援としての福祉レクリエーション支援の理解～			前回行った内容について記録ノートをもとめておく。レクリエーションについて理解を深めるためレクリエーションに関する書籍を閲覧しておくこと。(60分)		
8) 福祉レクリエーションの総合計画の意義と全体像 ～事業所別事例の紹介、個人のニーズと福祉レクリエーション総合計画の関係、総合計画の作成方法。					
9) 対象者による福祉レクリエーションサービス活用を支えるプラン（支援手順とアセスメント） ～事例の利用者をアセスメントし、福祉レクリエーション支援計画を作成。（レポート①提出）			レポート課題（福祉レクリエーション支援計画）を作成する。(60分)		
10) 福祉レクリエーションの介入技術 ～コミュニケーションと信頼関係づくり、相互作用、CSS プロセス。					
11) 小集団を活かした支援のためのプログラムづくりの方法 ～事例紹介、レクリエーション・プログラム計画シートを作成。（レポート②提出）			これまでの講義内容を復習し、レポート課題を完成させる。(60分)		

12) 利用者と現場に合わせたレクリエーション活動のアレンジ ～事例紹介、活動分析、ハードル設定、アレンジのポイント。(レポート③提出)	これまでの講義内容を復習し、レポート課題を完成させる。配布資料(活動分析について)を読み理解を深める。(60分)
13) 実技試験 小集団へのレクリエーション・プログラム計画シートに基づき発表。(レポート②の内容) ～計画シートの中の「展開」部分の一部を1人5分間発表。学生は評価表に記入、講師評価(評価基準事前配布)。	実技試験の発表練習。(60分)
14) 実技試験 個人への直接レクリエーション支援を福祉レクリエーション支援計画に基づき発表。(レポート③の内容)～障害の形態別留意点を考慮しレクリエーション財を提供している、1人5分間発表	実技試験の発表練習。(60分)
15) 総まとめ ～ポイントの再確認。レクリエーション財の紹介とゲームの膨らませ方・展開方法。	実技試験における自己評価とレクリエーション計画の再アセスメントを行う。(60分)
[使用テキスト] 必要に応じて講師作成資料を配布する。	
[参考文献]	
[評価の実施方法と基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (43%)	【前半5回分】(30%÷3) 【後半10回分】グループワーク、記録ノートの提出等(50%÷3×2)
②実技・作品発表等 (57%)	【前半5回分】(70%÷3) 【後半10回分】演習発表、レポート課題、実技発表(50%÷3×2)
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] レポート課題について、正答・解答のポイント等を試験期間終了後に開示する。	
[備考] この科目の評価点＝(【前半5回分の採点】＋【後半10回分の採点】×2)÷3で算出する	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1010215

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 生活支援の展開Ⅲ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 石田 史樹 ・ 鴻上 圭太	
授業の回数 30 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 3 セメスター	卒業：選択	資格：必修	
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ディプロマポリシーにある「客観的な事実から物事を考え、判断ができる」「コミュニケーションの基礎となる発信、伝達、記録の技法を身につけている」ことを授業の目的にし、今まで学習した知識と技術を統合して、倫理性・科学性・個別性をもった自立・自律を尊重した生活支援技術の立案および実践、評価考察ができるようになる。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 事例を中心として、ICF の視点で生活場面のアセスメントを行い、実践的な自立に向けた生活支援の介護計画を立案し、それに沿って自立（自律）に向けた生活支援の介護を実践（ロールプレイ）する。さらに分析・考察を行う。基本として授業内ワークはGW（グループワーク）を基本に授業を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 対象者の生活場面について客観的な情報を基にアセスメントができ、具体的な自立に向けた生活支援・終末期の介護計画を立案できるようになり、その根拠を説明できるよ					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1)～2) 授業についてのガイダンス：授業オリエンテーションおよび介護過程の展開についてのレクチャー			授業配布資料をもとに復習すること。		
3)～4) 実習事例：実習Ⅱにて実施した介護計画を振り返り、評価する			授業配布資料をもとに復習すること。		
5)～6) 実習事例：GWにて実習Ⅱの事例を再アセスメントし、介護計画を立案する。			授業配布資料をもとに復習すること。		
7)～8) 実習事例：実習Ⅱの体験事例について実施計画立案したものをロールプレイする。記録、分析、評価を行う。			授業配布資料をもとに復習すること。		
9) 事例A：事例Aの体験事例についてアセスメントを行い、介護についてGWにて実施計画立案する。			授業配布資料をもとに復習すること。		
10) 事例A：事例Aの体験事例について実施計画立案したものをロールプレイする。記録、分析、評価を行う。			授業配布資料をもとに復習すること。		
11) 事例A：事例Aの体験事例についてロールプレイしたものを、記録、分析、評価を行う。			授業配布資料をもとに復習すること。		
12) 事例B：事例Bの体験事例についてアセスメントを行い、介護についてGWにて実施計画立案する。			授業配布資料をもとに復習すること。		
13) 事例B：事例Bの体験事例について実施計画立案したものをロールプレイする。記録、分析、評価を行う。			授業配布資料をもとに復習すること。		
14) 事例B：事例Bの体験事例についてロールプレイしたものを、記録、分析、評価を行う。			授業配布資料をもとに復習すること。		
15) 事例C：事例Cの体験事例についてアセスメントを行い、介護についてGWにて実施計画立案する。			授業配布資料をもとに復習すること。		
16) 事例C：事例Cの体験事例について実施計画立案したものをロールプレイする。記録、分析、評価を行う。			授業配布資料をもとに復習すること。		
17) 事例C：事例Cの体験事例についてロールプレイしたものを、記録、分析、評価を行う。			授業配布資料をもとに復習すること。		
18) 事例D：事例Dの体験事例についてアセスメントを行い、介護についてGWにて実施計画立案する。			授業配布資料をもとに復習すること。		
19) 事例D：事例Dの体験事例について実施計画立案したものをロールプレイする。記録、分析、評価を行う。			授業配布資料をもとに復習すること。		
20) 事例D：事例Dの体験事例についてロールプレイしたものを、記録、分析、評価を行う。			授業配布資料をもとに復習すること。		
21) 事例E：事例Eについてアセスメントを行い、介護についてGWにて実施計画立案する。			授業配布資料をもとに復習すること。		
22) 事例E：事例Eについて実施計画立案したものをロールプレイする。記録、分析、評価を行う。			授業配布資料をもとに復習すること。		
23) 事例E：事例Eについてロールプレイしたものを、記録、分析、評価を行う。			授業配布資料をもとに復習すること。		

24) 事例F：事例Fについてアセスメントを行い、介護についてGWにて実施計画立案する。	授業配布資料をもとに復習すること。
25) 事例F：事例Fについて実施計画立案したものをロールプレイする。記録、分析、評価を行う。	授業配布資料をもとに復習すること。
26) 事例F：事例Fについてロールプレイしたものを、記録、分析、評価を行う。	授業配布資料をもとに復習すること。
27) 事例G：事例Gについてアセスメントを行い、介護についてGWにて実施計画立案する。	授業配布資料をもとに復習すること。
28) 事例G：事例Gについて実施計画立案したものをロールプレイする。記録、分析、評価を行う。	授業配布資料をもとに復習すること。
29) 事例G：事例Gについてロールプレイしたものを、記録、分析、評価を行う。	授業配布資料をもとに復習すること。
30) これまでの授業の振り返り	授業配布資料をもとに復習すること。
[使用テキスト] 最新 介護福祉士養成講座第7・8巻 生活支援技術Ⅱ・Ⅲ（中央法規出版）	
[参考文献] 必要に応じて授業内で紹介する	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認（40%）	
② 実技・作品発表等（%）	
【定期試験】	
① 筆記試験（%）	
② レポート（60%）	
③ 実技試験（%）	
④ 面接試験（%）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
小テスト・レポート課題は、返却時にその都度フィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3010238

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） ケアマネジメント論			授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義			授業担当者 石田 史樹 ・ 鴻上 圭太		
授業の回数 15 回		時間数(単位数) 2 単位	配当 4 セメスター		卒業：選択		資格：必修	
☑ 実務経験		地域包括支援センターの職員としての経験を活かし、講義する						
[授業の目的・ねらい] ケアマネジメントの意義と目的、構造について説明できるようになる。高齢者福祉分野、障がい者福祉分野におけるケアマネジメントの特徴を理解することで介護福祉士の役割を説明できるようになる。								主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] ケアマネジメントが登場した社会的背景からケアマネジメントの目的・対象理解を深めていく。多種・多様な社会資源を開発・活用し、多職種連携をしていくなかでの介護福祉士の役割について授業を展開する。								
[授業修了時の達成課題（到達目標）]ケアマネジメントの目的と対象、展開方法について説明ができる。								
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]						[準備学修の内容]		
1) ケアマネジメントの定義:ケアマネジメントの歴史と日本に導入されてからの展開を学ぶ。						授業配布資料をもとに復習すること。		
2) ケアマネジメントの対象:ケアマネジメントが必要になった背景を社会的背景から理解する。						授業配布資料をもとに復習すること。		
3) ケアマネジメントの目的と視点①:ケアマネジメントを展開していく視点としてエンパワメントを理解する						授業配布資料をもとに復習すること。		
4) ケアマネジメントの目的と視点②:ケアマネジメントを展開していく視点として「生活問題」の理解を深める						授業配布資料をもとに復習すること。		
5) ケアマネジメントの目的と視点③:ケアマネジメントを展開していく視点として「地域包括ケアシステム」の理解を深める						授業配布資料をもとに復習すること。		
6) ケアマネジメントの目的と視点④:ケアマネジメントを展開していく視点として「地域ケア会議」の理解を深める						授業配布資料をもとに復習すること。		
7) ケアマネジメントの目的と視点⑤:ケアマネジメントを展開していく視点として「生活ニーズと社会資源」の理解を深める						授業配布資料をもとに復習すること。		
8) ケアマネジメントの展開①:対象者との信頼関係の構築し、生活を理解していくための支援方法として、インテーク・アセスメントの理解を深める						授業配布資料をもとに復習すること。		
9) ケアマネジメントの展開②:対象者が主体的にケアマネジメントに参加していく過程として、ケアプランの作成を学ぶ						授業配布資料をもとに復習すること。		
10) ケアマネジメントの展開③:多職種連携の過程としてのサービス担当者会議について学ぶ						授業配布資料をもとに復習すること。		
11) ケアマネジメントの展開④:ケアプランをよりよいものにしていく過程としてのモニタリング、評価、終結について学ぶ						授業配布資料をもとに復習すること。		
12) ケアマネジメントの価値①:伝統的社会における高齢者・障がい者の社会的地位と役割を学び、ケアマネジメントを行う意義や価値について考える						授業配布資料をもとに復習すること。		
13) ケアマネジメントの価値②:現代社会における高齢者・障がい者の社会的地位と役割を学び、ケアマネジメントを行う意義や価値について考える						授業配布資料をもとに復習すること。		
14) ケアマネジメントの対象者理解:ケアマネジメントの方法論の応用として「援助拒否」事例におけるアセスメントを学ぶ						授業配布資料をもとに復習すること。		
15) ケアマネジメントの対象者理解:ケアマネジメントの方法論の応用として「援助拒否」事例から対象者の理解を深める						授業配布資料をもとに復習すること。		
[使用テキスト]								
[参考文献] 『ケアマネジメントのエッセンス—利用者の思いが輝く援助技術—』一般財団法人日本ケアマネジメント学会認定ケアマネジャーの会【編集】 中央法規 『ケアマネジメント論—わかりやすい基礎理論と幅広い事例から学ぶ—』白澤 政和【編著】 ミネルヴァ書房								

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認 (%)	
② 実技・作品発表等 (%)	
【定期試験】	
② 筆記試験 (%)	
③ レポート (100 %)	
③ 実技試験 (%)	
④ 面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
小テスト・レポート課題は、返却時にその都度フィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3010249

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅲ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 石田 史樹 ・ 鴻上 圭太			
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター	卒業：選択	資格：必修
☑ 実務経験		介護福祉士、社会福祉士としての実務経験を活かし指導する。					
[授業の目的・ねらい] 介護実習の意義と目的を理解し、介護実施Ⅲに向けた準備を行う。さらに、介護福祉士に必要な倫理的態度や社会人に必要な力（社会人基礎力）の習得について、自らの課題について自己覚知できる。							主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 介護実習Ⅲに必要な書類の作成について指導を行い当該実習前の指導（事前指導）で当該介護実習の意義や目的、方法、実習施設の概要、実習で学ぶべき事項について授業を行う。当該実習後の指導（事後指導）で実習のまとめを行い実習報告会を実施する。さらに介護実習の学びの冊子「私の介護観」を作成する。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 当該介護実習に必要な準備が指示通りに行える。また、当該介護実習で学んだことを言語化することができる（文章化やプレゼンテーションをすることができる）。知ること、学ぶこと、疑問を持つことの思考形態を使い分け、実習体験を説明することができる。介護福祉士に必要な倫理的態度や社会人に必要な基礎的な力（社会人基礎力）を習得し具体的に態度で示すことについて、自らの課題がなにか、説明ができ、さらにその課題を克服するために必要な学習について、説明することができる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) 授業のオリエンテーション 介護実習Ⅲで何を学ぶのか スケジュールの確認				授業後、配布資料の振返学習を行う。（30 分）			
2) 個人票、誓約書の作成							
3) 介護実習Ⅲ実習計画 目標と課題の設定				授業後、配布資料の振返学習を行う。（15 分）			
4) 介護実習Ⅲ実習のまとめ①							
5) 介護実習Ⅲ実習のまとめ②							
6) 介護実習Ⅲ実習報告会①							
7) 介護実習Ⅲ実習報告会②							
[使用テキスト] 授業内で資料配布							
[参考文献] 必要に応じて授業内で紹介する。							
[試験の方法と学修成果の評価基準]							
【平常試験】							
①到達度の確認（100%）		実習前準備における授業課題、および実習報告会における発表内容、プレゼンテーションの状況を評価の対象とする。					
②実技・作品発表（ %）							
【定期試験】							
①筆記試験（ %）							
②レポート（ %）							
③実技試験（ %）							
④面接試験（ %）							
平常点評価		☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する					
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない					
[フィードバックの方法] 課題提出物や授業課題に対してその都度フィードバックを行う。							
[備考] 介護基礎実習及び介護実習Ⅰ実施前の本授業出欠状況によっては、当介護実習の実施を延期する場合がある。詳細は授業内で説明、提示する。							

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1011234

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 国家試験実践演習Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 小田 史・永原 直子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 4 セメスター	卒業：選択		資格：必修
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 介護の領域においてこれまで学んだ内容を総復習し、介護福祉士に必要とされる知識を確たるものとし、国家試験に合格できる水準の知識を獲得する。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 介護の領域についてグループワークを通して総復習する。さらに演習問題や模擬試験とその解説をとおしてこれまでの学習の総まとめを行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 国家試験に合格できる水準の知識を身につけ、同水準の問題を解くことができるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーションと領域のまとめ 授業のオリエンテーションと、領域のまとめとして概要を講義する。また、これまでの知識の確認を行う。			国家試験実践演習ⅠⅡで使用した問題を解けるようにしておくこと（3時間以上）		
2) 介護の基本 問題を解き、知識を確認する。					
3) 介護の基本 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
4) コミュニケーション技術 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
5) コミュニケーション技術 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
6) 生活支援技術 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
7) 生活支援技術 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
8) 生活支援技術 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
9) 介護過程 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
10) 介護過程 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
11) 授業内試験1 到達度の確認として筆記試験を実施する。この試験の成績は、成績全体の25%に相当する。			これまでの問題を解き直し確認しておく（2時間）		
12) 授業内試験1の解説と復習			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
13) 総合問題 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
14) 授業内試験2 到達度の確認として筆記試験を実施する。この試験の成績は、成績全体の25%に相当する。			これまでの問題を解き直し確認しておく（2時間）		
15) 授業内試験2の解説と復習			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
[使用テキスト]「介護福祉士全国統一模擬試験第1回／第2回」中央法規出版 「介護福祉士国家試験一問一答ポケットブック 2024」中央法規出版 「書いて覚える！合格ドリル 2024」中央法規出版					
[参考文献]必要に応じて提示する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
② 到達度の確認（50%）		2回の授業内試験を実施する。それぞれ成績全体の25%とする。			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
② 筆記試験（50%）		介護福祉士全国統一模擬試験第2回の「介護」領域の成績（12月実施予定）			
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		□ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☑ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]試験終了後、正答と解説を配布する。					
[備考]この授業は国家試験実践演習Ⅰ・Ⅲと併せて受講すること。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3010243

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅲ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 実習		授業担当者 石田 史樹 ・ 鴻上 圭太	
実習の時間数 64 時間	時間数(単位数) 2 単位	配当 3 セメスター	卒業：選択	資格：必修	
☒ 実務経験	介護福祉士、社会福祉士としての実務経験を活かし指導する				
[授業の目的・ねらい] 介護実習Ⅱ終了後に得た自らの介護観が、実際の介護の場面ではどのような具体的態度、支援の方法となるのかについて推論することができるようになる。また、カリキュラム上最後の実習となるため、介護福祉士として働くうえで現在の自らの強みや課題を覚知することができることを目的とする。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、認知症対応型共同生活介護、デイサービス、デイケア、障害者作業所などで、大学共通の目標と自ら設定した実習目標と課題に沿って実習を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
①介護実習Ⅱで培った自らの介護福祉士としての介護観から、それらが本科目でさらにどう変化したのか、説明ができる。					
②介護福祉士として就職するうえで、自らの強みと課題を説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
施設の種別： ・ 認知症対応型共同生活介護/デイサービス/デイケア ・ 小規模多機能型居宅介護 ・ 障害者作業所 ・ 高齢者施設（特別養護老人ホーム、介護老人保健施設） ・ 障害者入所施設（聴覚障害者施設、重症心身障害者施設、重度障害者授産施設等） 実習期間：学年暦参照 実習内容： 1. 事前オリエンテーションを実施し施設の概要、実習における留意点を確認する。 2. 介護実習Ⅱ終了後に培った介護観に沿って、介護実践をおこなう。 3. 介護福祉士としての自らの強みと課題を発見する。 4. 終了ミーティングを行い、実習の学びの振り返りを行う。 ※感染症等で施設内実習の実施が困難な場合は、内容・時期が変更になる場合がある。			介護総合演習Ⅲ授業にて課題に取り組む。		
[使用テキスト] 必要に応じて授業で資料を配布する。					
[参考文献] 必要に応じて授業で資料を配布する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認（ 100%）	実習評価票の項目に基づき、施設指導者評価及び巡回教員評価を踏まえ、評価を行う。実習評価票の項目は、①介護観の言語化、②介護福祉士としての自己の理解、2つ（大カテゴリー）とする。				
②実技・作品発表（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] 実習最終日に三者（学生、実習指導者、教員）によるミーティングを実施する。また事後指導において実習のまとめ、実習報告会発表資料の作成をとおして、実習の振り返り学習を行う。					
[備考] 実習指導者及び巡回教員の評価を参考に科目担当教員が協議の上で評価を決定する。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

4011238

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 障害の理解と支援Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 河野 和美			
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター	卒業：選択必修	資格：必修
☒ 実務経験	元訪問看護師の経験を活かし、一番身近にいる介護職がいち早く利用者の変化に気づき医療に継続できるように講義する						
[授業の目的・ねらい] 障害の基礎的理解について、種別ごとに医学的、心理的理解、生活上の困難などを学び、介護上の留意点を修得する。また、演習授業や実習の基礎的知識とする。							主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 障害の医学的側面の基礎的知識について、種別ごとに授業を展開し理解していく。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 障害の概念や障害者福祉の理念と障害の種別ごとの特徴とを融合させ、障害を持つ人への介護の方法や視点を考察できる力量を習得し、ケアの根拠を説明できる							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) 障害の理解と支援Ⅱのオリエンテーション 障害者福祉の歴史、優性思想（優生保護法）を考える				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (30 分)			
2) 障害の医学的側面の基礎的知識：運動機能障害（肢体不自由） 運動機能障害を持つ人の生活上の困難や特徴を理解し、介護の視点を学習する				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (30 分)			
3) 障害の医学的側面の基礎的知識：視覚障害 視覚障害を持つ人の生活上の困難や特徴を理解し、介護の視点を学習する				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (30 分)			
4) 障害の医学的側面の基礎的知識：聴覚・言語障害・重複障害 聴覚・言語障害・重複障害を持つ人の生活上の困難や特徴を理解し、介護の視点を学習する				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (30 分)			
5) 障害の医学的側面の基礎的知識：内部障害（心臓） 心臓機能障害とはどんな障害かを、医学的側面から理解する				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (30 分)			
6) 障害の医学的側面の基礎的知識：内部障害（心臓） 心臓機能障害とはどんな障害かを、医学的側面から理解する				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (30 分)			
7) 障害の医学的側面の基礎的知識：内部障害（呼吸機能障害） 呼吸機能障害を持つ人の生活上の困難や特徴を理解し、介護の視点を学習する				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (30 分)			
8) 障害の医学的側面の基礎的知識：内部障害（膀胱・直腸機能障害） 直腸・膀胱機能障害とはどんな障害かを、医学的側面から理解する				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (30 分)			
9) 障害の医学的側面の基礎的知識：内部障害（小腸機能障害） 小腸機能障害を持つ人の生活上の困難や特徴を理解し、介護の視点を学習する				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (30 分)			
10) 障害の医学的側面の基礎的知識：内部障害（免疫機能障害） 免疫機能障害を持つ人の生活上の困難や特徴を理解し、介護の視点を学習する				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (30 分)			
11) 障害の医学的側面の基礎的知識：重症心身機能障害 を持つ人の生活上の困難や特徴を理解し、介護の視点を学習する				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (30 分)			
12) 障害の医学的側面の基礎的知識：知的障害・精神障害について学ぶ 知的障害・精神障害の種類と対応について理解し、介護の視点を学習する				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (30 分)			
13) 障害の医学的側面の基礎的知識：発達障害について学ぶ 発達障害とは、その制度や現状を理解して支援を考える				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (30 分)			
14) 障害の医学的側面の基礎的知識：難病について学ぶ 難病とは、その制度や現状を理解して支援を考える				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (30 分)			
15) 授業の総復習 試験のポイント説明							
[使用テキスト] 「最新 介護福祉士養成講座」第 14 巻 障害の理解（中央法規出版）							
[参考文献]							
[試験の方法と学修成果の評価基準]							
【平常試験】							

①到達度の確認 (%)	
②実技・作品発表等 (%)	
【定期試験】	
①筆記試験 (100 %)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2210334

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみ（各論Ⅱ）		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 納谷 朝子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 3 セメスター	卒業：選択		資格：必修
☑ 実務経験	看護師としての実務経験を生かし講義する				
[授業の目的・ねらい] こころとからだのしくみは解剖学・生理学・心理学を基にしており、医学的要素が強い、苦手意識を持ちやすい。しかし、医療が発展した近年、医学は生活の一部であり、そこを無視して介護をすることは不可能である。この授業では、人を生活者として捉える視点から、介護を必要とする人が抱えやすい加齢や疾患などの心身機能の低下が、なぜ生活に影響を及ぼすのかについて、学生の実習経験を基に（関心）、生活・暮らしの中の医療知識を学生が自ら調べる力（主体性）、ケアの根拠を考える力（自ら考えられる力）を養う。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 高齢者に多い症状、疾患の特徴を理解し生活を支えていく上での生活上の留意点および保健医療機関との連携を考えていく。利用者の主観的体験を導くために、こころとからだのしくみの知識を ICF の生活課題（命・生活・人生）の視点で捉え生かす。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 高齢者の老化を理解したうえで、身じたく・移動・食事・入浴・排泄・睡眠に関連したこころとからだのしくみについて理解し、介護福祉士として必要な援助の根拠を持って他者に説明できる。高齢者に多い症状、疾患の特徴と生活の留意点が説明できる、また国家試験の合格できる水準の知識を得る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション；こころとからだのしくみから求められる介護について、その根拠の重要性及び医療職との連携・協働の重要性について学ぶ。			「こころとからだのしくみ」を復習しておく。指定されたテキストの箇所を予習しておくこと。講義前ミニテストで確認する		
2) 心身の機能低下が生活に及ぼす影響；老化に伴う身体的変化・心理的变化と生活への影響を考える			「こころとからだのしくみ」を復習しておく。指定されたテキストの箇所を予習しておくこと。講義前ミニテストで確認する		
3) 生活に関する変化の気づきと他療職との連携のポイント；外見上の変化・骨・関節機能の変化と日常生活への影響を考える			「こころとからだのしくみ」を復習しておく。指定されたテキストの箇所を予習しておくこと。講義前ミニテストで確認する		
4) 老年期の特徴と発達課題（セクシュアリティ・喪失）について現場経験より、講義によって学び、事例を通しディスカッションする			「こころとからだのしくみ」を復習しておく。指定されたテキストの箇所を予習しておくこと。講義前ミニテストで確認する		
5) 高齢者の心身の機能低下が身じたく・移動に及ぼす影響を講義によって学び、関連する疾患を理解する			「こころとからだのしくみ」を復習しておく。指定されたテキストの箇所を予習しておくこと。講義前ミニテストで確認する		
6) 身じたく・移動の機能低下が生活に及ぼす影響：現場で実践できるように、根拠を持って考えを他者に伝えることができる			「こころとからだのしくみ」を復習しておく。指定されたテキストの箇所を予習しておくこと。講義前ミニテストで確認する		
7) 高齢者の心身の機能低下が食事に及ぼす影響を学び、関連する疾患を理解する			「こころとからだのしくみ」を復習しておく。指定されたテキストの箇所を予習しておくこと。講義前ミニテストで確認する		
8) 食事の機能低下が生活に及ぼす影響：現場で実践できるように、根拠を持って考えを他者に伝えることができる			「こころとからだのしくみ」を復習しておく。指定されたテキストの箇所を予習しておくこと。講義前ミニテストで確認する		
9) 高齢者の心身の機能低下が入浴・清潔に及ぼす影響を学び、関連する疾患を理解する			「こころとからだのしくみ」を復習しておく。指定されたテキストの箇所を予習しておくこと。講義前ミニテストで確認する		
10) 入浴・清潔の機能低下が生活に及ぼす影響：現場で実践できるように、根拠を持って考えを他者に伝えることができる			「こころとからだのしくみ」を復習しておく。指定されたテキストの箇所を予習しておくこと。講義前ミニテストで確認する		
11) 高齢者の心身の機能低下が排泄に及ぼす影響を学び、関連する疾患を理解する			「こころとからだのしくみ」を復習しておく。指定されたテキストの箇所を予習しておくこと。講義前ミニテストで確認する		
12) 排泄の機能低下が生活に及ぼす影響：現場で実践できるように、根拠			「こころとからだのしくみ」を復習しておく。		

を持って考えを他者に伝えることができる	指定されたテキストの箇所を予習しておくこと。講義前ミニテストで確認する
13) 高齢者の心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響を学び・関連する疾患を理解する	「こころとからだのしくみ」を復習しておく。指定されたテキストの箇所を予習しておくこと。講義前ミニテストで確認する
14) 睡眠の機能低下が生活に及ぼす影響：現場で実践できるように、根拠を持って考えを他者に伝えることができる	「こころとからだのしくみ」を復習しておく。指定されたテキストの箇所を予習しておくこと。講義前ミニテストで確認する
15) 高齢者に多い疾患のまとめ	
[使用テキスト] 「最新 介護福祉士養成講座」第 11 巻 こころとからだのしくみ（中央法規出版）第 12 巻 発達と老化（中央法規出版） レジューメと関連資料を配布	
[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	
【平常試験】	
①到達度の確認（ %）	
②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（ 100 %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2010337

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 国家試験実践演習Ⅲ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 河野 和美・永原 直子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 4 セメスター	卒業：選択	資格：必修	
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ころとからだのしくみの領域においてこれまで学んだ内容を総復習し、介護福祉士に必要とされる知識を確たるものとし、国家試験に合格できる水準の知識を獲得する。					主に対応するD P 3
[授業全体の内容の概要] 死にゆく人のころとからだのしくみについて解説した後、各単元についてグループワークを通して総復習する。さらに演習問題や模擬試験とその解説をとおしてこれまでの学習の総まとめを行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 国家試験に合格できる水準の知識を身につけ、同水準の問題を解くことができるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーションと領域のまとめ 授業のオリエンテーションと、死にゆく人のころとからだのしくみについて解説する。また、これまでの知識の確認を行う。			国家試験実践演習ⅠⅡで使用した問題を解けるようにしておくこと（3時間以上）		
2) 発達と老化の理解 問題を解き、知識を確認する。					
3) 発達と老化の理解 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
4) 発達と老化の理解 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
5) 認知症の理解 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
6) 認知症の理解 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
7) 障害の理解 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
8) 障害の理解 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
9) こころとからだのしくみ 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
10) こころとからだのしくみ 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
11) こころとからだのしくみ 問題を解き、知識を確認する。			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
12) 授業内試験 1 到達度の確認として筆記試験を実施する。この試験の成績は、成績全体の25%に相当する。			これまでの問題を解き直し確認しておく（2時間）		
13) 授業内試験 1 の解説と復習			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
14) 授業内試験 2 到達度の確認として筆記試験を実施する。この試験の成績は、成績全体の25%に相当する。			これまでの問題を解き直し確認しておく（2時間）		
15) 授業内試験 2 の解説と復習			前回の問題を解き直し確認しておく（30分）		
[使用テキスト]「介護福祉士全国統一模擬試験第1回／第2回」中央法規出版 「介護福祉士国家試験一問一答ポケットブック 2024」中央法規出版 「書いて覚える！合格ドリル 2024」中央法規出版					
[参考文献]必要に応じて提示する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
③ 到達度の確認（50%）		2回の授業内試験を実施する。それぞれ成績全体の25%とする。			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
③ 筆記試験（50%）		介護福祉士全国統一模擬試験第2回の「ころとからだのしくみ」領域の成績（12月実施予定）			
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]試験終了後、正答と解説を配布する。					
[備考]この授業は国家試験実践演習Ⅰ・Ⅱと併せて受講すること。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3010344

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア概論Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 河野 和美 ・ 納谷 朝子			
授業の回数	20 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	3 セメスター	卒業：選択	資格：必修
☑ 実務経験		看護師としての実務経験を活かし講義する					
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。							主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 医療的ケア各論では、医療的ケア概論で学んだ知識をもとに、医療的ケアの実施手順と留意点の理解、医療的ケアにより生じる危険の理解と安全の確認方法、急変事故発生時の対応と事前の対策等について取り扱う。							
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全適切に実施するために主体的に学び、基本的技術を修得する。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) 高齢者・障害児・者の「たんの吸引」概論④ 吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応や説明と同意について学び、子どもの吸引の特徴について理解する				テキストの該当する箇所を読んでおくこと。 (120 分)			
2) 高齢者・障害児・者の「たんの吸引」概論⑤ 呼吸器系の感染と予防について学び、危険性と安全確認について学ぶ							
3) 高齢者・障害児・者の「たんの吸引」概論⑥ たんの吸引により生じる危険と安全確認、対応について学ぶ							
4) 高齢者・障害児・者の「たんの吸引」概論⑦ 急変・事故発生時の対応と事前対策について学ぶ							
5) 高齢者・障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説① たんの吸引で用いる器具・機材とそのしくみ、吸引の一連の流れについて学ぶ							
6) 高齢者・障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説② 吸引の一連の流れと各段階の注意点について学ぶ							
7) 高齢者・障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説③ 吸引の一連の流れと各段階の注意点について学ぶ							
8) 高齢者・障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説④ 吸引の一連の流れと各段階の注意点について学ぶ							
9) 高齢者・障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説⑤ たんの吸引に伴うケアについて学ぶ							
10) 高齢者・障害児・者の「たんの吸引」実施手順解説⑥ 医療職への確実な報告・連絡、確実な記録について学ぶ							
11) 高齢者および障害児・者の「経管栄養」概論③ 経管栄養法とはなにかについて学び、経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちを理解する							
12) 高齢者および障害児・者の「経管栄養」概論④ 注入する内容に関する知識と留意点							
13) 高齢者および障害児・者の「経管栄養」概論⑤ 子どもの経管栄養について学び、実施上の留意点について理解する							
14) 高齢者および障害児・者の「経管栄養」概論⑥ 経管栄養に関する感染と予防について学び、経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認について理解する							
15) 高齢者および障害児・者の「経管栄養」概論⑦ 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認について理解し、急変事故発生時の対応と事前対策について学ぶ							
16) 高齢者・障害児・者の「経管栄養」実施手順解説① 経管栄養で用いる器具・機材とそのしくみ、清潔の保持と、一連の流れについて学ぶ							

17) 高齢者、障害児・者の「経管栄養」実施手順解説② 経管栄養の一連の流れと各段階の注意点について学ぶ	
19) 高齢者、障害児・者の「経管栄養」実施手順解説④ 経管栄養に必要なケアについて学ぶ	
20) 高齢者、障害児・者の「経管栄養」実施手順解説⑤ 医療職への確実な報告・連絡、確実な記録について学ぶ	
[使用テキスト] 「最新 介護福祉士養成講座」第15巻 医療的ケア（中央法規）	
[参考文献] 別途指示する	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（ %）	
②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（ 100 %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2011439

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア演習		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 河野・納谷・羽鹿	
授業の回数	5 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	3 セメスター
				卒業：選択	資格：必修
☒ 実務経験		看護師としての経験を活かし講義する			
[授業の目的・ねらい] 医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全適切に人権を尊重し実施できるよう、必要な技術を演習により修得する。演習は集中講義で実施する。なお医療的ケア演習は医療的ケア概論・各論の履修を終えていなければ履修できない。					主に対応するDP 2
[授業全体の内容の概要] 医療的ケア演習では、医療的ケア概論・各論で学んだ知識をもとに、医療的ケアを安全に実施するための実施手順を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 療職との連携のもとで、医療的ケアを安全適切に実施するための、基本的技術を修得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 医療的ケア演習のオリエンテーション及び演習評価(実技試験)に関するオリエンテーション				テキストの該当する箇所を読み、テキスト付属のDVDで手順を確認する。(120分)	
2) 喀痰吸引（口腔内吸引・鼻腔内吸引）					
3) 喀痰吸引（気管カニューレ内部の吸引）					
4) 経管栄養（経鼻 胃ろう又は腸ろう）					
5) 経管栄養（経鼻 胃ろう又は腸ろう） 救急蘇生法演習					
6)					
7)					
8)					
9)					
10)					
11)					
12)					
13)					
14)					
15)					
[使用テキスト] 「最新 介護福祉士養成講座」第15巻 医療的ケア（中央法規）					
[参考文献] 別途指示する					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ 100 %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する ☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

2011430

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） キャリアアップゼミナールⅢ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 石田・鴻上・瀬・永原	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 3 セメスター	卒業：必修		資格：必修
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] それぞれのゼミでの活動をととして、さまざまな社会福祉の現実に触れ、またさまざまな人との出会いをととして、介護や福祉に対する深い関心を醸成する。さらに、その関心から主体的に学び、自ら考えられる力を身につける。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 学生の興味関心に沿ってそれぞれのゼミにおいて活動を行う。また、キャリアアップ指導、進路指導等を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 活動をととして今日の社会福祉に関する問題点や課題を明らかにし、その事実や本質を説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：前年の振り返りとスケジュールについて					
2)～15) 全体もしくはそれぞれのゼミにおいて、学習活動を行う。内容については、学生の興味関心や状況に応じて決定していく。また、その学びをまとめ、発表する。			内容に応じて、都度指示する。		
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 必要に応じてゼミ指導教員が提示する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
② 到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（100%）		授業への参与度、課題、発表			
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 最終講にて、各担当教員よりフィードバックを行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3110533

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） キャリアアップゼミナールⅣ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 石田・鴻上・瀬・永原	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 4 セメスター	卒業：必修	資格：必修	
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] それぞれのゼミでの活動をととして、さまざまな社会福祉の現実に触れ、またさまざまな人との出会いをととして、介護や福祉に対する深い関心を醸成する。さらに、その関心から主体的に学び、自ら考えられる力を身につける。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] キャリアアップゼミナールⅢからの継続として、それぞれのゼミにおいて活動を行う。また、キャリアアップ指導、進路指導等を行う。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 活動をととして今日の社会福祉に関する問題点や課題を明らかにし、その事実や本質を説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション					
2)～15) 全体もしくはそれぞれのゼミにおいて、2年間の学びの集大成となるような学習活動を行う。内容については学生の興味関心や状況に応じて決定していく。また、その学びをまとめ、発表する。			内容に応じて、都度指示する。		
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 必要に応じてゼミ指導教員が提示する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
② 到達度の確認（ %）					
②実技・作品発表等（100%）		授業への参与度、課題、発表			
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 最終講にて、各担当教員よりフィードバックを行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3110544

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 福祉のための日本語Ⅲ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 半田 比奈子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 3 セメスター	卒業：留学生必修		資格：留学生必修
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 総合的な日本語（聴く、話す、読む、書くの4技能）の基礎を確認し、学んだことを活用してコミュニケーションができる実践的な力を伸ばす。学生生活や介護の現場でつかわれる基本的な言葉について、意味を理解し活用できるようになる。福祉施設での就労を意識し必要なコミュニケーションスキル、ビジネスマナーを身につける。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 聴く、話す、読む、書く、それぞれを介護記録や専門的な授業の資料を例に用いて確認する。單元ごとに学んだことを活用して利用者とのコミュニケーション、報告ができる実践的な力を伸ばす。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 授業での日本語の聞き取りができ、大切な情報、必要な情報が把握でき、わからないことを質問できる。聞いたことをメモする、聞いたことに答えるなど、聞く作業を中心に他の技術（書く、話す等）も取り入れた活動ができるようになる。介護記録を読み理解することができる。利用者の要求を伝えたり、答えたりできる。N2 相当の日本語が理解でき、初級の日本語がよどみなく使用できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション講義内容・受講のルールを説明する ポートフォリオの説明					
2) 食事に関する日本語 ・食事介助での声かけの練習（食事の名前 等） ・食事に関する報告、報告文書の作成 ・栄養に関する説明文を読む			漢字確認テスト① ウォーミングアップワークブック P1-4 【所要時間：30 分】		
3) 排泄に関する日本語 ・排泄介助での声かけの練習 ・排泄に関する報告、報告文書の作成 ・排泄に関する説明文を読む			漢字確認テスト② ウォーミングアップワークブック p5-8 【所要時間：30 分】		
4) 移乗に関する日本語 ・移乗介助での声かけの練習 ・移乗に関する報告、報告文書の作成 ・説明文を読む ボディメカニクス他			漢字確認テスト③ ウォーミングアップワークブック p9-12 【所要時間：30 分】		
5) 高齢者の主な病気 1（生活習慣病・誤嚥性肺炎・失禁・目と耳と口・心臓・脳・認知症）に関する日本語 ・体調が悪い人への声かけの練習 ・病気の報告、 ・病気の説明文を読む			漢字確認テスト④ ウォーミングアップワークブック p13-16 【所要時間：30 分】		
6) 高齢者の主な病気 2（骨・廃用症候群・褥瘡・感染症）に関する日本語 ・体調が悪い人への声かけの練習 ・病気の報告、 ・病気の説明文を読む			漢字確認テスト⑤ ウォーミングアップワークブック p17-20 【所要時間：30 分】		
7) 第 1 回から 6 回までの到達度テスト（語彙、会話） ○漢字クイズ・オノマトペ確認			30 分程度の筆記テスト・会話テスト（発音・スムーズな会話ができるか）【所要時間:30 分】		
8) チームアプローチに関する日本語 ・他業種の人への報告 ・他業種の業務内容の説明文を読む			漢字確認テスト⑥ ウォーミングアップワークブック p21-24 【所要時間：30 分】		
9) 介護過程に関する日本語 ・介護過程に関する説明文を読む ・グループワークにてまとめて発表			漢字確認テスト⑦ ウォーミングアップワークブック p25-28 【所要時間：30 分】		
10) 法律に関する日本語 ・法律文をやさしくして読む			漢字確認テスト⑧ ウォーミングアップワークブック p29-32		

国の仕組み、年金制度についてグループワークにてまとめて発表 ・よく出る文法・漢字	【所要時間：30分】
11) 法律に関する日本語 ・法律文を読む ・介護制度について文を読み、自分の考えた日本語で発表する	漢字確認テスト⑨ ウォーミングアップワークブック p33-35 【所要時間：30分】
12) 生活支援に関する日本語 ・更衣着脱介助の声かけの練習 ・口腔ケアに関することば ・衣類のことば ・洗濯・掃除のことば	漢字確認テスト⑩ ウォーミングアップワークブック まとめのテスト① 【所要時間：30分】
13) 障害に関する日本語 ・障害に関する説明文を読む ・障害者の支援制度などについてグループワークにてまとめる	漢字確認テスト⑪ ウォーミングアップワークブック まとめのテスト② 【所要時間：30分】
14) 授業の振り返りまとめ 到達度確認テスト	今までの復習 (語彙・文法・会話)
15) 各回にまとめたものを再度発表し、お互いに確認をする。	
[使用テキスト] スリーエーネットワーク『介護の日本語 基本のことば』三橋麻子他著	
[参考文献] スリーエーネットワーク『介護の日本語 基本の知識』三橋麻子他著 スリーエーネットワーク『生活知識とコミュニケーション』三橋麻子他著 『シャドーイングで学ぶ介護の日本語声かけ表現集』田辺淳子著 凡人社 一般社団法人 国際交流&日本語支援Y 介護の言葉と漢字国家試験対策 ウォーミングアップ 一般社団法人 国際交流&日本語支援Y 介護の言葉と漢字国家試験対策 ウォーミングアップ ワークブック 新完全マスターN2 文法 (英語版) スリーエーネットワーク	
[評価の実施方法と基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (80 %)	毎回のテストと授業内に行われたテストで測る
②実技・作品発表等 (20%)	【場面設定された会話において、既習文法を使用して適切に表現できるか。】
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 筆記試験・レポート課題について、正答・解答のポイント等を試験終了後に開示する。	
[備考] 授業内で毎回のテスト実施のため定期試験は予定なし。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

5330538

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 福祉のための日本語Ⅳ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 講義		授業担当者 半田 比奈子			
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	4 セメスター	卒業：留学生必修	資格：留学生必修
□ 実務経験							
[授業の目的・ねらい] 総合的な日本語（聴く、話す、読む、書くの4技能）の基礎を確認し、学んだことを活用してコミュニケーションができる実践的な力を伸ばす。学生生活や介護の現場でつかわれる基本的な言葉について、意味を理解し活用できるようになる。業務に関する専門用語を理解できるようになる。							主に対応するD P 5
[授業全体の内容の概要] 聴く、話す、読む、書く、介護の専門的な資料を用いて確認する。単元ごとに学んだことを活用して利用者や施設関係者とコミュニケーションができる実践的な力を伸ばす。国家試験問題をつかって日本語文法表現の理解を図る。							
[授業終了時の達成課題（到達目標）]介護現場の申し送りで聞き取りができ、大切な情報、必要な情報が把握できる。問題発生時の状況を報告できる。ケアプランに合わせどのように行動するか書ける。漢字をみてその意味を推測できる。国家試験の総合問題の意味を理解することができる。初級の日本語がよくみなく使用できる。							
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]			
1) 国家試験によく出る文法 ことがある がち 際 ず べき とともに 長い漢字のことば 指示を聞いてメモをとり、報告をする				漢字確認テスト① わかりにくい漢字ウォーミングアップワークブック p 40-41【所要時間：30 分】			
2) 国家試験によく出る文法 ～により ～に基づく ～に関して ～において ～に対して 長い漢字のことば 指示を聞いてメモをとり、報告をする				漢字確認テスト② わかりにくい漢字ウォーミングアップワークブック p 42-43【所要時間：30 分】			
3) 国家試験によく出る文法 接続詞 接頭語・接辞語 話し言葉と書き言葉 指示を聞いてメモをとり、報告する				漢字確認テスト③ わかりにくい漢字ウォーミングアップワークブック p 44-45【所要時間：30 分】			
4) 1 回から 3 回までの復習 介護士として働くことについて 自由作文				漢字確認テスト④ わかりにくい漢字ウォーミングアップワークブック p 46-47【所要時間：30 分】			
5) 国家試験にでることば 人間と尊厳と自立 人間関係とコミュニケーション ・段階別事例問題 読解 ・過去問題				漢字確認テスト⑤ わかりにくい漢字ウォーミングアップワークブック p 48-49【所要時間：30 分】			
6) 国家試験にでることば 社会の理解 ・段階別事例問題 読解 ・過去問題				漢字確認テスト⑥ わかりにくい漢字ウォーミングアップワークブック p 50-51【所要時間：30 分】			
7) 国家試験にでることば 介護の基本 ・段階別事例問題 読解 ・過去問題				漢字確認テスト⑦ わかりにくい漢字ウォーミングアップワークブック p 52-53【所要時間：30 分】			
8) 国家試験にでることば コミュニケーション技術 ・段階別事例問題 読解 ・過去問題				基本のことばより『カタカナの言葉』 20 分 【所要時間：15 分】			
9) 国家試験にでることば 生活支援技術 ・段階別事例問題 読解 ・過去問題				基本のことばより『対義語』 20 分 【所要時間：15 分】			
10) 国家試験にでることば 介護過程 ・段階別事例問題 読解 ・過去問題				ウォーミングアップより 『わかりにくい漢字』①② 【所要時間：30 分】			
11) 国家試験にでることば 発達と老化の理解 ・段階別事例問題 読解 ・過去問題				ウォーミングアップより 『わかりにくい漢字』③ 【所要時間：30 分】			

12) 国家試験対策 認知症の理解 ・過去問題 ・総合問題の精読	ウォーミングアップより 『わかりにくい漢字』④ 【所要時間：30分】
13) 国家試験 障害の理解 ・段階別事例問題 読解 ・過去問題	ウォーミングアップより 『わかりにくい漢字』⑤⑥ 【所要時間：30分】
14) 国家試験対策 こころとからだのしくみ・医療的ケア ・段階別事例問題 読解 ・過去問題	ウォーミングアップより 『わかりにくい漢字』⑦ 【所要時間：30分】
15) 授業の振り返りとまとめ 到達度の確認を行なう。	筆記テスト（既習語彙、文法、国家試験過去問）・会話（既習文法を使って報告ができるか） 【所要時間：20分】
[使用テキスト] スリーエーネットワーク 『介護の日本語 基本のことば』三橋麻子他著	
[参考文献] 一般社団法人 国際交流&日本語支援 Y 介護の言葉と漢字国家試験対策 ウォーミングアップ 一般社団法人 国際交流&日本語支援 Y ウォーミングアップワークブック ・ 段階別事例問題読解 一般社団法人 国際交流&日本語支援 Y 新カリキュラム I II III 問題集 『シャドーイングで学ぶ介護の日本語声かけ表現集』田辺淳子著 凡人社 新完全マスターN2 文法 （英語版）スリーエーネットワーク 会話で学ぼう介護の日本語 中央出版	
[評価の実施方法と基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（80%）	毎回のテストと授業内に行われたテストで測る
②実技・作品発表等（20%）	【場面設定された会話において、既習文法を使用して適切に表現できるか。】
【定期試験】	
①筆記試験（%）	
②レポート（%）	
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	
平常点評価	☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
筆記試験・レポート課題について、正答・解答のポイント等を試験終了後に開示する。	
[備考]	
授業内の毎回のテスト実施のため定期試験は予定なし。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

5330549

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 国家試験基礎演習Ⅰ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 永原 直子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3 セメスター	卒業：選択	資格：必修	
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 国家試験受験のための基礎的知識を確かなものにする。すべての領域について自分自身で知識を確認し、不明な部分は調べるなどして主体的に学び、自ら考え説明できるようになる。					主に対応するDP 3
[授業全体の内容の概要] 授業内にて国家試験受験に必要な最低限の内容についてワークブックを実施しながらグループワークを通して復習する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 国家試験受験に必要な基本的知識について理解し、他者に説明することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 授業の進め方および学習の仕方について説明する。			これまで学習したすべての科目について教科書、ノート等を見返しておくこと（1時間）		
2)～15) 「合格ドリル」の指定箇所について、各自で実施し、グループワークを通して他者に説明する。			前回の内容を復習し、内容を説明できるようにしておく。また、「合格ドリル」の指定箇所が終わっていない場合は終わらせておくこと。（2時間）		
15) 授業内試験					
[使用テキスト] 「書いて覚える！合格ドリル2024」中央法規出版					
[参考文献] 「介護福祉士国家試験受験ワークブック上・下」中央法規出版 「外国人のための介護福祉士国家試験対策2024」一般社団法人国際交流&日本語支援Y					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認（100%）		筆記試験を実施する。			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 試験終了後、希望者を対象に講評と解説を行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3010530

介護福祉学科

授業のタイトル（科目名） 国家試験基礎演習Ⅱ		授業の種類（講義・演習・実技・実習） 演習		授業担当者 永原 直子	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 1 単位	配当 3 セメスター	卒業：選択	資格：必修	
☐ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] これまでの学習を総復習し、国家試験受験のための基礎的知識を確かなものにする。すべての領域について自分自身で知識を確認し、不明な部分は調べたり、理解したことを他の学生へ説明するなどして主体的に学び、一問一答形式の問題が解けるようになる。					主に対応するD P 3
[授業全体の内容の概要] 国家試験受験のための学習方法を示し、学生個人の学習進度等を確認する。また、問題を繰り返し示し、基本的な内容について確認する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 基本的知識に基づいて問題を理解し、一問一答形式の問題を解くことができるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 授業の進め方と学習方法について説明する。 一問一答に取り組みながら、自己の知識を確認し、理解できないことは調べ、理解したことを他の学生へ説明する。			これまで学習したすべての科目について教科書、ノート等を見返し復習しておく（10 時間）		
2) 人間と社会：一問一答の確認を行う			毎回、「一問一答」の指定された範囲について、完全に正答できるように準備しておくこと。（各 2 時間）		
3) 人間と社会：一問一答の確認を行う					
4) 人間と社会：一問一答の復習を行う					
5) ころとからだのしくみ：一問一答の確認を行う					
6) ころとからだのしくみ：一問一答の確認を行う					
7) ころとからだのしくみ：一問一答の確認を行う					
8) ころとからだのしくみ：一問一答の確認を行う					
9) 人間と社会、ころとからだのしくみ：一問一答の復習を行う					
10) 介護：一問一答の確認を行う					
11) 介護：一問一答の確認を行う					
12) 介護：一問一答の確認を行う					
13) 総復習：一問一答の復習を行う					
14) 総復習：一問一答の復習を行う					
15) 授業内試験					
[使用テキスト] 「介護福祉士国家試験一問一答ポケットブック 2024」中央法規出版 「書いて覚える！合格ドリル 2024」中央法規出版					
[参考文献] 「介護福祉士国家試験受験ワークブック上・下」中央法規出版 「外国人のための介護福祉士国家試験対策 2024」一般社団法人国際交流&日本語支援 Y					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認（100%）		授業内で実施した「一問一答」の中から出題する。			
②実技・作品発表等（ %）					
【定期試験】					
①筆記試験（ %）					
②レポート（ %）					
③実技試験（ %）					
④面接試験（ %）					
平常点評価		☐ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		☒ 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 試験後に希望者を対象に講評と解説を行う。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

3010531